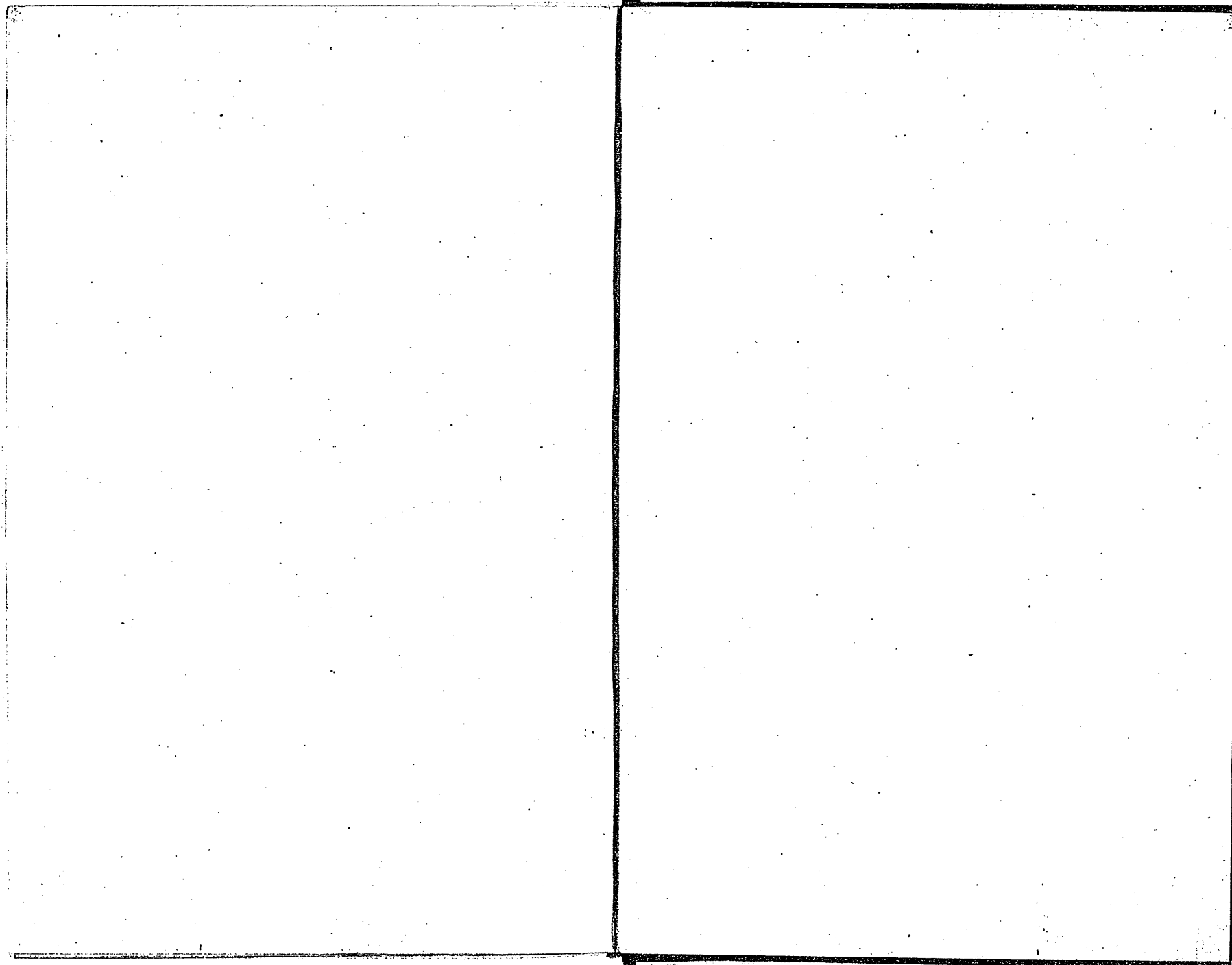


K220.28

39

220.28

39



本莊太一郎 著
草野甚太郎

本邦の部

訂正 四新日本地理

東京

合資會社 吉川弘文館發行

43.12.21

丙寅

一、統計は主として日本帝國第二十八統計年鑑第二十
 五次農商務統計表による。
 一、部邑の人口は内閣統計局に於て調製せる人口表に
 より、明治四十一年末現住人口を採り、
 一、氣候に關する調査は降雪日數に明治四十一年の事
 實を採用したる外、他は概て各測候所創立以來の平
 均數により、溫度は攝氏によりて示す。

訂正四新日本中等地理 本邦の部 目次

緒 説	一
方位・經緯度	一
地球儀・地圖	一
總 說(上)	四
一、版圖・國民	四
版 圖	四
國 民	四
二、地形	四
山系・火口脈	四
水系・平野	九
海岸線	九
三、氣候	九
氣 溫	九
風 雨	九
四、天産	一
植 物	一
動 物	一
礦 産	一
地方誌	一
一、首府東京	一

二、關東地方

地 形
人口・都會
東京府
千葉縣
群馬縣

氣 候
交通
神奈川縣
茨城縣

產 業
沿革府縣制
埼玉縣
栃木縣

一六

三、奥羽地方

地 形
人口・都會
福島縣
山形縣

氣 候
交通
宮城縣
秋田縣

產 業
沿革府縣制
岩手縣
青森縣

三〇

四、本州中部地方

地 形
人口・都會
靜岡縣
岐阜縣
富山縣

氣 候
交通
山梨縣
長野縣
石川縣

產 業
沿革府縣制
愛知縣
新潟縣
福井縣

四三

五、近畿地方

地 形
人口・都會
大阪府
三重縣
兵庫縣

氣 候
交通
京都府
奈良縣

產 業
沿革府縣制
滋賀縣
和歌山縣

七九

六、中國地方

地 形
人口・都會
岡山縣
鳥根縣

氣 候
交通
廣島縣
島根縣

產 業
沿革府縣制
山口縣

八八

七、四國地方

地 形
人口・都會
德島縣
高知縣

氣 候
交通
香川縣

產 業
沿革府縣制
愛媛縣

九六

八、九州地方

地 形
人口・都會
福岡縣

氣 候
交通
佐賀縣

產 業
沿革府縣制
長崎縣

熊本縣	大分縣	宮崎縣	一二二
鹿兒島縣	沖繩縣		
九臺灣			
地 形	氣 候	產 業	
人口・都會	交通	沿革・政治	
東 部	中部	南部	
北 部	澎湖		
二、北海道			一二〇
地 形	氣 候	產 業	
人口・都會	交通	沿革・政治	
西 部	中部	東 部	
東 部	千島		
二、樺太			一二九
地 形	氣 候	產 業	
人口・都會	交通	沿革・政治	
三、朝鮮			一二二
地 形	氣 候	產 業	
人口・都會	交通	沿革・政治	

中 部	南 部	北 部	
附、關東州及び南滿洲			一三九
海洋面の日本			一四一
一、太平洋面			一四二
海流・水産	港	交通	
二、日本内海			一四五
航 路	港	水 産	
三、日本海東支那海黄海			一四八
海流・水産	港	交通	
總 說 下			一五二
一、産業			一五二
農 業	牧 畜	林 業	

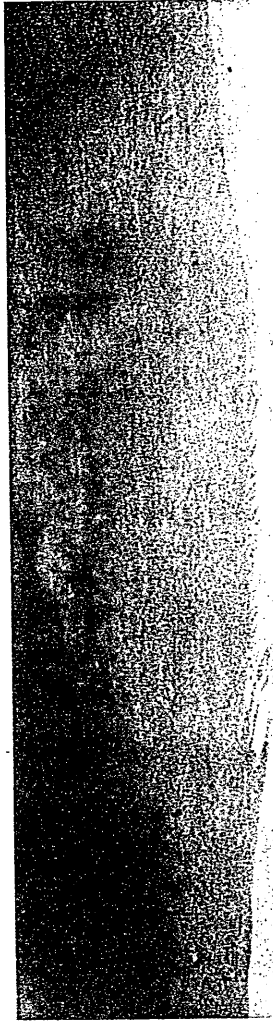
礦業	漁業	工業
二、商業交通	交通	一五五
三、國民	人口	一五七
神社	民族	一五七
宗教	教育	一五七
四、政體		一六〇
五、軍備		一四二
挿入圖版		
富士山	口繪	
領土及山系圖	六間	
富士山地形圖	一四〇間	
帝國の四隣及國民分布圖	一四〇間	
日本内海燈臺圖	一四一	
重要蠶絲生產及消費圖	一五四間	
本邦重要輸出入品國別圖	一五五間	

附錄寫眞版

第一圖	二重橋	第二一圖	神武天皇畝傍山東北陵
第二圖	橫濱港燈臺	第二二圖	那智瀧
第三圖	弘道館碑六角堂	第二三圖	造船臺上に於ける新造船
第四圖	榎名富士と榎名湖	第二四圖	赤穂鹽田
第五圖	日光陽明門	第二五圖	駿島神社全景
第六圖	松島	第二六圖	松江市と興道湖
第七圖	釜石礦山本工場	第二七圖	栗林公園の一部
第八圖	小坂鎮山鎔鐵場	第二八圖	鎌田堰
第九圖	小坂市街尾樟部方面	第二九圖	三池炭山の一部
第一〇圖	山形縣袖浦海岸の砂丘	第三〇圖	阿蘇火山
第一一圖	富士山(田子浦より遠望)	第三一圖	椎井培養
第一二圖	孫寶水利組合排水の實況	第三二圖	宮崎縣林業
第一三圖	瀬戸陶器窯と附近の禿山	第三三圖	鹿児島市街と櫻島
第一四圖	平野村製絲場	第三四圖	檳榔樹の植林(嘉義附近)
第一五圖	宮川油田の噴油	第三五圖	甘蔗の收穫(鹽水港)
第一六圖	二田村長嶺四谷礦場油井	第三六圖	臺灣天日製鹽場
第一七圖	羽二重工場内部	第三七圖	臺灣の村落
第一八圖	琵琶湖疏水インクライン	第三八圖	濁水溪の鐵橋
第一九圖甲	内宮正殿	第三九圖	臺灣蕃人
第一九圖乙	内宮境内	第四〇圖	昆布の乾燥と粹鱈
第二〇圖	英虞灣眞珠養殖場	第四一圖	殿松林

第四二圖	北海道新開墾地	第四九圖	京城南大門
第四三圖	馬掛(新冠牧場内)	第五〇圖	京城市街の一部
第四四圖	アイヌ人と其居宅	第五一圖	開城の人參畑
第四五圖	新冠御料牧場の放牧	第五二圖	サラブレッド種牡馬
第四六圖	海豹島海岸の臘腸獸群集	第五三圖	ブラウンズウイス種牡牛
第四七圖	眞岡港	第五四圖	杉局柏泥滑人造林
第四八圖	朝鮮人上流社會の風俗		

富 士 山

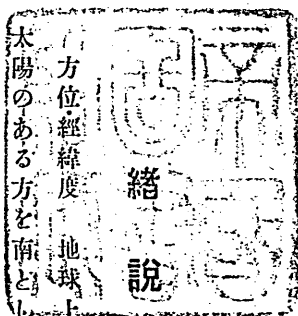




訂正 新日本中等地理

本邦の部

草 本
野 莊
甚 太
太 一
郎 郎
著



地球の四き
ことと、船
の出入、東
西各地の時
の差、世界
の航行等、
實に、より
知るべし。

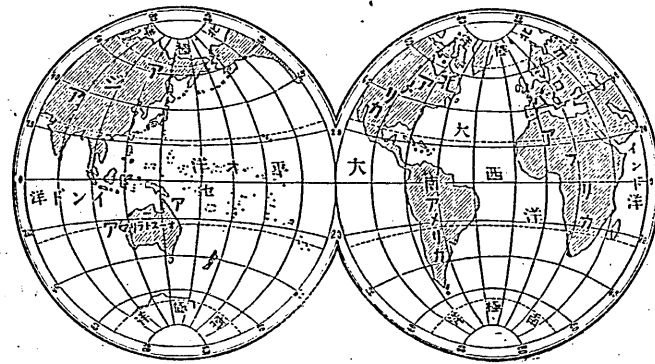
線を零度の經線といふ

方位經緯度 地球上の位置を表はすには方位と經緯度とによる。正午に太陽のある方を南とし同時に物の影の指す方を北とす。この南北線と正十字形に交る線を引けば、その兩端は東西を指す。東西南北はこれを四方位といふ。又四方位の間に北東南東南西北西等の方位あり。

經緯度は經緯線によりて、これを定む。經線は地球の南北兩極を通じて、想像せる地表の大圈にして、これによりて、地表を三百六十に等分すれば、その一部を一經度といふ。經度はイギリス國グリニチ天文臺を通過する經線を零度とし、それより東西に數へて各百八十度に至る。緯線は經線と正十字

第一圖
五大洋洲

經緯度は、地球の表面に於て、赤道より南北に各九十度に至る。緯度は、赤道より南北に數へて各九十度に至る。今經緯度にて帝國及び東京天文臺の位置を示さば左の如し。



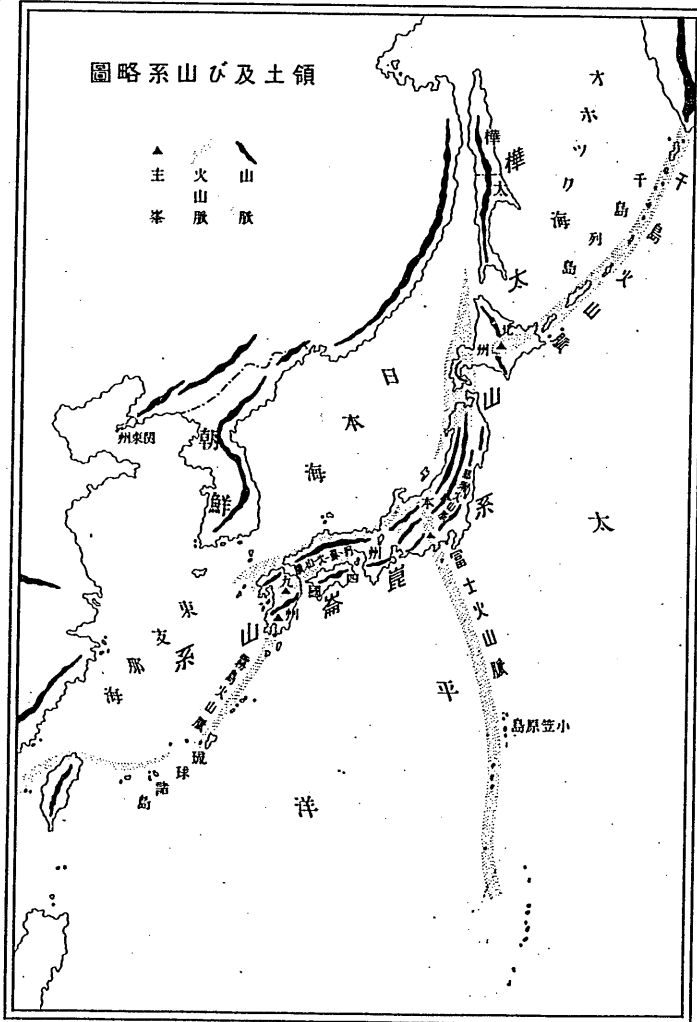
形をなして、東西に地球を一周する並行圈にして、南北兩極よりの中間にひける緯線は即ち赤道なり。赤道の南北を緯線にて各九十に等分すれば、その一部を一緯度といふ。緯度は赤道より南北に數へて各九十度に至る。

今經緯度にて帝國及び東京天文臺の位置を示さば左の如し。

北端	千島アライト島	北緯	五一度
南端	臺灣南端	同	二二度
東端	千島シムシユ島	東經	一五六度
西端	澎湖列島	同	一一九度
東京	天文臺	北緯	三五度三九分一六秒
		東經	一三九度四四分三〇秒

氣候帶 氣候は緯度の高低に従つて異なるを常とす。赤道の南北各二十三度半までの地を熱帶更にそれより各六十六度半までの地を溫帶又溫帶より兩極までを寒帶といふ。溫帶は最も人文の發達に適す。帝國の大部分は北溫

圖略系山び及土領



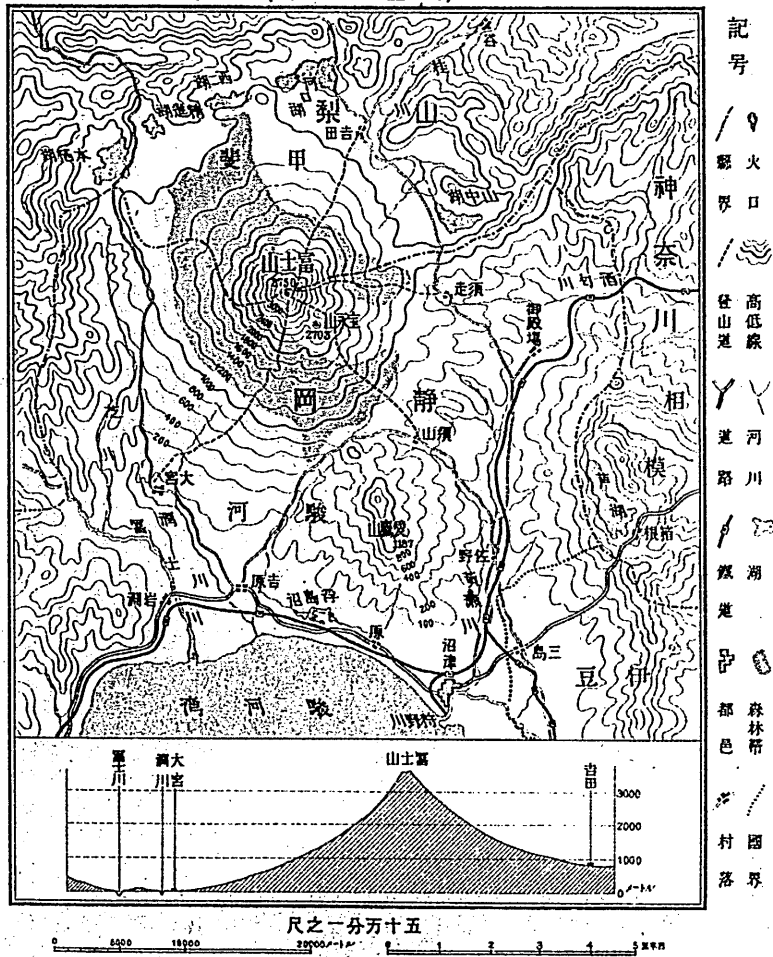
上方の示線は、常に北を向く。又、矢は、常に北を示す。

帯にあり。

大洲と大洋 地球の表面は水陸二部に分れ、水面は陸地よりも廣く、その面積凡そ三と一との割合をなす。陸にはアジア(亜細亞)ヨーロッパ(歐羅巴)又は歐洲、北アメリカ(北米)、南アメリカ(南米)、オセアニア(大洋洲)、アフリカの六大洲あり。水面には太平洋、大西印度の三大洋、及び南北兩極洋の別あり。我が國は太平洋の中において、アジア唯一の島帝國なり。

地球儀地圖 地球の形體及びその表面の有様を表はしたるものを地球儀といひ、地球表面の全部又はその一部分の有様を平面上に表はしたるものを地圖といふ。何れも經緯度その他、地面の高低山河都邑、交通路等をいろいろの記號を用ひて描きたるもの(富士山の例)なれば、地理を學ぶには缺くべからざるものなり。

富士山の圖 (例一の圖地)



總説 上

一 版圖・國民 新日本中等地圖 第一圖參照

版圖 我が大日本帝國の領土は本州・四國・九州・北海道・本島・臺灣・樺太その南部の六大島・千島・琉球・小笠原の諸列島及びその屬島並にアジア大陸の朝鮮半島より成り、而積凡そ四萬三千方里あり。清國遼東半島の關東州、亦我が主權の下にあり。又オホツク海・日本海・東支那海及び北太平洋の西部は主として、我が海上權の加はる所なり。

國民 建國以來萬世一系の天皇を戴ける大和民族にて、その他に、北海道・樺太に住めるアイヌ族、臺灣に住める臺灣人、及び蕃人、朝鮮に朝鮮人等あり、總數六千餘萬に達す。

二 地形 新日本中等地圖 第二圖參照

人口密度
朝鮮
一平方
里に
千八百
餘人
を
有す
我國
の
平均
人口
密度
は
一
平方
里に
約
三百
餘人
を
有す

帝國の全長千二百里を超ゆれども、その幅は最も廣き所にて、百里に過ぎず。内地は山多くして、諸川の流域を限り、平野を分つ。

一、山系・火山脈 帝國の地體は主に樺太・崑崙・臺灣の三大山系、富士・千島・霧島・那須・阿蘇の五大火山脈によりて成る。

樺太山系は樺太島に起りて、殆ど南北に連り、北海道本島を経て、本州中部に至る。西樺太・東北・日高・北上・阿武隈・中央分水・關東等の諸山脈あり。山峯概ね高峻なり。那須火山脈は中央分水山脈中に起り、千島火山脈は千島列島を貫きて、北海道本島の中央部に達し、樺太山系に交る。

崑崙山系は支那崑崙山系の續きにして、南西より北東に向ひて九州・四國及び本州の西半部に連り、富士火山脈によりて、樺太山系に接す。九州南部・筑紫・四國・紀伊・赤石・飛驒・中國

等の諸山脈あり。本州中部に至りて高峻を極め、飛驒山脈の一部には日本アルプの稱あり。⁽⁴⁾阿蘇火山脈は筑紫・九州南部兩山脈の間に起る。⁽⁵⁾霧島火山脈は九州南部山脈に交りて起り、南西に連りて臺灣に達す。これに接して琉球島脈あり。

樺太崑崙二大山系の相會する本州中央部には、秀麗無比の富士山あり。高さ一萬二千四百尺に達す。⁽⁶⁾富士火山脈はその南北に通じ、北は日本海に達し、南は太平洋に入りて、南諸島を貫く。その東に接して、小笠原島脈あり。

富士火山脈にて帝國を二大部に別ち、その北東を北日本、南西を南日本とす。又太平洋に面する凸面を表日本、日本海に面する凹面を表日本と稱す。⁽⁷⁾

臺灣山系は臺灣島の東に偏りて、南北に走る。中部に帝國最高の新高山あり。海拔一萬三千二百尺に達す。

⁽⁸⁾朝鮮半島には北境に長白山脈、南部に大白山脈あり。その支派域内に蜿蜒す。

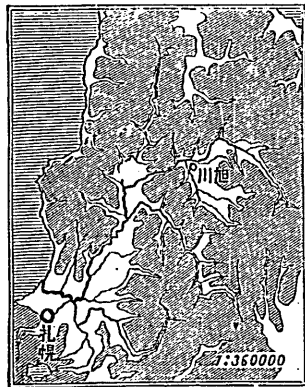
本邦は有名なる火山國にして、火山の數約百九十あり。帝國の名山は概火山なり。日本群島の火山岩は全面積の三割を占む。風景の美なると温泉の多きとはこれに基く。本邦は又地震頗る多く、近時火山學、地震學の進歩を以て世界にその名高し。

水系平野 水系は太平洋及びオホツク海・日本海・東支那海・黃海に分る。南日本には別に日本内海に入るものあり。國土の幅狭く、分水山脈概ね峻しきを以て、河の流れ急にして速く、河口に砂洲あり。雨期には洪水を起し易し。されど又平野を緩かに流れて、國中の大河を成し、通船灌漑の便をなすものあり。平野には河海沿岸の低地と尙ほ一段高き臺地との別あり。又四方山丘に圍まれたる低地は特に盆地といふ。河海沿岸の低地は産業交通の發達に適し、都會起る。

⁽⁹⁾太平洋面の大河には本州に帝國最大の關東平野を流るる利根川、地味最

河と平野と
相會の發達
との關係に
注意せよ

第二圖
川と平野
(石狩川)



も肥えたる濃尾平野を流るる木曾川及び四國に吉野川あり。關東平野に東京前橋水戸宇都宮、濃尾平野に名古屋岐阜吉野川口に近く徳島の都會あり。

(四) 日本内海に注ぐ淀川は畿内平野を流る。大阪京都の二大都この平野にあり。

利根川 八二里 七〇里 六〇二方里
淀川 二〇 一七 一八三

(三) 日本海面の大河には本州に善光寺平越後平野等流るる信濃川あり、長野新潟その沿岸に位す。北州には旭川高原石狩平野を流るる石狩川あり、旭川札幌を沿岸著名の都會とす。又朝鮮には圖們江あり。

(二) 九州の大河、筑後川は東支那海に注ぐ、沿岸の筑紫平野に久留米市あり。

一、山系 北日本 南日本
二、大河 樺太山系南 北に走る 尾道山系東 西に走る 少し
三、平野 大平野多し 小平野多し
四、海岸 稍單調なり 屈曲多し
五、人口 北の方粗 概ね密
六、文化 東京を中心 大阪、京都を中心とす

(甲) 臺灣には臺灣海峡に注ぐ淡水河あり、臺灣の首都臺北その沿岸に位す。
(乙) 朝鮮には黃海面に大河多く、鴨綠江大同江漢江錦江等あり。洛東江は朝鮮海峡に注ぐ。

湖はその數甚だ多く、面積約四十五方里の琵琶湖を最大とし、霞浦これに次ぐ。又山間には火山と密接の關係を有するもの少からず、風景亦頗る佳なり。

海岸線 帝國海岸線の全長七千七百里(朝鮮を除く)に達し、面積に比して、海岸線の長さこと世界にその類稀なり。中にも九州の西岸、本州の南岸等最も著しく、良港灣に富む。

三 氣候

新日本中等地圖
第三圖参照

氣溫 我が邦は大部島國なるを以て、同緯度に當れる大陸の諸地方に比すれば、氣候溫和にて、夏冬の溫差少し。されど、土地南北に延びて、地勢複雑し、且つ大陸及び近海海流の

熱帶に入れる臺灣南部を最高、樺太を最低とす。朝鮮は一般に大陸性なり。東京、灣伊勢、海駿、河灣、日本内海附近は中和の氣候にして、夏冬温度の差最も少なし。

恒春	東京	大泊	仁川
平均溫度	二四、三	一三、七	二、三
			一〇、五

て、夏冬温度の差最も少なし。

吹き來る海風を受け、若くは颶風の衝に當る地方に多く、寒流に洗はるる奥羽・北海道の東部、山脈に圍まれたる日本内海・本州中部・高・原・朝鮮北部等は最も少し。

基 隆	潮 岬	長 野	宗 谷	平均雨量
三四八	二八三	九八五	八五五	耗

四
天產
第三日
新日本
圖中參
照地圖

植物 溫熱二帶に跨るを以て、樹種多く、その主要なるものみにても五十種を下らず、山林の地積亦廣大なり。⁽¹⁾臺灣の平地及び琉球小笠原島は熱帶林にて、榕樹、欖榔、杪羅等の常綠闊葉樹、及び單子葉林木あり。⁽²⁾九州・四國・本州の南部は暖帶林にて、櫟、椎等の常綠闊葉樹あり、臺灣には樟多し。⁽³⁾本州の北部及び北海道・本島・南西部は溫帶林にて、杉、檜等の針葉樹あり。公孫樹は各地に生長す。⁽⁴⁾北海道の大部、樺太及び本州の高山地方は寒帶林にて、蝦夷松、樅松等多し。⁽⁵⁾又朝

鮮の大部は溫帶林にして、北部には樅・朝鮮五葉松・落葉松・樺等、南部には櫟・榎等あり。竹林は本州中部及び四國・九州・臺灣に繁茂し、奥羽の中部以北にはこれを見ず。

動物 動物分布は植物の如く著しき差異なしと雖、亦自ら多少の差異あり。陸産は九州・奥羽に熊あり。四國には猿多し。北海道には猿を見ず。熊これに代る。樺太には馴鹿あり。臺灣には豹・水牛・琉球には飯匙蛇あり。朝鮮には虎・豹あり。鶴亦少からず。近畿・中國の溪間には山椒魚を産す。水産は北海に鰻・鰩・鰐等あり。鯨は多く黒潮に游泳す。又鰺・鰯等の如く、暖流に乗りて來る回游魚多く、沿岸到る處魚族に豊かなり。

礦産 我が邦は地質の變化多く、各種の礦産に富み、銅・石炭・硫黄等殊に多し。金屬礦物は噴出岩に富める地方に多く、

奥羽・飛騨・中國・九州・臺灣・朝鮮には金・銀あり。非金屬礦物はその種類頗る多く、九州・北海道・樺太には重要な炭層あり。石油は裏日本・北部の海岸地方に多く、硫黄は北日本の火山地方に多し。又各種の石材は到る處に産し、本州中部の花崗岩地は陶土に富み、窯業の發達著し。

地方誌

一 首府東京

新日本中幸地圖
第五圖參照

徳川家康の
幕府を開き
しより二百
六十餘年大
江戸の繁昌
を致せり現
今世界の數
々の大都市
の一大都會
なり

*附第一圖
兩師團所屬
の旅團司令
部は概略東
京にあり

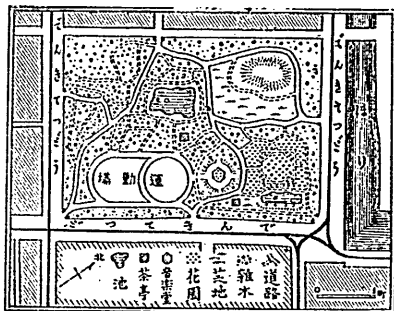
東京は關東平野の南部に位し、隅田川に跨り、東京灣に臨む。全國の首府にして、人口二百十七萬あり。市街は十五區に分れ、又地形上、山、手^{ツマ}下^{シタ}町の別あり。市區改正の事業、漸く進歩し、電話、電燈、電氣鐵道の便、市内に普く、水道の設備全し。宮城は市の中央に位し、その正門に二重橋あり。附近に近衛師團第一師團の司令部をおく。帝國政治の中心地にて、内閣その他中央政府の諸官省、及び各國大使館、公使館あり。又學藝教育の中心地にて、東京帝國大學その他高等専門の諸學校、帝國圖書館、皇室博物館あり。書籍雜誌の出版いよいよ盛なり。實業上大阪と共に、帝國の二大中心地を成し、市の内

外に各種の工場興りて、工業上著しき進歩を示し、商業上には横濱港を一大門口とし、内外貨物の集散多し。

學藝教育の大中心地としては、帝國學士院、東京帝國大學の外、東京高等師範學校第一高等學校、高等商業學校、高等工業學校、商船學校、外國語學校、美術學校、音樂學校あり。又陸軍大學校、士官學校、海軍大學校、海軍兵學校は、陸海軍將校を養成し、學習院は華族の子女を教育す。

工業地としては、官設工場の大なるもの多し。紡績、製紙、製革、麥酒釀造、時計、醫術、理化學の器械製造、印刷業等、頗る盛なり。

交通運輸の機關たる鐵道の起點地としては、上野、新橋、高世橋(工事中)、兩國の四停車場あり。^(イ)新橋より發する東海道線は、畿内地方に達し、^(ロ)中央東線は、萬世橋より起りて、甲信地方に達し、^(ハ)總武線は、兩國より起りて、千葉縣に通ず。^(ニ)上野より



第三圖
日本比谷公

東照宮
淺草寺
増上寺
靖國神社
4321

り起れる東北線は東北地方に通じ、又高崎線を分つ。電氣鐵道は横濱に達し、電話は遙に大阪長崎及び仙臺等に通ず。海運は隅田川口淺けれども、品川横濱と相俟ちて、内外諸港との交通盛なり。本市はまた以上の交通區域に於ける貨物の大集散地にて、日本銀行その他銀行會社の數甚だ多し。

遊覽の地としては、¹上野、²淺草、³芝、⁴九段等、著名の社寺を有する公園あり。日比谷は模範公園と稱せらる。

二 關東地方 新日本中等地圖 第四圖參照

地形 本州表日本の中部を占め、西に關東山脈ありて、甲武信嶽を起し、北に那須火山脈、阿武隈、越後兩山脈連りて、白根・赤城・男體・那須の諸火山、及び八溝山・帝釋山聳ゆ。これより南の大部は利根川の流域にて、その平地六百里に亘り荒川・多摩川・馬入川・那珂川の流域と連りて、帝國最大の關東平原を成す。

利根川は坂東太郎と稱せらる。上野の北境に發し、渡良瀬川・鬼怒川を合せ、江戸川を分ち、又印旛沼・霞浦・北浦を受けて太平洋に注ぐ。その長さ七十餘里あり。流域は關東の大部に亘り、灌溉水運の利大なり。されど、夏季南東風の候往々氾濫の患あり。下流は改修工事既に成り、中流は現に工事中にあり。

海岸は東に犬吠岬ありて、鹿島灘と九十九里濱とを分ち、南は房總・三浦の兩半島突出して、東京灣を擁す。三浦半島の西は相模灣にして、豆南諸島その南に横はる。

氣候 概ね溫和なり。南方海上に位する豆南諸島を除けば、暖流に近く突出せる銚子は平均溫度最も高く、北部の地方及び男體山に近き足尾を氣溫最低の地とす。降雨は多く南方海上より來る南東風に伴ふを常とす。

平均溫度
東京 一三・七
銚子 一四・七
足尾 九・六
父島 二二・三

産業 諸川の中流域は高臺を成して畠多く、麥の產出多

きこと他にその比を見ず、桑畑亦その間に開け、繭蠶絲の産額甚だ多く、機業の盛なること近畿地方に次ぐ。下流域の低地には水田開け霞浦・北浦・印旛沼等は利根川に連接して灌漑交通の利多し。米産多額に上る。水産は半島地なる千葉縣に最も盛に、房總半島の東岸・鹿島灘は帝國重要漁場の一とす。河湖の淡水魚亦都人の食膳に上る。

一
方
里
人
口
四
千
六
百
餘

人口都會 この地方は産業盛に、交通の便よろしく、且つ帝國の首都を含むを以て、人口密度最も大なり。都會は東京を初めとし、横濱・横須賀・水戸・宇都宮・前橋・高崎の七市あり。人口一萬以上の町村五十に及ぶ。

交通 東京を大中心地とし、道路は日本橋を以て各地への里程元標とす。鐵道もまた東京の四方より起る。東海道線・中央東線・東北線・總武線の他、左の諸線あり。交通最も發達

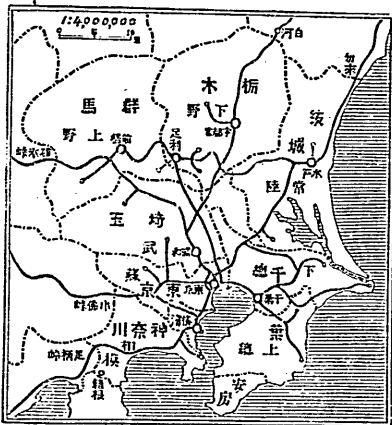
す。

横須賀線	大船・横須賀間	兩毛線	小山・高崎間
横濱鐵道	神奈川八王子間	水戸線	小山・友部間
山手線	品川・赤羽間等	水戸鐵道	水戸・太田間
青梅鐵道	立川・青梅間	日光線	宇都宮・日光間
川越鐵道	國分寺・川越間	佐野鐵道	越前・葛生間
高崎線	大宮・高崎間	龍崎鐵道	佐貫・龍崎間
上武鐵道	熊谷・大宮間	成田鐵道	成田・我孫子間、成田・佐原間、成田・佐倉間
東武鐵道	淺草・東京・伊勢崎間	東金線	大網・東金間
常磐線	東北本線の日暮里驛に起り水戸を経て奥羽に入る	房總線	千葉・大原間

水路は東京灣内及び野島岬・犬吠岬に燈臺あり。東京灣沿岸及び霞浦・北浦・利根川に汽船の便あり。江戸川は利根運河によりて、利根川に水運を通ず。

沿革 府縣制 域内八ヶ國に分れ、關東八州の稱あり、古來勇武を以て名あ

第四圖
管轄東地方
管轄區域



ここに移れり。維新前水戸前橋佐倉小田原等の諸藩あり。現今一府六縣に分轄す。

府縣名	管轄區域	廳所在地	その人口
東京	武蔵の一部、豆南諸島	東京市	二一六、八
神奈川	相模、武蔵の一部	横浜市	三九、三
埼玉	武蔵の一部	浦和市	九
千葉	上総、安房、下総の一部	千葉町	三、二

り源頼朝始めて覇府を鎌倉に開きて天下に號令し、北條氏を経て足利氏に至り、政治の中心を畿内に移したる後は、その一族をして鎌倉を鎮めしめたり。戰國の頃、後北條氏小田原に據り、上杉氏は越後より出てこれと對抗せり。豊臣氏小田原を陥れ、天下を一統するに及びて、徳川氏をここに封ぜり。次いで徳川氏幕府を江戸に開きてより、再び政治の中心

一
方
里
入
口
約
二
萬
五
千

茨城	常陸、下総の一部	水戸市	三、八
栃木	下野	宇都宮市	四、七
群馬	上野	前橋市	四、四

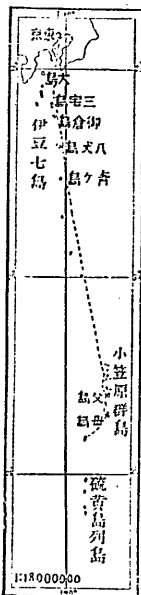
東京府 東京灣に臨める地方の一にて、又豆南諸島を合せ管す。府縣中面積最も狭く、人口最も密なる地方の一とす。織物・綿・絲・洋紙・革類・海苔の産額多く、工場用石炭の消費額亦大なり。東京の周圍には品川・内藤新宿・千住等の市街連り、概ね鐵道・電車の便あり。

八王子は多摩川上流域に位す。養蠶・機業の中心地にて、織物の産多く、染織學校の設けあり。

品川は東京の南にありて、ガラス・煉瓦等の製造所あり。千住は東京の北に位し、荒川に沿ふ、羅紗・板紙等の製造盛なり。

豆南諸島は大島・八丈島等の伊豆七島・小笠原島・硫黄島・鳥島等の總稱なり。大島には三原山の活火山あり。八丈島は絹、

第五圖
豆南諸島



生牛を出す。小笠原島は數多の島より成り、父島・母島最も大なり。氣候甚だ温かにて、砂糖・甘蔗・鳳梨・海龜等の熱帶性動植物を産し、歸化人の子孫少からず。父島の二見港は良港にて、北米合衆國に達する太平洋海底電線の中繼所なり。

神奈川縣 中部に大山^{オホヤマ}聳え、馬入川その東を南流す。西境には箱根・足柄の連山あり。大山の斜面地には葉煙草を産し、秦野^{ハタタケ}をその集散地とす。東部の平地は三浦半島の丘陵に至りて盡き、東京灣岸に横濱市、三浦半島東岸に横須賀軍港、竝に浦賀港あり。南方相模洋沿岸は氣候溫和、海水浴に適し、鎌倉・大磯・小田原等に別荘・旅館の設多し。縣内人口の密なること東京・大阪の二府に次ぐ。水産の利亦大なり。

第六圖
横濱港

◎附第二圖

横須賀造船所は世界第一の大戦艦建造所、一噸の煙囪は三十九間、五十年の歴史あり。式なして進出せられたり。

鎌倉八幡宮、建長寺、四尊大佛、長谷大佛。



横濱市は東京の南汽車一時間程に位す。開港以來發達し、人口三十九萬あり。首府東京の門口、北日本の重要輸出入港にして、輸出茶の再製輸出、漆器の製造盛に、税關正金銀行、日本郵船株式會社、東洋汽船株式會社、及び歐米汽船會社等の支店あり。港には防波堤・棧橋等の設けありて、内外諸港に至る定期航海絶えず。我が生絲羽二重の輸出は殆ど全く此港を經由し、貿易の盛本邦諸港に冠たり。

横須賀市は第一海軍區鎮守府の在る所にて、造船所・海軍機關學校あり。

鎌倉は久しく武家政治の中心たりし所にて、名所舊蹟神社佛閣の存するもの多し。小田原は東に酒匂川^{サカヅカガハ}を帯び、西に箱根山を控へ、東海道國府津驛

第七圖
箱根山地

と箱根山下の湯本村との間に電車鐵道を通じ、南西熱海まで輕便鐵道を通ず。附近の地蜜柑の産多し。

箱根山は休火山にて山上の蘆湖畔に離宮あり、山中七湯の名高く、都人の保養地たり。箱根峠は北方の足柄峠と相待ちて東海道の要害をなし、古湖邊に關門を設けたり。



第八圖
麥産額
全國
一、九七二
埼玉
一、〇
茨城
一、二三



埼玉縣 西部には關東山脈の秩父諸山起伏し、その中大宮盆地あり。大宮を中心として、桑園開け、秩父絹を産す。秩父山以東は關東平野の一部にて、乾燥なる臺地より下りて、江戸川沿岸の低地となる。低地は江戸・利根二川の流域に亘り、米産多く、臺地は畑桑園に富み、麥の産額は茨城縣とともに府縣の首位を占む。藍の産亦多し。養蠶製絲織物業は到る處盛に行

はれ、大宮熊谷川越等の小都邑各地に發達す。

浦和町は縣治の中心として榮ゆ、その北の大宮には鐵道の大工場あり。

熊谷は穀物・織物の取引多し。川越は絹織物・甘藷の産に富む。

千葉縣 南部は房總半島の丘陵地、北部は下總平原にて、縣界に利根川・江戸川を帶び、印旛沼・手賀沼を湛へ、水田の廣きこと關東第一とす。千葉・佐原・銚子等の都會あり。江戸川沿岸の野田・利根川口の銚子は醬油を産し、その産額府縣第一に居る。

第九圖
千葉縣の
平原地方

内部の水利不便の地には習志野・小金原・三里塚等の廣野あり。習志野は陸軍の大演習地、三里塚には下總御料牧場あり。小金原は明治の初年概ねこれを開墾せり。

房總半島の東岸及び九十九里濱は漁業殊に盛にして、鰺・鰹等の漁獲頗る多く、水産の利



府縣第一に位す。西岸には木更津館山等の漁業地あり。

千葉町は縣治の中心地にて、醫學専門學校あり。佐原は有名なる地學者伊能忠敬の出でし所、利根川水運の中心地にて酒麴油を産す。香取神宮はその東里許にあり。千葉佐原の間に位する成田は不動堂を以てその名高し。銚子は醬油鯉節を産し、利根川水運の起點にて、東京に汽船の往復あり。犬吠岬には有名なる燈臺及び無線電信局あり。

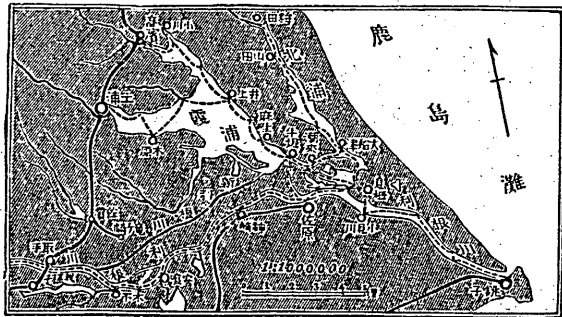
茨城縣 中部には平野の間に聳ゆる筑波山あり。これより北は山多く、那珂川・久慈川その間を流る。北境平潟附近に石炭、太田附近に大理石、筑波附近に花崗石等の礦産あり。南部は利根川の流域にて、鬼怒川・霞浦・北浦等の河湖相連り、沿岸地方水田廣く、水運の便よろし。平野の間に水戸・石岡・土浦・結城等の市町あり。臺地は概ね畑にて麥・大豆・蕎麥・煙草の産額何れも府縣の一二に位す。沿海には湊・磯・濱・平・磯

等の漁場あり。鯉・鰻・鯨の漁獲多し。霞浦は鯉・鰻・眞珠を産す。

第一の關
下利根川
霞浦の汽船
航路

筑波山は平野の間に隆起したる關東の名山にして、山上に故山階宮殿下の設立せられたる氣象觀測所あり。霞浦は本邦第二の大湖にして、周回三十六里、水運の利多く、鯉・鰻・公魚・眞珠を産す。

水戸市は那珂川を帶び、濱街道に當る。東京・仙臺間の大都會にて、徳川氏が親藩を封ぜし地なり。市内に弘道館及び本邦三公園の一と稱せらるる常磐公園あり。附近に第二十七旅團司令部をかく。湊は磯・濱・平・磯の漁場を控へたる市場にて、水戸市との間に汽船を



通ず。

石岡は酒醬油の産多し。土浦は霞浦に臨み水陸交通の便を兼ね市況盛なり。結城は紬を名産とす。北浦の沿岸の鹿島は鹿島神宮を以てその名高し。

特産若くは特種のは、事情は都府會繁昌の一原因なり

◎附第五圖

栃木縣 北境に那須高原等の火山あり。那須鹽原等の溫泉を以てその名高し。裾野は高原地にて、薪炭を産す。開墾の業亦大に進めり。西境には男體・白根等の火山聳え、男體山の東に日光廟、その附近に世界有数の足尾銅山あり。山中各一都會を發達せしむ。中部以南は利根流域の平地廣く、大麻桑を植え、養蠶機業盛なり。鹿沼・栃木・田沼・足利・佐野等の都會あり。南東部には煙草の産多し。

又第二十八旅團司令部あり

宇都宮市は縣治の中心地にて、日光線鐵道の分岐點にあたる。第十四師團司令部をおく。日光は日光廟の結構、中禪

寺湖の幽邃華嚴瀑の壯觀によりて、遊覽の客絶えず。中禪寺湖には鮭・鱒の養魚行はる。

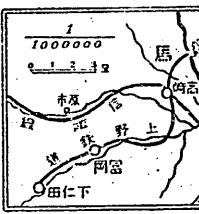
第一一
關東
地方
地圖

鹿沼は大麻の産地にて、製麻工場あり。栃木は生絲木材の取引多し。足利は著名の機業地にて、又有名なる足利學校あり。佐野は歸物を特産とす。

***附第四圖**

群馬縣 那須火山脈諸所に起り、東西の境に各、白根の活火山あり。西境に淺間の活火山、中部に赤城^{アカギ}榛名^{ハルナ}妙義^{ミョウギ}の三山聳ゆ。伊香保草津の溫泉、磯部の鑛泉等あり。平地は北境に發する利根川の中流沿岸に過ぎず。人口は關東中最も粗なり。されど養蠶製絲の盛なることは府縣中只長野縣に譲るのみ。機業亦頗る盛に、桐生・伊勢崎をその中心地とす。

前橋市は生絲取引の大市場にして、關東越後間の要路に



北境の三
峠は上杉
信が關を
出た東に
通る路に
なりき

あたる。桐生は有名の機業地にして、その起源頗る遠く、精良なる織物の産地として、京都と併稱せらる。高崎市は鐵道四通の地、生絲の製造取引多し、西方の富岡には洋式製絲の大工場あり。

三 奥羽地方 新日本中等地圖 第六圖参照

縦谷に河は
並行して
流るる脈
は山に横
断せり

地形 本州の東北部なるを以て、また東北地方とも云ふ。⁽¹⁾ 中央分水山脈その中部を南北に走りて、那須磐梯岩手八甲田等の那須火山脈に屬する諸火山を戴き、地勢を太平洋面と日本海面とに分つ。⁽²⁾ 太平洋の海岸に近く磐城高原を成せる阿武隈山脈、陸中高原を成せる北上山脈ありて、靈山、早池峰等聳ゆ。⁽³⁾ 中央分水山脈との間に阿武隈川、北上川の細長き縦谷を作る。その間に仙臺平原あり。⁽⁴⁾ 又日本海面には岩木山、鳥海山、月山を戴ける鳥海火山脈斷續して數個の

第一二圖
奥羽地方
地形圖

盆地を作り、最上川、御物川、能代川、岩木川これを灌漑す。海岸は⁽¹⁾ 東に牡鹿半島あり、仙臺灣を擁す。これより南の磐城の海岸及び陸奥の東岸の北部は概ね砂濱なれども、その中間に位する陸中の海岸は鋸齒狀の小灣多くして、殆ど平地なし。⁽²⁾ 西岸は八郎潟を擁する男鹿半島ある外、出入少なく砂濱多けれども、酒田、土崎、船川、能代の諸港ありて、各盆地の門口を成す。⁽³⁾ 北部には斗南、津輕の兩半島突出して陸奥灣を擁し、津輕海峽を隔てて北海道本島に對す。青森港その内にあり。氣候 關東に比すれば甚だ寒く、平均溫度は福島を最高とし、青森を最低とす。冬季一般に降雪多く、殆ど雨を見ず。積雪道路を没し、樞を通ず。殊に西岸及び北岸は暖流を帶び、北西風の衝にあたりて、



土地の開拓は地味
土の味は左
拓は地味
氣候は左
右せらる

降雪甚だ多く、東岸北部は寒流に洗はれ、その温度西岸よりも稍低けれど、雪は却て少し。東岸一帯霧多し。

平均温度	雪日数	霧日数
福島 一二・七	福島 七五	金華山 五七
青森 九・一	青森 一二・〇	秋田 一三

産業 〔一〕北東は一般に地味瘠て、田畝開けず。粟・稗の外耕作し難き所あり。〔二〕諸川沿岸の平原地は概ね地味肥えて米産多し。されども氣候寒冷なるを以て、晩稻に適せず。農業の勞苦は關東地方の比にあらず。往往凶作を見る。〔三〕南部三縣は蠶業盛大にて、北部三縣は森林に富む。鑛業・牧馬は中部の地方に盛なり。南部馬は夙に外國種の血液を混じ、各地産馬の改良を促したるもの少からず。

人口都會 面積は關東に倍すれども、人口は却てその半に過ぎず。東海岸は都會極めて少く、西岸には稍多し。阿武隈

縦谷は交通に便
谷には障
害多し

川最上川の沿岸最もよく發達せり。仙臺若松盛岡・山形・米澤・秋田・弘前・青森及び福島の九市を各地方の中心地とす。

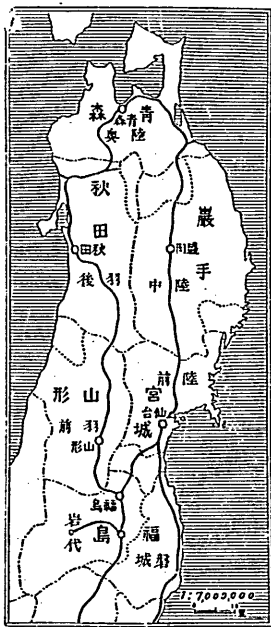
交通 鐵道は東北奥羽の二幹線及び常磐線の一部あり。〔一〕東北線は白河を過ぎてより、阿武隈北上二川の縦谷を通じ、福島仙臺盛岡を連ねて青森に至る。〔二〕奥羽線は福島に起り、概ね、出羽街道に沿ひ、諸川流域の盆地を縫ひ、米澤より北、山形・秋田・弘前を経て、青森に達す。その他左の諸線あり。

岩越鐵道	郡山・喜多方間	小坂鐵道	大館・小坂間
鹽竈線	岩切・鹽竈間	能代線	機織・能代間
八戸線	尻内・湊間		

諸川の盆地に限れる山地は傾斜急にして、板谷院内碓氷關附近に隧道多し。此地方の隧道には、兩端に板垣ひの雪除けを設くるものあり。停車場の入口亦多く雪除けを設く、また線路には人夫を配置して雪を除けども、尙ほ汽車の不通となることあり。

沿革府縣制 古磐城岩代・陸前・陸中・陸奥を單に陸奥と稱し、羽前・羽後を出羽と稱せり。前九年・後三年の役後、藤原清衡・陸奥の鎮守府將軍となりて、平泉に居り、遂に出羽を合す。源賴朝は葛西・清重を奥州奉行となし、南部・伊達相馬の諸族その部下より起れり。戰國の時伊達氏獨り強大なりしが、秀吉これを降して伊達氏以下の封を定め、上杉景勝を會津に封ぜり。後上杉氏は徳川氏のために米澤に徙さる。仙

700,000



第一三圖
奧羽地方
管轄區域

縣名		管轄區域		廳所在地	その人口
福島	岩代、磐城の大部		福島市	三、三〇〇	
宮城	陸前 の大部 、磐城 の一部		仙臺市	九、一五〇	
岩手	陸中 の大部 、陸前 の一部 、陸奥 の一部		盛岡市	三、六〇〇	
山形	羽前、羽後 の一部		山形市	四、〇〇〇	
秋田	羽後 の大部 、陸中 の一部		秋田市	三、四〇〇	
青森	陸奥 の大部		青森市	四、七〇〇	

丘陵高原
は牧場に
適す

福島縣(一) 中部は阿武隈川の流域にして、桑園よく開け、養蠶製絲盛に、又煙草の産多し。福島川俣郡山須賀川白河等の都會あり。(二) 東部は磐城高原にて、靈山北境に聳え、丘陵起伏し、到る處馬を牧して三春駒の名高し。海岸地方は平附近に豊富なる常磐炭田あり。北部の中村は相馬焼に名あり。(三) 西部は岩代中部の猪苗代湖及びその下流日橋川本支流の流

域に當れる會津地方にて、その一部は會津盆地を成し、漆器、陶器等の工業あり。

猪苗代湖の北には磐梯吾妻等著名の活火山聳ゆ。湖水は郡山地方に疏通して灌漑に供せられ、又水力を利用して、電氣を起し、郡山地方工業の原動力とす。

福島市は縣治の中心地にて、生絲羽二重の取引多く、生絲の査定統一を圖る共同荷造所、日本銀行出張所の設あり。商業の盛、奥羽第一と稱せらる。若松市は會津藩の舊城下に、て維新史にその名高く、現今會津地方の中心たり。

川俣は輕目羽二重の産地としてその名海外に高し。

宮城縣 (一) 仙臺平野及び北上、阿武隈二川の沿岸は地味肥え、仙臺米の産地なり。平野には湖沼多く、松島灣頭に近き品井沼は近時排水中にあり。名取川は仙臺平野の中部を流れ、

*附第六圖

奥羽の一大市場たる仙臺市これに跨り、東北鹽竈港を控ふ。又北上川口に石巻港あり。

(二) 北上川は岩手縣に汽船を通じ、又野蒜運河、東名運河に由りて、松島灣にも通ず。又阿武隈川口より鹽竈に至るまでは、伊達政宗の設計に成れる貞山堀あり、河海水運の利大なり。

*松島灣には約三百の小島群布し、島として青松あらざるはなし。鹽竈港は松島遊覽の要地なり。

(三) 牡鹿半島の西岸には萩濱港あり、半島南端の金華山附近は鮪鯨鯨の漁利多し。(三) 西部の火山脈地方は溫泉多く、鬼首の間歇泉はその名高し。その附近は牧馬盛にて、鍛冶谷澤には軍馬補充部あり。

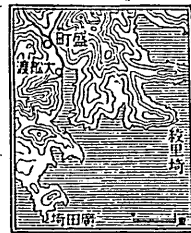
仙臺市は伊達政宗の築城以來東北の大都となり、現今第二師團司令部控訴院、第二高等學校、醫學專門學校、高等工業

又第三旅團司令部あり

學校あり。近時東北帝國大學理科大學をおかる。仙臺平織八橋織は西陣の織法を傳へて、その術精巧なり。石巻は萩濱鹽竈及び一關附近に至る汽船あり。水運の便あれども大船は萩濱に寄泊す。

岩手縣 東部に北上山脈、西境に分水山脈連りて、高原起伏し、未だ開拓に就かざる所多く、府縣中面積最も大に、人口最も粗なる地方とす。各地に牧場あり。盛岡市北東の外山牧場、岩手山の麓なる小岩井農場等著はる。縣内地味瘠せて、稗粟を耕種する所多し。中部は北上川・馬淵川の縦谷にして、

傾斜急なれば水運の便なく、北上川の支流雫石川・和賀川・膽澤川沿岸の水田用水は水閘を設けて、上流よりこれを導く。一關附近は蠶業盛なり。海岸には宮古・釜石・大船渡



第一四圖
大船渡港

面積
一〇三九
方里人口
八百餘

*附第七圖

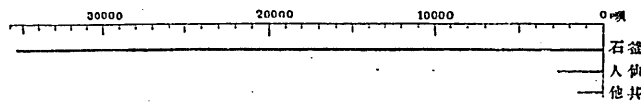
第一五圖
鐵道
較
産額
比

附第一〇圖

等の良灣あり。只陸上交通の便を缺く。水産は奥羽第一に居り、宮古に水産學校あり。釜石鐵山は本邦第一にして、釜石町ために榮ゆ。又和賀川上流に仙人鐵山あり、膽澤川上流の劍山には硫黄を産す。盛岡市は南部馬の中心市場にて、又生絲・鑄物・林檎の産あり、盛岡高等農林學校をかく。

北上川中流平野の水澤には臨時緯度觀測所あり。衣川附近の平泉は藤原清衡以下四代の居館のありし地にて、中尊寺の金色堂は覆堂を設けて保護せらる。

山形縣 北西一面海に面すれども、砂丘高く、秋田縣に至る間、防風林の設あり。その他は山に圍まれて、北境に鳥海山、南境に飯豊山、中部に湯殿山、月山あり。交通不便に、鐵道は縣境に隧道多く、板谷

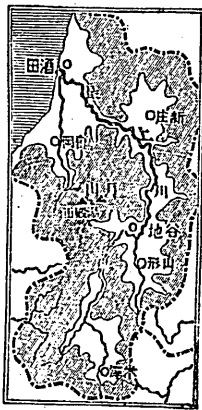


(全三萬九千九百噸但製鐵所産除々々)

第一六圖
最上川沿
岸の盆地

地方の産
業は舊藩
時代の施
政方針に
由るもの
多し

峠最も著名なり。(三) 平野は最上川沿岸に開け、數多の盆地に分れて、各中心地を有す。置賜地方の米澤市、最上地方の山形市、庄内地方の鶴岡これなり。又酒田・新庄・谷地等の盛邑あり。縣内米産の多きこと奥羽第一に居り、養蠶機業は福島縣に次ぐ。



山形市は縣治の中心にて、生絲漆器を産す。米澤市は上杉鷹山の遺業によりて、養蠶製絲大に發達し、米澤織の名産あり。高等工業學校をおく。酒田は日本海航船の寄泊地にて、米穀の積出港とす。

山形米澤間の上山赤湯は温泉を以て著る。

秋田縣 岩木火山脈中央部を通じて山深く、山地は全面積の九割を占む。(四) 能代川流域は舊藩以來林制整理たるた

第一七圖
能代川流
地域の森林

附第八圖
附第九圖

め、殆ど洪患を見ず。林産甚多く、今なほ秋田杉の名高し。(五) 北東境の小坂銀銅山を初めとし、尾去澤・阿仁・荒川の銅山、椿院内の銀山等數多の礦山あり、最も礦産に富む。小坂には自熔法によれる世界有數の大熔礦爐あり。縣下の銀は全國の過半を占む。(六) 御物川能代川流域の平野は米産多く、秋田・土崎・横手・能代の市町あり。(七) 南部の子吉川流域は別に一區をなし、本莊をその中心地とす。



沿岸は概ね平直なる砂濱なれども、男鹿半島は入郎潟を擁して、山水の明媚なること松島灣に譲らず。その南岸の船川は良港の名あり。

秋田市は畝織・八丈縞の産あり、第十六旅團司令部の設置以來市況盛なり。近く礦山専門學校をおかれんとす。土崎

港は秋田市の門口にあたり、冬季は船川港を錨地とす。北海道との交通繁く、商業の盛なること縣内第一とす。

能代は土崎に次ぐ商業地にて、蒸氣力を用ゆる挽材工場あり、春慶塗を産す。

海岸	港	礦産	山林牧場	農産	水産
秋田縣 平直、陸路の便あり	乏し	銀銅	杉材に富む	米産多し	乏し
岩手縣 風曲多く陸路の便惡し	多し	鐵硫黄	牧場に富む	米産少し	多し

青森縣 (4) 本州極北の地にて、斗南津輕の兩半島、陸奥灣を擁し、青森野邊地大湊の諸港灣内にあり。沿海は鮑鱈、昆布の産多し。(5) 陸には北に恐山、南に八甲田山、西に岩木山ありて山深く、津輕半島には羅漢柏の良材を産す。(6) 平野は岩木川及び馬淵川の沿岸に廣く、弘前八戸をその中心とす。東海岸に近き小河原沼附近は牧場開け、三本木には軍馬育成所畜産學校あり。

青森港の貿易は貨物の輸入に限る

又第四旅團司令部あり

青森市は東北線及び奥羽線の終點に位し、北海道交通の要路にあたる。函館室蘭に定期航海あり。本州最北の開港場にて、又奥羽地方唯一の開港場なり。弘前市は岩木川の沿岸津輕平野の中心市場にて、漆器・林檎を産す。又第八師團司令部あり、縣内第一の盛地とす。

大湊は海軍要港にて、水雷團をおく。八戸は鮫港を控へて、鐵道の支線を有す。

四 本州中部地方 新日本中等地圖 第四圖第七圖參照

地形 本州の幅最も廣き部分にして、東境には關東山脈及び飯豊山朝日岳を戴ける越後山脈連亘し、又那須火山脈に屬する淺間活火山あり。富士火山脈は稍東部に偏し、富士山・天城山・八岳・妙高山等を噴起す。中部は高度最も高き飛驒高原にして、その東には高峻なる飛驒山脈あり、御岳・乘鞍岳

蓮華山等、乗鞍火山脈の諸峰を起し、その南東に赤石山脈ありて、峻峻なる白峰山を戴き、木曾山脈は略その西に並走す、飛騨高原の西には中國地方より來れる中國山脈の一部を受け、その南には伊吹山脈、その北には寶達山脈あり。河流は中央高原の爲に分水せられ、太平洋面には富士・大井・天龍・木曾の諸川あり。日本海而は地形北及び北西に傾き、信濃黒部・神通・射水の諸川は北流し、九頭龍川・手取川は北西に流る。概ね河積廣く、往々洪患を見るも、下流域には廣き平野あり。濃尾越後越中の平野等最も著名なり。

海岸は南に駿河灣を抱ける伊豆半島あり、遠州灘を隔て、遙に伊勢海を擁せる志摩半島と對す。伊勢海の東に知多半島あり、渥美半島と共に三河灣を抱く。北には中部に能登半島突出して、富山灣を擁し、西部には小灣入に富める若狹

灣あり、伊勢海に對す。越後七十里の沿岸は概ね平直にして砂丘高きも、その海上には夷^{ヒラ}眞野^{マノ}の二灣を有する佐渡島横はる。

氣候 (一) 太平洋岸地方は關東よりも暖く、長津呂^{石廊崎}は本域中の最暖地なり。日本海沿岸及び内陸地方は關東よりも寒く、高山・松本・長野を最寒とし、諏訪湖は堅氷を結び、人馬その上を往來す。(二) 風向は太平洋面に於ては夏季南東風多くして雨量を大にし、諸川往々出水あり。日本海面には冬季偏北風多く、深雪を降らし、雪融けの候、往々諸川の増水を見る。信越二國は降雪殊に多く、吹雪の爲に街路を没し、交通を絶つこと稀ならず。降水量は

	平均温度	雪日数	雨雪量(耗)
長津呂	一六、一	長津呂 一	長津呂 一四六六
新潟	一二、五	新潟 七五	長野 九八五
松本	一〇、一	長野 八七	敦賀 二二六三

日本海岸の西部地方特に大なり。

・人口都會　沿海地方は人口稠密にして、都會多く發達し、太平洋面に名古屋・豊橋・静岡の三市、日本海面に新潟・長岡・富山・高岡・金澤の六市あり。内陸地方は人口稍粗にして、都會は多く河流の沿岸に發達す。長野・松本・甲府・岐阜の四市あり。

街道

鍊道

中央東線の
一、四、十の
道に達し其
きの中本邦
の笹子隧最
長の一萬七
道はありて
千尺におも
泓車にて十
二分を要す

三島大仁間

名古屋の西にて關西
東海道二線を連絡す

吉田(豐橋)長篠間

津幡・矢田新聞

大府武豊間

伏木城端間

名古屋に起り近畿
地方に入る

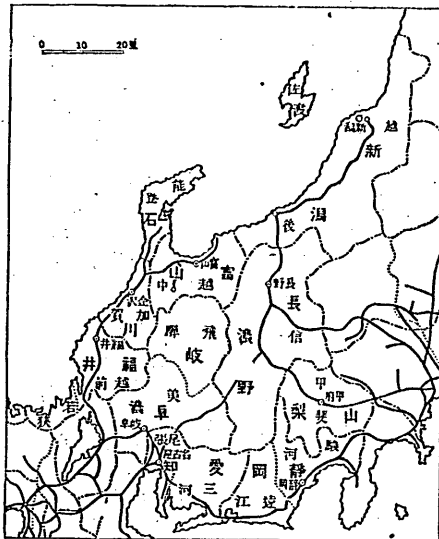
水路は富士川・天龍川等鐵道の影響を受けて、漸くその用を減じ、信濃川下流には汽船を通ず。海上は石廊崎・天龍川口・珠洲岬等に燈臺の設けあり。日本海諸港は日本西廻汽船の航路に當り、敦賀はウラヂポストクに定期直航の便あり。歐洲に至る世界交通の最捷路に當る。越後・佐渡の間に海

底電線あり。

沿革府縣制 越前は北陸の咽喉に當り、京畿を控制する一要區として、鎌倉幕府以來、武將の重要視したる所なり。南北朝の時、新田義貞は恒良尊良兩親王を奉じて、足利尊氏の族高經と戦ひ、義貞難に殉す。戰國の頃、織田信長

尾張に興り、武田信玄は甲斐に出で、越後の上杉謙信と連年兵を川中島に交ふ。信長武田氏を滅し、その薨ずるや、秀吉その遺緒をつぎ上杉氏を會津に移し、遂に天下を一統す。徳川家康は三河に起り、關ヶ原役後、天下の大權を握り、名古屋に親藩を置き、結城秀康を越前に封じ、前田利長に加賀能登、越中を領せしめ、信越を數多の小

第一八圖
本州中部
地方區劃



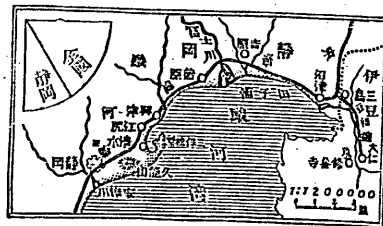
藩に分ち、甲斐・佐渡を幕府の直轄とし、晩年駿府・岡・靜に退隱す。現今九縣あり。

縣名	管轄區域	廳所在地	その人口
靜岡	駿河、遠江、伊豆の大部	靜岡市	五、一
山梨	甲斐	甲府市	五、〇
愛知	尾張、三河	名古屋	三七、四
岐阜	美濃、飛騨	岐阜市	四、一
長野	信濃	長野市	三、九
新潟	越後、佐渡	新潟市	六、一
富山	越中	富山市	五、七
石川	加賀、能登	金澤市	一〇、九
福井	若狹、越前	福井市	五、〇

靜岡縣 (一) 東部には富士山・天城山等の火山ありて、火山岩の分布廣く、伊豆半島の海岸は所々に石材を産す。間歇泉に名高き熱海、源頼家幽屏の地たる修善寺は温泉を以て著はる。(二) 山地は船材及び製紙用木屑の原料多し。富士山麓の大宮・伊豆の函南には農林學校あり。(三) 安倍川・大井川・天龍川沿

第一九圖
駿河湾頭
の駿河川
と茶産地
及静岡三
國全圖

岸の臺地は開拓せられて、茶園となれる所多
く、煎茶の産額は府縣第一に居る。富士川の流
域及び富士裾野は三椏の栽培盛に、和紙の産
多し。天龍川下流及び風光の美なる濱名湖沿
岸は水田開け、米・蕎麦を産す。^(四) 海岸は駿河湾頭
に田子、浦三保松原等著名の勝地多し。海上に
は漁利多く、鯉節は茶紙と共に縣下の重要物
産なり。



*口繪
第一二圖附

*富士山は海拔一萬二千四百尺に達する休火山にして、その裾野は遠く駿
河湾頭に達す。火山の標式的形態を存し、外形最も優美に、本邦の名山にして、
富士の名を負へるもの亦頗る多し。山頂には舊噴火口あり。山側には焼野木
立裾野の別あり。又數多の側火山ありて、放射狀又は同心圓狀に排列す。

静岡市は駿府城の在りし所にして、賤機山を負ひ、清水港

第二〇圖
甲府平原
と郡内平
原

久能山安倍川を控ふ。漆器竹細工を産し、製茶半紙の取引多
し。第二十九旅團司令部をおく。市外に臨濟寺あり。
清水港は開港場にて、前面には三保松原斗出し、風波穏かなり。大宮は富
士登山の表口にあたる。附近は木屑の原料多く、盛に洋紙を製す。濱松は茶
藁筵の製造取引盛なり。
山梨縣 四面山に圍まれ、富士山の麓には風景の美なる
山中湖・河口湖あり。富士川の上流笛吹川・釜無川の流域は
肥沃の盆地をなせる。甲府平原にて、武
田氏の據りて威を振ひし自然の城廓
なり。東部は郡内地方にて、武田氏の
滅亡地なる天目山、及び笹子峠・御坂峠
に隔てられ、産業人情等自ら異れり。
甲府平原は米産多く、蠶業盛なり。勝沼



附近は葡萄を栽培し、市川大門附近は紙の産多し。郡内地方は甲斐絹の原産地にて、機業盛に、毎戸殆ど斯業を営まざるものなく、谷村町をその集散地とす。

甲府市は縣内の中心市場にて、勸業製絲場を設けてより、數個の製絲場起り、生絲の産多し。又北境に金峰山を控へて、水晶細工の名産あり。

・鵜澤は富士川水運の要所なり。南方身延山中には日蓮宗の本山久遠寺あり。

愛知縣 尾張の大部は地味最も肥えたる濃尾平野にて、卑濕の地は排水機を設けて、悪水の排除に努むる所あり。良米の産多し。名古屋市を中心として、鐵道四方に通じ、有松・宮津島・瀬戸等の活氣ある都會あり。三河は豊川・矢作川の沿岸に平地廣く、豊橋・岡崎を繁盛の地とす。北部は丘陵連り

附第二圖

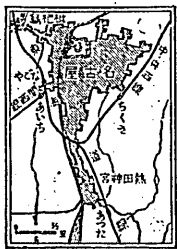
第二圖
名古屋市

第五旅團司令部あり

附第二圖

て花崗岩の分布廣し。尾張の北東部には良質の陶土を産す。
(二) 沿海の地は知多・渥美兩半島の丘陵斗出し、水産豊かなり。知多半島は清酒に名ある半田・龜崎、開港場武豊、土管の産ある常滑等、著名の産業地あり。縣内紡績機織・マツチ・麥稈眞田の工業盛に、陶磁器の産額は府縣第一に居る。

名古屋市は東海道の要路にあたり、三府との連絡最も密に、鐵道四方に通ず。熱田神宮を以て、その名高き熱田を合せて、開港場の一となり、水陸交通の便あり。綿絲絹綿交織七寶燒車輛等を産し、商工業盛なり。城址に第三師團司令部をおき、金鯢を以てその名高き牙城を離宮とす。又控訴院・高等工業學校・醫學校あり。瀬戸は本邦主要の窯業地にて、輸出向製品を出す。陶器學校あり。



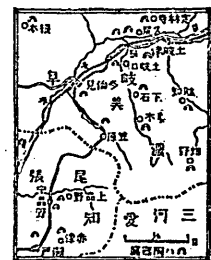
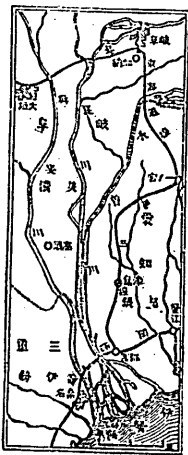
又第十七旅
團司令部あ
り

第二二團
木曾川分
流の圖

多治見地方
の製陶業は
法よく行
業法よく行
廉價なるは
これによる
第三三團
流尾の照
業地

岡崎は徳川氏創業の地にて、味噌の名産あり。豊橋市には第十五師團司令部を置く。

岐阜縣^(一) 飛驒は土地高く、森林に富む、交通不便にて、住民質朴なり。神通川の上流、高原川附近の神岡礦山は銀銅鉛を産す。



中部に高山町あり、春慶塗一位細工を産す。美濃北部の地方は養蠶業、製絲業盛なり。^(二)南部は木曾、長良、揖斐の三川これを灌漑し、地味極めて肥え、米産多し。近年分流工事完成してより、水災大に減ぜり。岐阜・大垣の市町はこの平野にあり。^(三)南東部は瀬戸附近まで花崗岩の分布廣く、陶土に富み、多治見を中心として、製陶業盛に、主として内國向廉價の

製品を出す。

岐阜市は鵜飼を以て名高き長良川に臨む。縮緬提燈等の産あり。繭生絲紙の取引多し。又名和昆蟲研究所あり。

大垣は揖斐川に沿ひ、屢水災を蒙れり。その大垣城は慶長五年關原役の初め、石田三成の本營を置きし所にして、徳川家康の陣したる赤坂はその北西にあり、良質の大理石を産す。關原はその西にあたり。

工業の種
類は土地
の状況に
よるより
むを要す

長野縣^(一) 本邦大縣の一にて、四方に山々重り、全部一大高原を成し、中央の和田峠を界として、大河は南北に分流し、沿岸に狭長なる平野を有す。又和田峠の麓なる諏訪湖沿岸は諏訪平といふ。これ等平野の中心市場として長野市を初め、松本市・上田・飯田・諏訪・伊那等の都會發達す。^(二)木曾山地は天然の大森林をなし、檜の良材あり。木材は數多き溪流を利用して木曾川を下し、約一年を費して、これを三重縣下の

割は實に新津・東山・西山・三油田の産に係る。

新潟市は信濃川口の左岸に位す。開港場の一にて越後米の積出地とす。されど川口に砂洲多く、冬季は風波荒し。佐渡の夷港は實に冬季の避難所なり。市内に鐵工場あり、石油鑿井器製油器を製出す。醫學專門學校の設あり。長岡市は水陸運輸の便あり。附近の地油井多く、石油業最盛の地とす。又織物の中心市場にて、市況活氣あり。直江津は荒川口の一埠頭に、大船は沖合にかゝれども、陸上鐵道の便あり、越後越中の貨物を集散す。

新發田は第十五旅團司令部の設置以來、大に繁榮を増せり。五泉は絹織業の一中心地にて、下越後の村上附近と共に袴地の産出多し。三條は中越後の中心に位し、商賈多く百貨集散の地たり。新津は新津油田を控へ、石油業の大中心地として榮ゆ。高田は上越後の盛邑にて、第十三師團司令部をあく、寺泊ツルギは佐渡に渡る要津にて、海底電線亦その附近に起る。

又第二十六
旅團司令部
あり

富山縣 南は飛驒高原に接し、東は飛驒山脈の峻峰を帶び、立山南東隅に聳ゆ。この附近に發する黒部川は水勢急にして、下流には三角洲あり、扇狀に分派し、黒部四十八瀬の稱あり。神通射水兩川の下流沿岸は礪波ハシ富山の二平野にて、地味肥え、米産多し。富山・高岡の二市あり。沿海は鮭・鱒の利多く、伏木・新湊・氷見・魚津等の都會あり。

富山市は神通川下流に跨る。古來製藥業盛にして、その販路は全國に普及し、今は清韓地方にも及ぶ。第三十一旅團司令部をあく。高岡市は礪波平野の中心市場にて、その西には史上に名高き倶利伽羅峠を控ふ。機業盛に、又銅鐵器漆器を産す。中越鐵道の便あり。

新湊は射水川口の右岸に位し、左岸に開港場伏木港を控へて、高岡市の門口を成す。魚津の海上には春夏の候、蜃氣樓を見ることあり。

石川縣 細長き地方にて、⁽¹⁾南東部には白山の餘波連り、能登半島と共に山多し。山地は漆液の産多く、漆器の産額は府縣の二三位にあり。陶磁器の産亦少からず。⁽²⁾海岸地方は北西七尾灣頭に至るまで細長き平野を成し、頗る潟に富む。金澤市を初め小松大聖寺あり、孰れも羽二重機業盛なり。⁽³⁾能登半島には能登馬を産し、沿岸水産の利あり。製鹽は日本海岸第一に居る。

金澤市は前田氏の舊城地にて、九谷燒・象眼細工・絹布の産あり。近時工業の發達と共に市況恢復し、又第九師團司令部・第四高等學校・醫學專門學校あり。おのづから北陸地方の中心たり。有名なる兼六公園あり。

大聖寺には九谷陶器會社あり。七尾は南灣を開港場とし、北に能登島を控へたる良港なり。北西に和倉溫泉あり。輪島は堅牢なる漆器を産す。

又第六旅團司令部あり

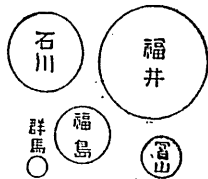
第二五圖
輸出向羽
二重産額
全國二重
石川縣
福井縣
富山縣
群馬縣
一六六

*
附第一七圖

福井縣 大部は九頭龍川の流域にして、川の上流に大野盆地、下流沿岸に肥沃の越前平野あり。主要の生産地にして、福井・武生・大野等の都邑あり。機業大に發達し、福井市を中心地として、盛に輸出向羽二重を織る。その産額府縣第一に居り、絹織物の産額は京都府に次ぐ。若狹灣に臨める地方は土地狹く、平地乏しきも、海岸屈曲に富み、水産の利多し。敦賀・小濱の二灣あり。

福井市は三國港を控へて、漕運の便あり。夙に紬織を産し、明治二十年以來、羽二重業起れり。市内に新田義貞を祀れる藤島神社、市の東に曹洞宗の本山永平寺あり。

敦賀は本州中部の最狹部に位し、北國無二の良港にて、開港場の一とす。第十八旅團司令部あり。敦賀の東に接する金崎には金崎宮あり、尊良親王を祀



る。

五 近畿地方

新日本中等地圖
第七國參照

地形 琵琶湖及び淀川の流域に屬する一帯の地方、中國の一部及び紀伊半島、淡路島を包括す。^(一)北東は伊吹山脈に限られ、紀伊半島には紀伊山脈東西に走り、彌山、大臺原山あり、山深く、地勢峻しければ、これに沿ひて西流する紀伊川の下流沿岸僅に平地あるのみ。^(二)伊勢には鈴鹿雲出等の諸川あり、伊勢海沿岸に肥沃の平野を成す。^(三)北に突出せる丹後半島の南には、中國山脈東西に亘り、丹波山地を成して、本州中部に連り、日本海と日本内海との分水界を成す。^(四)日本内海面には加古川、市川、揖保川あり、播磨平野を流る、淀川は南西に流れ、全河系に琵琶湖四周の盆地及び山城盆地と大阪平野とを含める畿内平野を成す。

淀川は琵琶湖に發し、桂川、木津川を合せ、數派に分流して、大阪灣に入る。土砂を流下すること多くして、川口に新地層の成生著しく、大阪築港以來本流を改修し、新淀川を開きて水災を防ぐ。その分流點には水閘の設けあり、平時は水量を制して、舊河道の水運に資せり。

海岸は大阪灣、伊勢海の沿岸は低平に、その他は小屈曲に富み、險崖多し。

氣候 一般に溫和にて、南部沿岸地方殊に紀伊の南端は年中殆ど降雪を見ず。内陸地方は稍低溫にて、琵琶湖には冬季比叡風あり。雨は紀伊半島に多く、日本内海沿岸を著名の霖雨地とす。

平均溫度	雨	雪	日數
湖岸 一六・八	湖岸 二八三・六	湖岸 一	
彦根 一三・五	神戶 一三六・五	京都 四二	

産業 肥沃の平野に富み、灌漑の法亦よく備はりて、田地多く、米産は關東に超ゆ。畑は少けれども、二毛作の行はるる

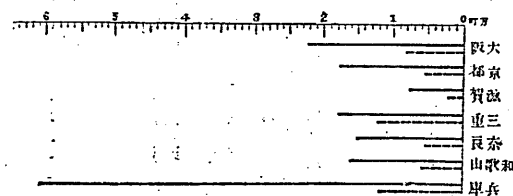
第二六圖
近畿地方
比較
實線は
示す

本邦紡績
の過半はこ
の地方より
出づる盛なり
甚だ盛なり

人口密度
三千七百
餘

水田あり、琵琶湖沿岸並に大阪平野には菜種の産多し。繭の産亦少からず。牧牛は主として北西部に行はる。林業は温濕に富める南部半島地方に盛に、漁業は伊勢海沿岸及び淡路島を含める兵庫縣を最とす。工業は中部の平原地に發達して、工場用石炭の消費額、關東の約二倍に當る。大阪は本邦工業の大中心地にて、紡績その他の新工業興りて、その製品を清・韓・南洋諸島に、又京都は特有の美術工藝品を内地及び歐米諸國に輸出す。

人口都會 人口密度は關東に及ばずと雖、畿内平野は頗る稠密なり、京阪二大都を初め、津・宇治・山田・大津・奈良・和歌山・堺・神戸・姫路の諸市あり、附近に小都會發達す。



交通 鐵道の發達は關東に譲らず。大阪をその大中心とし、東海道線は神戸・京都を連絡して、東京に通ずる幹線となり、關西本線は名古屋を起點とし、奈良・天王寺を経て大阪に至り、山陽線は神戸に起りて、中國地方に入る。その他左の諸線あり。

大津線	馬場・東海道線・大津間	奈良線	京都・木津間
京都線	京都・園部間	櫻宮線	木津・網島・大阪・櫻宮・大阪間
西成線	大阪・天保山間	櫻井線	奈良・櫻井・高田間
北陸線	米原（東海道線）より分岐し北陸に入る	和歌山線	王子・高田・和歌山間
阪鶴線	神崎・新舞鶴間	城東線	大阪市の東を通ず
播但線	飾磨・生野・城崎間	高野鐵道	沙見橋・大阪・長野間
參宮線	龜山・津宇治・山田間	河南鐵道	柏原・關西本線・長野間
草津線	柘植・關西本線・草津間	南海鐵道	難波・和歌山間
近江鐵道	彦根・貴生川間		

水路には鳥羽港・潮岬・由良海峽・安治川口等に燈臺の設け備はり、潮岬には無線電信局をおく。大阪灣は日本内海交通の衝に當り、大阪・神戸を二大中心として、關西地方・北海道・日本海諸港・臺灣等に定期航路開け、琵琶湖及び淀川の一部には汽船を通ず。海底電線は淡路より本州・四國に通じ、電話は京阪その他より東京・仙臺・高松・長崎等に通じて、最も便を極む。

沿革府縣制 神武天皇都を橿原に定め給ひてより、大和は久しく帝都の地となり、河内・攝津・近江亦時に都をもち、和銅中元・明天皇平城に都し、桓武天皇の時・長岡京に次ぎ、平安京の奠都ありて、明治に及び、南北朝の時、吉野は南朝三世の帝都となれり。秀吉の海内を一統するや、大阪に城きてこれに居り、又伏見に城きて京を



第二七圖
近畿地方
の區劃

人口密度
約一萬九千

守れり。徳川氏に至り、京に所司代、大阪に城代をおきて京畿を守り、和歌山に親藩を封ぜり。その他彦根・津郡・山姫路等の諸藩あり。現今二府四縣とす。

府縣名	管轄區域	廳所在地	その人口
大阪	河内、和泉、攝津の一部	大阪市	一、二一、八
京都	山城、丹波、丹波の大部	京都市	四四、一
滋賀	近江	大津市	四、一
三重	伊勢、志摩、伊賀、紀伊の一部	津市	四、一
奈良	大和	奈良市	三、二
和歌山	紀伊の大部	和歌山市	七、七
兵庫	播磨、但馬、淡路、丹波の一部	神戸市	三七、七

大阪府 南東境には葛城山脈ありて、史上に名高き生駒山・金剛山を起す。⁽¹⁾その他の大部は淀川・大和川の下流域を占めたる大阪平野にして、地味肥え、米・綿・菜種を産す。南部には泉州密柑の名高し。府下は新工業最盛の地にて、工場用石炭の消費高遙に東京府の上にあり。紡績業の盛府縣第一に居り、綿布・洋紙・革類の産額亦甚多し。人口密度は東京府に

次ぎ、大阪堺の二市あり。

大阪市

新日本中等地
圖第九圖參照

は本州西部の大都にて、畿内平野の南部

に位し、淀川の三角洲に跨り、大阪灣に臨み、内地商業上の位置最も佳なり。地勢概ね低平、人口百二十二萬あり。市街は四區に分れ、溝渠、縦横に通じ、運漕最も便なり。この地は仁徳天皇の都し給ひし浪速津にて、中頃豊臣氏の築城以來、繁榮日に増し、今は帝國第一の商工業地たり。大阪城は今牙城の壘壁を存し、その中に第四師團司令部をかく。又控訴院大阪高等工業學校あり。

又第七旅團
司令部あり

工業地としては砲兵工廠造幣局を初めとし、十餘個所の紡績工場あり。全國綿絲總産額の約三分の一を出す。又マツチ砂糖メリヤス・フランネル等の製造場多く、銀行會社の數六百餘に及ぶ。

交通は東京と共に鐵道系の二大中心地をなして、その便を極め、電車は市

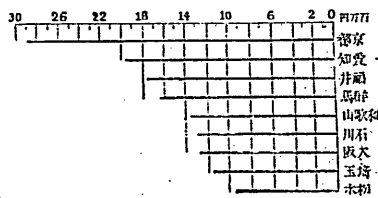
の一部に、電話は東京廣島長崎等に通ず。海運は大築港の經營略成りて、出入の貨客を安全に上下するを得。大阪商船株式會社はこの地をその主要航

路の起點とし、關西地方北海道日本海諸港臺灣等に定期航路あり。

商業は以上交通區域の貨物を集散するのみならず、全國殊に西部地方の商業中心となり、清國との貿易は神戸市を介して盛に行はる。

堺市は曾て大内氏の明國と通商せし所とす。清酒・段通・又物の産あり。市の東に規模宏大なる仁徳天皇の御陵大山陵あり。

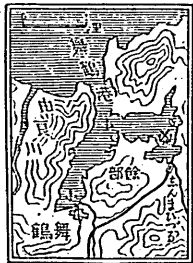
京都府 (4)山城盆地は淀川の上流宇治川及び賀茂・桂・木津三支川の流域にて、比叡・鞍馬・愛宕・笠置の諸山に擁せられ、南西僅に大阪平野に連接す。京都を初め、伏見・淀・八幡・宇治等の名邑あり。京都・八幡の附近には竹林多し。 (5)丹波



第二八圖
舞鶴港

織物價格
云々萬圓

丹後は山地多く、材木薪炭を出す。又養蠶盛に、福知山の名邑あり。丹後半島の東は與謝灣にして、天橋立の勝地、開港場、宮津港及び舞鶴軍港あり。府下は織物、陶器、茶の産額多く、京都の西陣、織峰山の縮緬等、その名高く、織物の産額は府縣第一とす。



平安神宮
西本願寺
知恩院
清水三門堂
金剛寺
泉涌寺

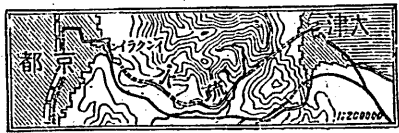
京都市 新日本中等地
ト第八圖参照 は畿内平野の北部に位し、三面は丘陵にて限られ、東海道に逢阪山、南西に入幡山崎の要地を控ふ。帝國第三の都會にて、人口四十四萬あり。市街は二區に分れ、街衢は端整なり。^(一) 桓武天皇、奠都以後、千有餘年の帝都たりし所にて、京都御所、二條離宮を初め、史上に由緒ある社寺舊蹟多く、佛教各宗の本山多くここに集り、且つ山水の秀麗なるを以てその名高く、内外の旅客四時跡を絶たず。^(二) 美術工藝

第二九圖
琵琶湖疏水路

附第八圖

又第十九圖
團司令部あり

は市の生命とも云ふべく、西陣織、鴨川、染、京焼、蒔繪等精巧を以て鳴る。^(三) 又京都帝國大學、第三高等學校、高等工藝學校ありて、關西學術の中心地なり。市の東部を貫流する賀茂川は水淺きも、その派川高瀬川は市に水運の便を供す。又琵琶湖畔の大津市より東山の隧道を通じ、賀茂川東岸に沿ふて、伏見に達する疏水運河は淀川と連絡し、且つその水力を利用し、電氣を起して、工業及び交通に資し、大に市の面目を一新したり。



伏見は豐太閤築城の地にて、第十六師團司令部あり。山崎は豐臣秀吉の光秀を敗りし所とす。笠置山には後醍醐天皇行宮の遺址あり。宇治川畔の宇治は茶所としてその名高く、伏見と共に京都南面の要地にて、平等院鳳凰堂等の古蹟あり。福知山に第二十旅團司令部を置く。

森林なき
山は川の
水量を調
整せず
林は洪水
豫防に必
要なり

滋賀縣 琵琶湖四周の地にて、四面山を繞らし、形勢山梨縣に似たり。山地は禿山多く、近年山體を植附け、砂防工事を施したる所多し。平野は東部に發達し、野洲川、愛知川等これを貫流し、地肥え、近江米の名高く、又菜種麻の産多し。都會は多く南東部にあり。本縣は近畿東面の要地にて、國境附近には東海道に逢阪山、鈴鹿峠、中仙道に不破、舊北陸街道に愛發の關址あり。古來戰場となれること多く、西境の比叡山、北部の姉川、賤岳等殊に著はる。

琵琶湖は本邦第一の大湖にして、周回約七十四里、面積約四十五方里あり。野州、愛知、犬上等の諸川を入れ、勢多川となりて、淀川の上流を成す。諸支川は水源山地に禿山多きを以て、屢洪水あり。附近の平野は河床よりも高さものあり、次第に湖を埋めて、沿岸に平野を作る。湖は多く鮒を産し、水産試験場の設あり。

大津市は湖の南西角にあり、東海道線の支線を有し、又疏水運河の口に當る、水陸交通の要所とす。附近に三井寺、石山寺の勝地あり。

彦根は井伊氏の舊城下にて、湖東第一の繁盛地とす。長濱は縮緬機業の中心地なり。日野、八幡の地方は民俗商業を尙び、盛に行商人を出す。八幡には蚊帳の産あり。

三重縣 鈴鹿、雲出、櫛田宮の諸川、鈴鹿、紀伊の兩山脈間に發して、伊勢海に注ぐ。諸川の下流及び沿海の平地は濃尾平原に續きて、良米を産し、津、四日市、宇治山田の三市及び松坂、桑名等の都會あり。紀伊山脈は木曾に次ぐ良材を出し、伊賀は薪炭を出す。その中部に上野あり。沿海は伊勢海より熊野灘にかけて、鰒、鰹、鯉の漁利頗る多く、英虞灣には有望なる眞珠養殖場あり。

附第一九圖

津市は阿漕浦に臨む。第三十旅團司令部所在地なり。宇治山田市は、内宮外宮の在る所にて、神都の稱あり。參宮の旅客四時絶えず。近傍に二見浦、朝熊山等の勝地あり。四日市は横濱・神戸間第一の良港にて、開港場の一なり。萬古焼を産し、また紡績絲綿布の工場あり。米穀の輸出、棉の輸入多し。朝熊山東の鳥羽港は風波を避くるに適し、熱田・大阪に定期航海あり。

附第四五圖

附第二圖
吉野宮
談山神社
法隆寺
春日神社
興福寺

奈良縣 南部の吉野地方は紀伊山脈連り、造林業大に發達して、杉の良材を産し、西流する吉野川、南流する北山川、十津川を輸送の通路とす。北部には笠置山脈あり。平地は大和川流域にあるのみ。用水は多く池水を用ふ。米、梨等の産に富み、又木綿織を出す。奈良郡山・櫻井等の都邑あり。縣下は神武天皇奠都の地にして、平安京以前歴代の帝都は概ね縣内にあり。橿原神宮、畝傍山、東北陵を初め、由緒ある社寺に

第三〇圖
大和名所

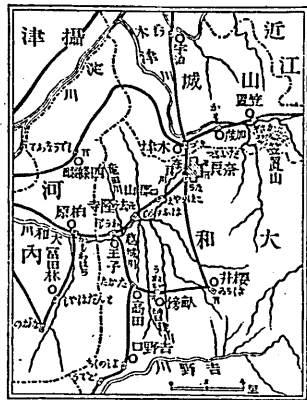
富み、大和巡りと稱して來り遊ぶ者多し。

吉野地方の造林は概ね村有若くは共有の山地を借りて、經營するものにして、概ね杉の單純林若くは杉・檜の混生林なり。

奈良市は、古の奈良の都にて、東大寺・正倉院等には、後世美術工藝の模範たるべきもの多し。帝室博物館・女子高等師範學校あり。晒木綿・根來塗を名産とす。

吉野には後醍醐天皇を祀れる吉野宮及びその御陵あり。山中の櫻花は一目千本の勝あり。吉野飛白を名産とす。

和歌山縣 本州最南の大半島にて、全部山に掩はれ、峻崖直に海に迫りて、河流の岸に沿ひ僅に平野を存す。黒潮の暖



風を受けて、樹木の生育に適し、高野山熊野地方等到る處良林に富み、林業發達す。紀伊川熊野川は木材輸送の通路にて、川口の和歌山新宮にてこれを集散す。有田川日高川の沿岸地は蜜柑を名産とす。海岸は屈曲に富み、漁利少からず。潮岬附近は潮流急にして、航海者の警むる所、その東側大島には安全の錨地あり。縣下漆器織物業盛にて、漆器は府縣第一に居り、夙に紀州塗の名を博す。和歌山市の南にある黒江をその中心とす。

高野山は弘法大師開基の金剛峰寺並に多くの僧坊あり、山頂別に一小都會を成す。

和歌山市は徳川氏親藩の地にて、水陸運輸の便あり。第三十二旅團司令部をおく。綿フランネルの原産地にて、その製造盛に、木材の取引多し。南西海濱には風光明媚なる和歌浦

附第二圖

縣下の米産
約二百萬石

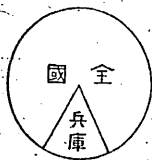
附第二四圖

第三一圖
酒造高
(國)年度
兵庫 國
兵庫 國

あり。

新宮は本縣竝に三重奈良二縣の木材集中地とす。熊野神社あり、附近の本宮竝に那智山と共に熊野三社と稱せらる。那智山腹の那智瀧は熊野浦より望み得べし。和歌山市北東の根來は根來塗の起原地なり。

兵庫縣 播磨平野は米産に富み、縣下の産額は府縣第二に位す。平野の中央に姫路市あり。醬油釀造に名高き龍野その西に位す。但馬は牧牛盛に、朝來川流域は柳行李を出す。南境の生野には名高き銀山あり、銀銅を産す。内海沿岸は水産多く、製鹽に適し、西部の赤穂最も著はる。又、東部は氣候溫和、風景絶佳にして、舞子、明石等の播磨名所あり。神戸の北東西宮附近は水質酒造に適し、灘五郷及び伊丹の名全國に鳴る。綿絲紡績、マツチ革類の製造亦盛なり。



第三二圖
神戸港

附第二三圖

又第八旅團
司令部あり



神戸市は大阪の西汽車一時間程に位し、山を負ひ海に臨み、東海道・山陽二大鐵道線の連絡點に當る。人口三十八萬あり。港内風波穩かにて、京阪地方の輸出入口を成し、商業上の關係大阪と密着し、貿易の盛なること横濱と比敵す。マツチ・綿絲等の工業盛に、川崎造船所及び高等商業學校あり。湊川神社は楠木正成を祀る。姫路市は飾磨港を控へ、交通の要路に當り、革細工染物を産す。その城址に第十師團司令部あり。

朝來川流域の豐岡は柳行李を産し、その北の城崎は東南部の有馬と共に、溫泉を以てその名高し。

淡路島は全島山勝ちなれども、嶮しからず。地肥え、水産に富み、山頭海邊皆居を卜するに足る。人口密なり。特産淡路麴

山脈は分水嶺を成す。外又氣候風土を分す。

あり。東端の由良は大阪灣口の防禦地點にて、要塞の設あり。

六 中國地方

新日本中等地圖
第十圖參照

地形 近畿の西に接する地方にて、花崗岩に富める。中國

山脈中部を東西に貫き、内海と日本海との分水嶺を成す。又

白山・火山脈あり。大山・三瓶山を起す。山陽は地廣く、吉井川

(東大川)・旭川(西大川)・川邊川(大川)・太田川等南流して、その下流

及び沿海の地に平野開け、山陰には賀露川・日野川・斐伊川

等北流し、江川のみ山脈を横切りて日本海に注ぎ、中國第一

の大河を成す。地狭くして、斐伊川沿岸の外平野乏し。

海岸は日本海岸最も單純にて、僅に中海・宍道湖を擁する島

根半島と隱岐とあるのみ。これに反し、瀬戸内海には無數の

半島・島あり、港灣に富む。

氣候 山陰は北陸地方に似たれども、北西風を正面に受

けずして、溫度稍高く、雨雪も稍少し。
山陽は東海地方に似たれども、雨量
少く、晴天稍多し。
産業 山地は砂鐵に富む。銅の產
出亦多し。平野は地味肥えて、水田割
合に多く、又二毛作盛に行はる。米產
總額は奥羽に超え、麥はその二倍餘
に達す。牧畜頗る盛に、神石牛(備後)
八川牛(出雲)等固有の良種あり。近年
改良の實を挙げ、黑白のホルスタイ
ン雜種、褐赤色のデボン雜種等多き
に至れり。水産は本州中關東に次ぎて產額多く、内海沿岸
地方は製鹽盛に行はる。

	雨雪量	その日數
岡山	一一四	一二七
境	一九三	二〇七

	中國	奥羽
1. 地形	東西に長し	南北に長し
2. 海	南北に帶ぶ	東西に帶ぶ
3. 山脈	一條、火山脈	三條、火山脈
4. 平野	内海沿岸に太	響ろ内部に大
5. 氣候	日本海方面	日本海方面
6. 礦產	銅、石炭、砂鐵	銅、石炭、鐵、鉛
7. 牧畜	牛多し	馬多し
8. 製鹽	盛なり	盛なり
9. 漁業	盛なり	稍劣る

人口密度
二千四百餘

人口都會 人口密度は甚だ大ならざれども、開拓の餘地
乏く、布哇その他諸外國に移住するもの多し。都會は岡山、廣
島、尾道、吳、鳥取、松江、下關の七市あり。その三は廣島縣に屬す。
下關はこの地方の門口たり。

交通 山陽最もその便を極め、略、山陽街道に沿ひて、山陽
線あり、舟坂峠を経て本域に入り、下關に達す。山陰鐵道は松
江、米子、鳥取を連ね、次第に東西に延長せらる。その他左の
諸線あり。

中國鐵道	岡山・津山間	宇品線	廣島・宇品間
宇野線	岡山・宇野間	大嶺線	厚狹・大嶺間
吳線	海田市・吳間		

内海は諸汽船の航路にあたり、備後灘、廣島灣には燈臺の
設多し。宇野、尾道、宇品より四國に、下關より九州及び朝鮮

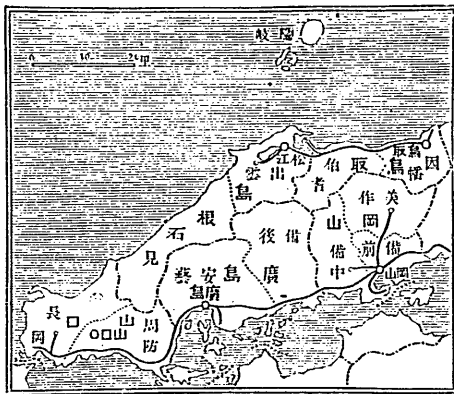
に連絡汽船往復す。海底電線は山陽より四國九州に、島根半島より隱岐に通ず。

沿革府縣制 出雲は大國主命の開拓せし所、夙に神代史に著はる。備前備中備後美作は古の吉備國にて、沿海には安藝と共に神武天皇東征の寄泊地

あり、長門は安徳天皇崩御の地なり。戰國の頃毛利氏は出雲の尼子氏を滅して、概ね陰陽兩道を平定せり。徳川氏の時、毛利氏の封を削り、更めて防長二州を賜ひ、その他廣島鳥取岡山等の諸藩を封ぜり。今五縣に分轄す。

縣名	管轄區域	廳所在地	その人口
岡山	備前、備中、美作	岡山市	九、三
廣島	備後、安藝	廣島市	一三、五
山口	周防、長門	山口町	二、一
鳥根	出雲、石見、隱岐	松江市	三、六
鳥取	因幡、伯耆	鳥取市	三、三

第三四圖
中國地方



第三四圖
立地
兒島灣
輪田向花建
價額
全國
岡山
美作



岡山縣 吉井旭川邊三川の流域にして、吉井川の中流には美作平野を成す。三川の下流域、及び沿海の地には平野續ぎ、岡山・玉島笠岡の都邑あり。紡績工業盛なり。旭川川邊川沿岸は盛に蕎を栽ゑ、輸出向花筵類の産額頗る多し。又川邊川中流の高梁を中心として盛に麥稈眞田を製し、その産額は全國の過半を占む。牧牛亦頗る盛なり。又各所に銅山あり、吹屋の吉岡銅山最も著はる。南方兒島半島は魚鹽の利多し。兒島灣は水浅く、その一部は既に埋立を終れり。岡山市は旭川に跨り、川口に三幡港を控ふ。紡績絲繭筵・花筵の製造盛なり。第十七師團司令部第六高等學校醫學專門學校等あり。

又第三十三
旅團司令部
あり

岡山の東なる伊部は伊部焼を産す。兒島半島南岸の宇野は有望なる泊地にて、鐵道の便あり。津山は美作平野の中心にて、足袋を名産とす。

廣島縣 南部は太田川、蘆田川の流域にて、蘆田川の下流沿岸は盛に藺を栽ゑ、備後表の産多し。北部は江川の上流域にして、諸川三次町附近に會し、石見に入る。沿岸は屈曲に富み、島嶼甚だ多く、西部に廣島灣あり、廣島市その灣頭に位し、嚴島、江田島、能美島等その海上に横はる。縣内牧牛盛に、牛の多きこと岡山縣と共に府縣第一とす。又綿麻を産し、綿絲紡績は廣島、福山及び能美島に行はれ、工産中の首位を占む。沿海水産の利亦中國第一に居り、廣島灣は牡蠣の養殖に適し、松永には製鹽試驗場あり。

廣島市は太田川の三角洲上に位す。中國第一の都會にて、舊城地に第五師團司令部あり。又控訴院、廣島高等師範學校

牛現存數
全國 三萬
廣島 九千九百

第三五圖
廣島市及
又第九旅團
司令部あり

吳軍港にて
先づ築甲
生駒艦二隻
巡邏の爲に
附近の船隻
の出入多し
のり近き船
の出入多し
餘船の出入
至れり
附第二五圖

あり。南の宇品を市の港とし、近年外征出師の輸送地となり、市況大に活氣を加へたり。吳市は瀬戸、瀬戸、江田島を控へたる軍港ありて榮ゆ。尾道市は内海の航運業を以て榮ゆ。但しその地域狭し、西に接する絲崎は開港場なり。



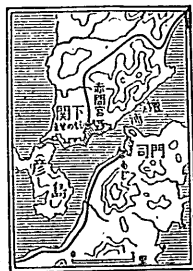
嚴島は又宮島といふ、風光を以て著はる。江田島には海軍兵學校あり。本縣人の海外移住は府縣第一に居り、移民補習學校を設置せる所あり。

山口縣 本州南西端の半島部に、瀬戸内海、日本海に面し、西方一帯は響灘を帶ぶ。日本海は鯨獵に名高く、内海沿岸には鹽田よく開け、防府の三田尻附近を第一とし、産額中國の第一に居る。又朝鮮近海に出漁する者多し。平野は諸川

の下流域及び内海沿岸に開けて、良質の防長米を産す。下關市の外、山口・萩・防府・徳山・岩國・柳井津等の都會あり。内地には秋吉臺に良質の大理石、大嶺に無烟炭あり。厚東川口の小野田はセメントを産す。

山口町は山間の都會にて、縣廳第廿一旅團司令部・山口高等商業學校あり。下關市は航路十五分間程を隔てたる九州の門司に對して、内海の咽喉を成し、西に彦島を控へて一大灣を擁す。九州・朝鮮に對する要地にて、米穀・石炭の取引多く、商業活潑なり。開港場の一とす。市内に安徳天皇を祀れる赤間宮あり。壇浦は市の東に當る。

徳山は良港にして、大嶺産の無烟炭を原料とする海軍煉炭製造所あり。岩國は錦帶橋を以て、その名高く、柳井津と共に木綿織を産す。萩は夏橙を名産とす。



第三六圖
下關市

島根縣 宍道湖に注ぐ斐伊川、その西を流るる神門川下流の平原は地味肥え、縣下の農産山陰第一に居る。江川は流域平地狭く、石見は地味瘠せ甘藷・楮を栽う。山地は砂鐵多く、三瓶山麓の原野には盛に牛を牧す。その西に大森銀山あり。

松江市は宍道湖の吐き口にあり、鳥取縣下の境港と相待ちて、水運の便宜し。第三十四旅團司令部あり。布志名燒瑪瑙細工を産す。

神門平原の杵築は出雲大社を以て著はる。南西の濱田は開港場にて、紙の取引多し。

隠岐は島後・島前の二部より成る。住民漁牧を主とし、鰯の産多し。島後の南東端に西郷港あり。

日本海上の竹島(イトノシマ)は日本海海戦以來世に著はる。

第三七圖
島根縣

第三七圖
島根半島
地方

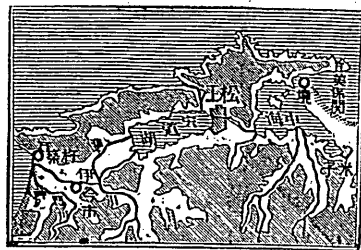
鳥取縣 地狭く、丘陵多く、平地は賀露川及び日野川の流域にあるのみ。日野川谷は陰陽交通の要路にて、上流地方は砂鐵を産す。西部に大山あり。史上にその名高き船上山その北に位す。大山の麓には馬を牧す。海岸は單調にして、夜見濱の突出ある外、出入乏く、都會は河川の流域に發達す。

鳥取市は賀露川に沿ひ、川口に賀露港を控ふ。米子は夜見濱半島の頸部にあり、縣内第一の商業地とす。

倉吉は生絲木綿稻扱を産す。夜見ガ濱半島北端の境港は、開港場にて島根半島に掩はれ、安全の泊地とす。

五 四國地方 新日本中等地圖 第十圖參照

地形 (一) 四國山脈中央部を東西に走りて、劍山、石槌山等の



高峰を起し、諸川の分水界を成す。又東部にはその北に讃岐山脈あり。(二) 吉野川は四國山脈の南に發し、山脈を横切り、四國讃岐兩山脈の間を東流して、縦谷を開く。その他阿波に那賀川、土佐に仁淀川、渡川、伊豫に肱川あれども、流域の平野は大ならず。

海岸は北に讃岐及び高縄半島突出して、燧灘を擁し、南に室戸、蹠蹠の二岬太平洋に突出して、土佐の大灣を擁す。二岬の附近暗礁多し、航海便ならず。西には遠く海中に出てたる佐田岬、東には紀伊水道の口を成せる蒲生田岬あり。島と灣とは北部及び西部に多し。

氣候 北部瀬戸内海沿岸の地は山陽地方と大差なく、南に而する土佐は最も暖く、一年二回稻の熟する所あり。櫛椎樟等暖帶性の樹木多し。雨量は南北大に異り、四國山脈以

南は暖流に而して、土佐は最多雨地方に居り、北部は内海性の寡雨地とす。

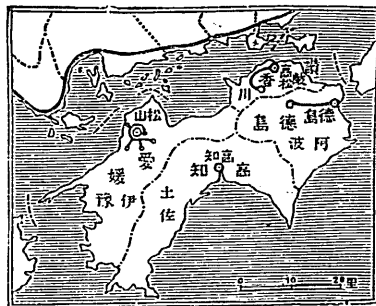
	雨量	降雪日数
高知	二八四・二	二
多度津	九九三	一四
新居濱		

産業 平野の大なるものなく、耕地亦狭く、米の總産額は新潟一縣に及ばず。麥は茨城縣の産額に稍優るのみ。されども藍・甘蕉・櫛等の産は全國中重要な地位を占む。水産は内海面には製鹽、外洋面には暖流を受けて、漁業の利あり。その産額は奥羽地方に比するに足る。

人口・都會 北東部は最も生産力に富み、人口頗る稠密にして、高松・丸龜の二市、竝に小都會多し。その他は德島・高知・松山等一縣に一市とす。

交通 各縣を連絡する國道、並に水路を主なる交通線とし、德島・高松・松山に各短距離の鐵道を有するのみ。従ひて中

第三八回
對四國の圖



心都會と稱すべきものなし。讃岐の海上、來島海峡附近及び室戸崎等に燈臺あり。海底電線は香川縣より岡山縣に、愛媛縣より廣島・大分二縣に通ず。

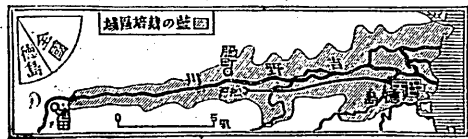
讃岐線 高松・琴平間
德島線 德島・船戸間

伊豫鐵道 松山を中心とし、道後・高濱・郡中・森松・廣河原等に通ず

沿革府縣制 四國は南海に孤立して、天下の大勢に關したる事蹟稀なり。戰國の時、土佐の長曾我部氏殆ど全島を平定せしが、秀吉之を討ちて土佐一國を與へたり。關原役後は山内氏これに代れり。その他德島・松山等の諸藩あり。現今四縣をあく。

縣名	管轄區域	廳所在地	その人口
徳島	阿波	徳島市	六、五
香川	讃岐	高松市	四、三
愛媛	伊豫	松山市	四、二
高知	土佐	高知市	三、八

徳島縣 四國第一の高峰劍山南西境に聳えて、吉野・那賀二川の流域を分つ。^(一) 吉野川沿岸は地味肥えて藍・大豆に適す。殊に藍は品質産額共に帝國第一に居り、中流の脇町^{ワキ}をその中心とし、徳島市にて集散す。西境池田附近は烟草の産多し。^(二) 那賀川流域は茶・蜜柑を産す。又その上流地方は木材の産多く、川口の中島をその取引地とす。海岸北部は製鹽漁業共に盛なり。

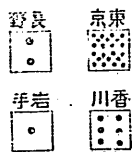
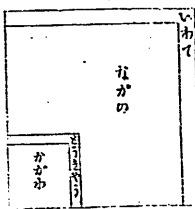


保護獎勵
は産業發
達の原因
なり

撫養は蜂須賀氏の保護に由りて發達せる著名の製鹽地なり。

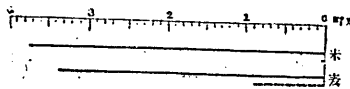
香川縣 三面内海に面して、多くの細流南北に流れ、地味肥え、土地開け、府縣中面積最も小に、人口密なる地方にて、到

點校	作米	第四	岩香	東京	入香	東京	長岩	人口	第四
線付	麥田	手一	野川	元千	口密	川一	野二	口密	府縣
仕比	別烟	圖	一六	元七	度二	元九	元九	度二	○圖
畑	畑		九六	四七					



る處二毛作行はれ、麥は概ね稻の裏作として收穫す。引田を中心とする砂糖の産は臺灣に次ぎ、製鹽は府縣第一の産額あり。坂出の鹽田最も著はる。近年亦工業の獎勵に努め、麥稈眞田の産は岡山縣に匹敵す。

高松・丸龜の二市、多度津・觀音寺等の名邑海濱に連り、善通寺・琴平等は丸龜の南に位し、讃岐線鐵道の便あり。



海上の小豆島には石材醬油の産及び寒霞溪の勝あり。鹽飽諸島は夙に海事の發達を以て知らる。

高松市は築港完成以來、水陸交通の便最もよく、多度津と共に中國地方と連絡の要點たり。保多織を産す。市の東に屋島古戰場、南に栗林公園あり。

浦戸港あり。

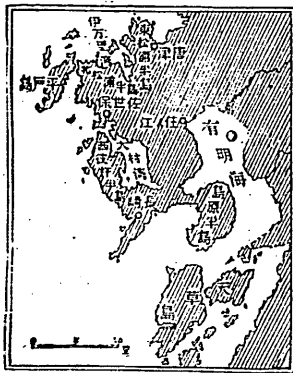
高知の西にある伊野町は和紙製造の中心地なり。

六 九州地方 新日本中等地図第十一第十二圖参照

地形 九州及び北西の壹岐對馬、南西の薩南諸島と、琉球諸島とを包括す。九州は北部に丘陵狀の筑紫山脈、南部に市房山の高峰を戴ける。九州南部山脈あり。北東の別府灣頭より西岸中部の球磨川口に至る一線を以て、この兩山脈の境

界とし、阿蘇山を盟主とせる。阿蘇火山脈ここに噴起す。南部には霧島山を主峰とする。霧島火山脈ありて、遙に南に連り、地勢複雑を極む。全島山多く、火山岩の分布廣大なり。平野は筑後川に沿ひて、筑紫平野あり。菊

第四四圖
九州島の
北西部の



池川・白川・緑川の沿岸地に熊本平野あり。川内川・球磨川は大河なれども、流域平野乏し。

筑後川は九州第一の大河なるを以て筑紫次郎の稱あり。豊後に發し、筑前の界を流れ、久留米以下筑後肥前の國界をなし、有明海に注ぐ。下流の平野は地味肥え、農産に富む。その東岸地方は古來最も洪水に苦みしが、近年改修工事成りて、水災大に減ぜり。

海岸線の發達は諸大島の第一に居る。殊に北西部は極めて不規則にして、有明海を擁する島原半島、大村灣を擁する西彼杵半島、伊萬里・唐津二灣を分てる北松浦・東松浦の二半島あり。海中道は福岡灣を擁し、鐘岬は響灘と玄海灘とを分つ。平戸・五島・天草・島等多くの島々海上に散布すること、恰も瀬戸内海の如し。その間に長崎・佐世保を初め、良港多し。東部は極めて單純にて、他地方の太平洋面に反せり。南部に

は薩摩・大隅の兩半島あり、鹿兒島灣を圍む。その南に種子屋久の二大島あり。奄美諸島琉球諸島又その南西に連る。

氣候 平均溫度は南西に至るに従ひて高く、嚴原最も低けれども、暖流の影響を受くること少なき熊本は零點下九度に下ることあり。概ね溫暖にて降雪少く、樟竹の類繁り、特に南部は本邦の最多雨地方にて、榕樹・檳榔等の熱帶植物よく生育す。珈琲・幾那等の試作をなす所あり。北部の雨量は適度を得たり。

平均溫度	雨量	降雪日
石垣島三・三	大島 三・四	宮崎 〇
嚴原 一四・七	熊本 一七・五	熊本 一四

産業 筑紫熊本の兩平野は本邦有數の米產地なれども、その他には大平野を見ず。水利に乏しき島地は甘藷を栽培して、常食とするものあり。牧畜は牧場に適する丘陵多きを以て、大に發達し、馬は奥羽地方の上に出て、牛は中國地方

に比敵す。林業は溫濕に富める南部地方を有望とす。礦産は北部一帯に石炭の産頗る多く、製鐵紡績造船等の大工業勃興して、工場用石炭の消費多きこと、他地方にその比を見ず。本邦主要工業地の一に居る。南部には金山多く、その産額内地第一に位す。漁業は島半島に富める北西部及び南部に盛なり。

人口都會 南東部は人口粗にして、鹿兒島の一市ある外、宮崎・大分の二縣は未だ市制を施けるものなし。産業の發達せる北西部は人口密にて、福岡縣は福岡・久留米・門司・小倉の四市を有す。長崎・佐世保は良港に由りて發達せり。佐賀・熊本の二市は農産多き平野の中心市場とす。

交通 九州の鐵道幹線は鹿兒島線・門司に起り、福岡・久留米・熊本・人吉を經、螺狀線及び數多の隧道によりて、肥後・日向

第四五圖
鹿兒島同
線道鐵狀

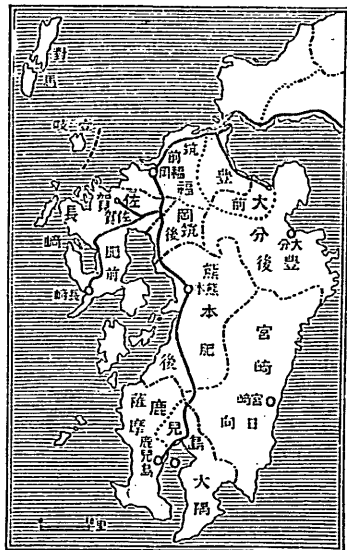
の國境を過ぎ、南の方鹿兒島に達す。又鹿兒島線の鳥栖より分岐して、長崎に達する長崎線あり。その他福岡縣下の炭田に通ずる諸支線、豐州線、唐津線、伊萬里線あり。北部及び西部の交通最も便なるに反し、南東部には未だ全く鐵道の敷設を見ず。



- | | | | |
|------|------------|------------------------|--------|
| 三角線 | 宇土三角間 | ○篠栗線 | 博多篠栗間 |
| 佐世保線 | 早岐佐世保間 | ○田川線 | 行橋添田間 |
| 伊萬里線 | 有田伊萬里間 | ○宮床線 | 後藤寺宮床間 |
| 唐津線 | 久保田西唐津間 | ○伊田線 | 直方伊田間 |
| 豐州線 | 小倉宇佐間 | ○幸袋線 | 小竹幸袋間 |
| 筑豐線 | 若松直方飯塚上山田間 | ○長尾線 | 飯塚長尾間 |
| 大藏線 | 小倉黒崎間 | 博多灣鐵道 | 西戸崎宇美間 |
| ○室木線 | 遠賀川室木間 | (○を附したるは炭田地方に通ずるものなり。) | |

鹿兒島線鐵道の螺旋線は矢嶽の中腹にあり。又矢嶽鐵道は海拔千八百尺の所にありて、延長六千八百七十尺許なり。

水路は北西部に燈臺の設け最も多く、長崎・若松・門司には航路標識よく備はる。長崎は内外諸港に、鹿兒島は大阪に定期航海あり。又大阪・沖繩間の航路に當る。電話は長崎・佐世保・福岡より中國・近畿・關東に通ずべし。海底電線は中國・四



國に連絡し、又東松浦半島北部より壹岐・對馬を経て朝鮮に、長崎より上海・ウラヂ・ポストクに、鹿兒島より種子・屋久・琉球を経て臺灣に達す。

沿革府縣制 九州古來九

國に分れ、壹岐對馬亦各一國を成す。南部には神代の遺跡多く、北部には對外關係の史蹟多し。鎌倉幕府の時、蒙古來寇し、壹岐對馬筑前肥前その難を蒙る。南北朝の時、菊池氏肥後に據り、征西將軍懷良親王を奉じて勤王す。戰國の時、島津氏薩摩日向大隅に據りて、九國を壓する勢あり。秀吉これを降し、薩摩大隅日向の一部を與ふ。徳川氏の時、鹿兒島熊本福岡佐賀の諸藩あり。(琉球の沿革は沖繩縣の條を見よ) 今七縣に分つ。

縣名	管轄區域	廳所在地	その人口
福岡	筑前、筑後、豊前の一部	福岡市	七、九
佐賀	肥前の一部	佐賀市	三、六
長崎	肥前の一部、壹岐、對馬	長崎市	一七、六
熊本	肥後	熊本市	五、七
大分	豊前の一部、豊後	大分町	二、七
宮崎	日向	宮崎町	一、四
鹿兒島	薩摩、大隅	鹿兒島市	六、四
沖縄	琉球	那覇區	四、七

福岡縣 (一) 南東境に英彦山聳え、中部に筑紫山脈起りて、筑後川と那珂川、遠賀川との流域を限る。遠賀川の流域は南西

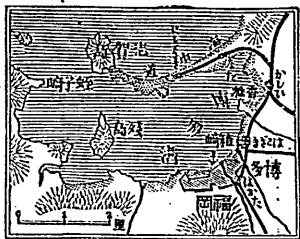
石炭と鐵
は現今大
明の二大
要素なり

石炭産額
全國一四三
福岡一六三

第四七圖
博多博
延多博
箱崎博
香崎博
太宰府

部の三池と共に炭田に富み、炭坑各所に開け、門司小倉若松、蘆屋等の市町發達す。(二) 那珂川筑紫川の流域には博多灣頭より有明海に連る肥沃の平野あり。水田は新潟縣に次ぎ、米産頗る多く、筑後地方は醸造業盛に、九州の灘と稱せらる。菜種、菜種油の産亦多し。本縣は石炭の産額全國の約六割を占めて、有望の工業地となり、製鐵所、製糖所、紡績工場、各種の鐵工場等勃興し、工場用石炭の消費額は大坂東京に優る。

福岡市は九州北部の大都會にて、第三十五旅團司令部、京都帝國大學福岡醫科大學を置く。工科大学の開設亦近きにあり。絹絲紡績業盛に、博多織に名高き博多も亦市の一部とす。その港は志賀島に連れる海、中道に擁せられ、風波穩かなり。開港場の一にて、



又第十二旅
團司令部あ
り
若松港の輸
出は石炭、鐵
材、銅材に輸
入は穀物、鐵
礦等に限る
又第二十旅
團司令部あ
り
旅團司令部

附第二九圖

住江の貿
易は輸出の
みに限る

石炭の輸出多し。附近に著名の史蹟あり。門司市は下關に對する開港場にて、南西に大炭田を控へ、石炭の輸出、綿、綿絲の取引多く、商業極めて活潑なり。小倉市も石炭地の都會にて、小倉織の名産あり。第十二師團司令部をおく。若松港は炭田地方に至る鐵道の一起點にて、近傍に大製鐵所の設置以來勃興せる八幡町を控へたる開港場なり。久留米市は久留米飛白を産す。第十八師團司令部あり。

有明海岸の開港場三池港は本邦第一の三池炭山を控へ、築港完成して、石炭の輸出多し。附近に三池炭山主三井家の經營に係る三井工業學校あり。

佐賀縣 南東筑紫平野の一部は農産地にて、佐賀市をその中心とし、住江の開港場を控ふ。北部の開港場唐津附近には石炭の産多し。

佐賀市は清酒、醬油を産す。礦山用諸機械、電氣諸機械の製

造亦盛なり。

唐津の南に當れる有田は著名なる陶磁器の産地にて、その起原頗る古く、高價なる美術品を出す。北西に伊萬里名古屋あり。名古屋は豊臣秀吉が征韓の本營をおきし所なり。

長崎縣 肥前の南西なる不規則の半島部、及び九州北西の島々を含む。沿海には長崎、佐世保、口津、竹敷等樞要の港灣あり。烏賊、鰯、海鼠の漁利に富む。五島近海には鮪、大敷網の漁場多く、對馬には鰯の産多し。陸上は山勝ちにて平野狭く、農産乏し。有明海と干々石灘とを分てる島原半島には中部に溫泉岳あり、多良岳、その北に當る。

長崎市は三里に達する長き灣内にあり、泊船の利最も宜く、清國、濠洲との交通の衝に當る。石炭、鰯を輸出し、米、大豆、糟を輸入す。維新前平戸に代りて通商港となり、西洋學術傳

第四八圖
長崎港

來の門戸をなせり。控訴院醫學專門學校、高等商業學校あり。又灣内に規模壯大なる造船所あり。高島附近は石炭を産す。佐世保は軍港にして、佐世保市これが爲に勃興し、人口五萬を越ゆ。

大村には第二十三旅團司令部を置く。口津は開港場なれども、三池の開港以來稍衰ふ。



第三〇圖
熊本縣

壹岐は沿岸出入に乏く、陸上に大豆の産あり。對馬は上下二島に分れて、その間に淺茅浦を挟み、竹敷の要港を成す。日本海の防禦上最も肝要なる所とす。上島東岸の嚴原は島廳警備隊の設あり、下島の鹿見佐須奈と共に開港場たり。熊本縣北部に阿蘇大活火山あり、中央火口丘の周圍は平野廣く、北部阿蘇谷の宮地町に農業學校あり。山中より發

第四九圖
阿蘇火山

馬現存數
全國一萬頭
鹿兒島三萬頭
熊本八萬頭
岩手



する白川は北の菊池川、南の緑川と略平行して流れ、その流域に臺地低地あり、畑の多きこと千葉縣に比敵す。低地は良質の肥後米を産する。熊本平野にて、麥、烟草、大豆の産亦多し。熊本市その中部に位す、沿岸中部に宇土半島の突出あり、その端に位する三角港は開港場の一とす。天草下島は甘藷、甘蕉の農産あるに過ぎざれども、天草灘に臨みて魚鹽の利あり。又無烟炭を出す。縣内山地多く、牧馬盛大なり。又野生茶を原料とする製茶の産多し。

別世界を成せる五家莊の山地に發する球磨川は、著名の急流にて、人吉盆地の外平野流を缺き、川口には頭大の石礫あり、林正盛の經營にて、十六里間

僅に通船の利あり。

熊本市は白川に跨り、飛白織を産す。近傍に第五高等學校あり。明治十年役にその名高き熊本城址に第六師團司令部をおく。

熊本市北東の隈府には菊池氏一族を祀れる菊池神社あり。球磨川口の八代には懷良親王を祀れる八代宮あり。又球磨川上流に産する木屑を原料として紙を製す。

火山地方
は温泉に
富む

大分縣 阿蘇の裾野は本縣の西部に延び、又南境に祖母山、北西境に英彦山あり。山地は林産多く、頗る竹材に富む。平野は別府灣に注ぐ大野川附近を稍大なりとす。火山多くして温泉に富み、地形極めて錯雜にて、大分臼杵日出中津竝に筑後川上流盆地の日田等の小都會分立し、未だ市制を施けるものなし。縣下製絲織物業盛に、日出を中心とする琉球

又第十一旅
司園全部あ
り

琉球表座頭
全圖三三
大分

表の産は府縣第一に居る。

大分は檜物細工の産あり、宇和島大阪間の航路に當る。北西に温泉を以てその名高き別府あり。中津は山國川口に位す。川の上流に耶馬溪の勝あり。宇佐は官幣大社宇佐八幡宮を以て名高し。

宮崎縣 九州南部山脈を以て熊本縣と限り、地勢東に傾き、五箇瀬川、大淀川等東流す。南西境には霧島活火山あり、東西二峰に分れ、その裾野は都城附近に達す。縣内山林原野大部分を占め、未だ開拓せられざる所多く、山林は船材、竹材を出し、又椎茸の良品を産す。海岸亦平直にて遠淺なれば交通の便悪く、都邑と稱すべきものは宮崎、延岡、都城に過ぎず。海港は北の細島港、南の油津港稍著はる。沿海には鯉鰯の漁獲漸く多し。

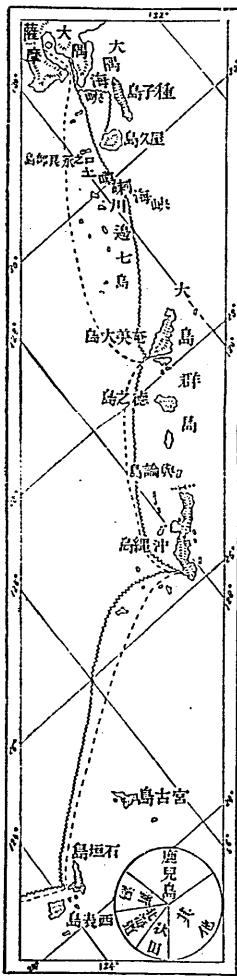
鹿兒島縣 薩摩大隅の二大半島南に出て、鹿兒島灣を

附第三二圖
附第三一圖

附第三圖

第五〇圖
薩南琉球
金産額
全島九
新島二
北海一
秋田三

擁し、その南西海上に種子島・屋久島、及び川邊七島・大島群島、竝に琉球に近接せる與論島等あり。その一部は霧島火山脈に當る。又薩摩の西に甕島あり。薩摩半島南端の開聞岳は櫻島と共に著名の火山なり。域内山丘起伏して、小平野分立し、畑地の多きと、牧馬の盛なるとは府縣第一に居り、古來薩摩馬の名高し。又牛尾山・野等著名の金山ありて産額頗る多し。海岸は西部に鯉鰯の漁利多く、南端の坊津は鰯漁の一根據地たり。



附第三圖

屋久島には杉の良材あり。大島は大島紬・砂糖・蠟表を産す。
鹿兒島市は城山を負ひ、櫻島を控ふ。鹿兒島線鐵道の終點に位し、第三十六旅團司令部・第七高等學校造士館の設あり。飛白織を産す。

鹿兒島市北東の國分は烟草の産を以て知られ、北西の伊集院附近は薩摩焼を産す。

沖繩縣 琉球列島は帝國の地勢に従ひて、薩南諸島の南西に連れる五十餘の島々にて、沖繩群島と先島列島(宮古・八重・成)との二に分る。熱帶に近きを以て氣候熱く、年中霜雪を見ず。夏・秋の候颶風多く、人家は低き平家造にて、周圍に石垣を廻らす。

島内丘陵連りて、椰子・蘇鐵・芭蕉竹等四時繁茂し、米は二回の收穫あれども、水利乏しく産額少し。農民は甘藷を作りて

常食に供し、甘蔗を栽ゑて砂糖を製す。又盛に豚を飼ふ。芭蕉布・飛白・漆器等の工産あり。海岸には珊瑚礁多けれども、沖縄島の運天港、開港場那覇港、西表島の船浮港等の良港灣あり。

那覇區は開港場の一にて、縣下の產物を輸出し、米穀を輸入す。港は水淺く、大船を容れ難し。

首里區は舊藩王尙氏の城地にて、泡盛酒を産す。

沿革 琉球は天孫氏の開く所と稱す。後源爲朝の子尊敦國內を一統して、舜天王と稱し、孫義本に至りて位を天孫氏の裔に譲る。慶長中島津家久これを討ちて、永くその所屬とせり。明治五年朝廷尙泰を藩王に封じ、華族に列し、同十二年沖縄縣を置く。住民の言語風俗等他府縣と趣を異にするものあり。行政上舊慣を參酌する所多し。されど、教育の普及、交通の發達と共に漸く大差なきに至らんとす。

九 臺灣

新日本中等地圖 第十二圖參照

琉球には酒
造税を課せ
ず、出港税を
課す

地形 我が邦の南西端にある大島にて、西に澎湖列島南東に紅頭嶼・火燒嶼等の屬島あり。臺灣海峡を隔てて南清地方に近接し、南はフィリピン群島に對す。(一)數條の山脈より成れる、臺灣山系は南北に走りて、シルヴァア山・新高山等の高峰を起す。又北端に大屯火山彙あり、脈を澎湖列島に延く。(二)北部には臺北・宜蘭の二平野あり。山脈の西部は地廣く、次第に下りて大平野を成し、淡水河・大甲溪・大肚溪・濁水溪・下淡水溪等その間を流る。沿岸概ね平砂にて、砂丘發達す。(三)東部には山脈に平行して流る、秀枯・藻溪・卑南溪等あり、臺東平野を開く。その東に臺東海岸山脈あり。急傾斜をなして、海に迫れる絶壁に終る。

氣候 新高山以南は熱帶にて、夏季永くして

	平均温度	最高温度	最低温度	雨雪量
臺北	二一・五	三六・五	(一〇・二)	二〇・六六
恒春	二四・三	三四・四	九・八	二二・四七

温度高く、三十七度に上る所あり。北部には冬季北東風多く、南部には夏季大雨を來す南西風あり。澎湖島は風力殊に強し。

△附第三四圖

◎附第三五圖

第五〇圖
臺灣茶四
季產額比
較

全產額一
千萬元を
超ゆ

*附第三六圖



産業 温度高く濕氣多きを以て、植物の發育極めて盛にて、山地には櫛櫚樟の大森林あり。新高山麓の阿里山最も著名なり。平地は檳榔・榕樹・林投樹・竹等茂り、林業有望なり。農業は西部及び南部に盛に、埤圳(池溝)を設けて灌漑に供す。米は一年二回の收穫あり、茶は四季共に摘むべく、甘蔗樟腦と共に本島の大富源を成す。その輸出盛なり。又龍眼・肉香・蕉・鳳梨・柑・橘類等の果實頗る多し。牧畜は到る處に盛に、水牛・豚を飼ひ、水牛は農耕に用ふ。礦産は北部に金・石炭・硫黄等あり。水産は盛ならず。冬季天日製鹽盛に行はれ、鹽埕多し。食鹽は政府の專賣なり。

△附第三七圖

*附第三九圖

◎附第三八圖

人口・都會 人口三百餘萬人あり。その内、内地人は約六萬餘に過ぎず。臺灣人大多數を占め、馬來種に屬する蕃人これに次ぐ。蕃人には平野に農耕を營む熟蕃と、山間に住する未開の生蕃とあり。北部及び西部の平原地方は風土大に開けて、臺北を初め、臺南・嘉義・彰化等繁盛の都會多く、沿岸には基隆・淡水・鹿港・安平・打狗の諸開港場あり。東部は開拓未だ全からず、人烟疎なり。

交通 河流は大雨のために屢、氾濫し、水利の便あるは唯淡水河あるのみ。道路は不完全にて、旅客は轎に乗り、川には竹筏を用ふ。鐵道は西部を縦貫し、又臺北より淡水に達する支線あり。

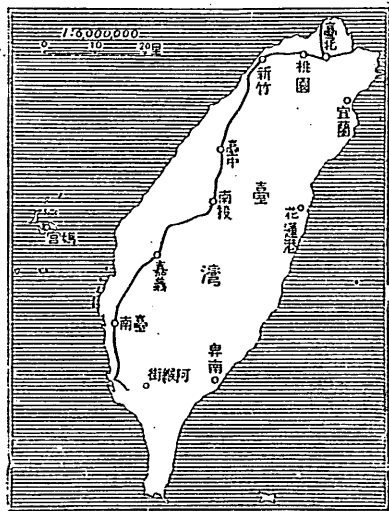
水運は神戸・基隆間(門司經由)直航の定期航路、基隆を起點とする東廻り・西廻り等の航路あり。北端の富貴角、南端の南

第五一圖
臺灣の位置

岬及び重要諸港に燈臺をおく。海底電線は安平より澎湖島に、又基隆より鹿兒島縣に、淡水より南清地方に達す。

沿革政治 本島は足利氏の末年、我が南西地方の冒險家が根據とせる處なりしが、海外通商の禁

嚴なるに及びて、全く蘭人の經營に歸せり。清朝の初め、鄭成功父子蘭人を逐ひて、これに據り、清朝に抗す。その滅ぶるに及びて、遂に清領となる。明治七年、牡丹社蕃人我が漂流民を慘殺し、爲に征臺の役あり。明治二十七八年、役我軍澎湖島を占領し、媽和成るに及びて、本島並に諸屬島を我に收め、バシー海峡可航水道の中央を以て南界とす。現時臺北に臺灣總督府をおく、その下に十二廳あり。



北部 シルヴァ山以北の地方にして、臺北・桃園・新竹・宜蘭の四廳これを分治す。臺北及び桃園附近は田畑開け、稻作地は全島の三分強を占む。又茶・樟腦の産額多く、礦産には金石・炭・硫黄等あり。

臺北は淡水河の上流に位し、人口八萬餘あり、城内・城外の二部に分る。城内には總督府・覆審法院・國語學校・臺北廳あり。城外は烏龍茶の精製取引多し。附近に臺灣神社あり。基隆は内地に對する門口にて、要塞の設あり。開港場にして一部の築港成り、大汽船を横着けすべし。茶・樟腦の輸出多く、内地との取引最も盛なり。淡水港は本島主要の開港場にて、綿布・阿片の輸入多し。その市街地を滬尾といふ。

基隆の附近に金瓜石・瑞芳・牡丹坑等の有名なる金山あり。



中部 シルヴァ山の南西より、南は鹽水港街の南を流るゝ急水溪の右岸に至る地方にて、臺中南投、嘉義の三廳これを分轄す。臺中附近の平野は本島主要の米產地をなし、鹽水港附近は砂糖、食鹽の産額最も多く、南投廳下は樟腦の製造最も盛なり。

鹿港は彰化の西に位す。淡水、安平に次ぎて貿易盛に、支那船の出入多し。埔里社は南投の東にあり。本島の蕃社は此地を分界として、南蕃、北蕃に別つべし。

南部 急水溪以南の地方にして、全く熱帯に位す。臺南阿緱の二廳あり。沿岸には砂丘發達し、下淡水河の外、水利を缺き、主として甘蔗を栽培す。臺南廳下は再製糖の製造盛に、又木藍の産額最も多し。

臺南は曾て本島の首府たりし所にて、本島第二の都會な

り。

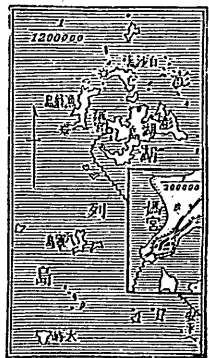
打狗は砂糖、食鹽の輸出多く、現今築港中にあり、將來有望なり。安平は臺南の西に位す。又砂糖を輸出す。

東部 秀姑巒、奇萊、卑南三溪の流域に狭長き平野あり。近年漸く開拓の緒に就けり。卑南に臺東廳、花蓮港に花蓮港廳を置く。

澎湖島 帝國南門の要地にて、澎湖、漁翁、白沙三大島の間に碇泊極めて安全なる澎湖海を擁す。地平坦にて、川なく、又喬木なく、飲料水に乏し。耕作物は唯甘藷、落花生あるのみ。

媽宮は軍事上航海上の要地にして、要塞の設あり。

臺灣には鹿港の外、塗葛窟、西港、後壠、下湖口（北港溪）、東石港、東港、蘇厝及び澎湖島媽宮等の特別開港場あり、當分の内支那形船に限りて、出入し得るものなり。



第五三圖
澎湖列島

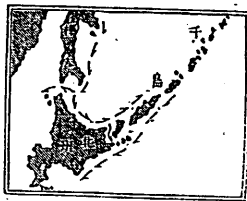
北海道

新日本地圖
第十卷
參照地圖

地形 北海道本島と千島列島とより成る。北海道本島は六大島中第二の大島にして、樺太山系殆ど南北に連り、千島諸島より來れる千島火山脈と中央部に會し、又タカムウシベ・十勝岳等の高峰を起し、石狩・天鹽・十勝諸大川の分水界を成す。^(a) 南西部は概ね膽振火山脈に屬する山地にて、その脈を本州に延く。駒岳・有珠岳・樽前岳・マクカリ岳・蝦夷富士等著名の火山あり。火山岩の分布廣大なり。^(b) 平野は諸大川の流域に廣く、石狩川流域の石狩平野最も大に、十勝川流域の十勝平野これに次ぐ。天鹽川沿岸の天鹽平野は狭くして長し。

海岸は渡島イカニシマ後志シロベシ膽振ニハシの三國山勝ちの半島を成し、最も出入に富み、その東部には内浦灣深く灣入す。半島の南端は南東

第五十四圖
北海道的
氷流區域



に惠山岬南西に白神岬突出して、函館港その中間に位ず。積丹半島は北西に突出して、小樽港と岩内灣とを分つ。(一)北端の宗谷岬は樺太に對し、(二)北東の知床岬は低平なる北見根室の海岸を分つ。根室には中部に野村、南に納沙布岬の斗出あり。(三)襟裳岬は日高山脈の南端を成し、南海岸中部に突出す。

氣候 緯度高ければ一般に寒冷にて、上川高原の旭川は零下四十一度に下りたることあり。十一月末より雪降り初め、年中降雪期間百三十日に及び、四月に至りて融解す。沿海地方は海流の關係は由りて、東

西の氣溫
に著しき
差異あり

	平均温度	最高温度	最低温度	雪日数
函館	八、四	三三、六	(一)一二、七	一一一
札幌	六、八	三四、一	(一)三五、六	一一五
宗谷	五、四	三二、一	(一)二一、六	一〇九

オホツク海沿岸は冬季氷結す。又東半部は雨少く、海岸に流水あり。親潮オホシホの對馬海流支派に會する海上は霧多く、燈臺には霧笛を置く。

産業 沿海は南東岸一帯親潮に洗はれ、西岸に對馬海流の支派を受くるを以て、水産最も豊かに、鯨、鮭、鱒、昆布等の漁利多く、日本海岸の諸港には漁業の中心として榮ゆるもの多し。奥尻、利尻、禮文の諸島及び東岸の根室、國後島は鯨の好漁場たり。^(一) 島内は到る處蝦夷松、檜、松、落葉松繁茂し、平野は伐木して開拓したる所あれども、内地には斧の入らざる所多く、山林は約六百萬町歩あり。鐵道枕木、マツ軸木、經木紙の原料は殆ど無盡藏とす。^(二) 又所々に大規模の牧場あり、馬、牛を産す。^(三) 農業は西洋犁を用ひて馬耕を行ひ、大豆、麥、馬鈴薯の産額年々増加す。又土地の狀況に由り、或は特用農作物

附第四〇圖

水産漁獲物は鹽漬又は乾物に製し食糧又は肥料として國內又は清國に供給す

附第四一圖

附第四二圖

附第四三圖

を主とし、或は果樹蔬菜を専らとするあり。(ホ) 礦産は石狩最も石炭に富み、硫黄は渡島に多く金は枝幸エサシを初めとして、所々に砂金の産地ありて、その産額多し。(ニ) 工業は、チ軸木・酒・澱粉の製造、木材挽割等最も廣く行はる。

一、位置	南清と近接す	露領と近接す	北海道
二、地形	一大山系と火山嶽	二山脈と火山脈	
三、河道	急流にて洪水多し	屈曲多く流水あり	
四、林産	樟腦、木材	軸木、枕木、木屑	
五、礦産	石炭、金、硫黃	石炭、金、硫黃	
六、水産	乏し	極めて豊富なり	
七、畜産	水牛、豚	馬、牛	
八、製造	茶、砂糖	麥酒、麥粉、麻	
九、土人	蕃人	アイヌ	
十、門口	基隆、淡水	函館、小樽	

人口都會　維新以來奥羽新潟北陸地方より移住するもの多く、一箇年六萬人に達し、人口年々増加すれども、總數百十餘萬に過ぎず。面積の大なるに比して、人口極めて粗なり。古來本土に蔓延せし舊土人（アイヌ族）はその數二萬に滿たず、主として膽振・日高地方にあり。得撫以北の千島は殆ど無

附^④第四圖

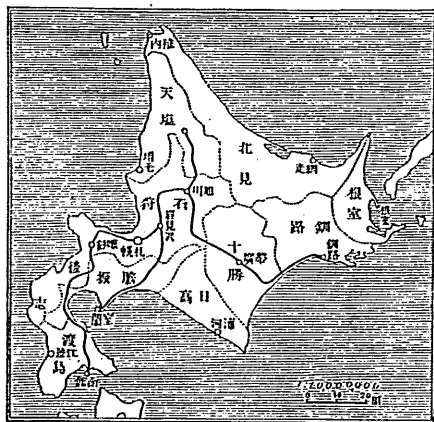
帝國の平均
密度に達せ
しむるには
尙ほ十倍の
人口を容る
べし

人の地たり。都會は札幌を本道開拓の中心とし、小樽・函館を門口とす。

交通 ⁽¹⁾ 道路未だ充分に開けざれど、主要の通路には無人の地と雖も、驛遞の設ありて馬を備へ、且つ旅宿の便に供ふ。石狩川には小蒸汽船航行す。⁽²⁾ 鐵道は函館に起りて、小樽・札幌を過ぎ、旭川に達する函館線及びこれと連絡する天鹽線を西部の幹線とし、又旭川に起りて、横に本島南東部を貫ける釧路線及び左の諸線あり。

室蘭線 室蘭岩見澤間
夕張線 追分夕張間等

第五
北海道
支島
及
本
國
所
在
地
の
別
認



幌内線 岩見澤幌内間等

歌志内線 砂川歌志内間

手宮線 小樽手宮間

⁽³⁾ 航路は函館・室蘭より青森に、又函館・小樽より神戸との間に東廻線の定期航路開け、知床岬の外、著名の岬端及び港口に燈臺の設あり。⁽⁴⁾ 函館より青森縣に二條の海底電信線及び電話線を通ず。又千島の國後・擇捉及び樺太に海底電信線あり。

沿革政治 北海道本島は舊蝦夷の地にて、豊臣氏の時蠣崎慶廣・松前氏を稱し、福山に居りてこれを管す。明治二年全島を十箇國とし、千島諸島を合せて北海道と總稱し、開拓使廳を札幌に置きて管治せしめたり。後開拓使廳を廢し、更に北海道廳を置く。現時その下に三區十六支廳あり。

西南部 ⁽⁵⁾ 渡島、後志、膽振、日高、平野は膽振の中部に存し、石狩平野に連續すれども、概ね火山灰に掩はれ、その他は殆ど山丘に充さる。日高は牧場に適する所多く、新冠川流域に新冠御料牧場

あり、良馬を産す。西海岸は鯨、鮭、鱒等の水産に富み、渡島の沿岸は昆布の産多し。函館・小樽の外、江差・壽都・室蘭の諸港あり。

函館區は函館灣に臨む。人口八萬餘、控訴院、商業學校、商船學校あり。夙に開港場の一なり。又樺太・シベリヤ地方出漁の根據地にして、鮭、鱒、昆布、鰯、鱈、鰯を輸出す。要塞の設あり。小樽區は札幌に通ずる道路、鐵道開けてより、其門口となりて發達し、人口九萬餘あり。西岸唯一の開港場にて、樺太・シベリヤに定期航路開け、商業の盛。函館と伯仲す。鰯、粕、石炭、鐵道枕木等を輸出し、米、織物等を輸入す。小樽高等商業學校をおく。

室蘭は海陸運輸の便あり。開港場の一にて、石炭の輸出多し。函館北東の五稜廓は函館奉行の築く所、維新最終の古戰場として、その名高く、その外濠は製氷所として名あり。

第五六圖
石狩炭田
地方

又第十三、
第十四旅團
司令部あり

中部^{石狩} 石狩大鹽二大川の流域を占め、
 その上流地方には蝦夷松・根松・落葉松等の
 森林多し。石狩平野は地味最も肥沃に、開拓
 事業亦最も進歩す。平野の東には夕張・幌内・
 幾春別・空知等の炭山あり。海岸は鯨漁業殊
 に盛に、又鮭・鱈の産多し。札幌・旭川を初め、岩見澤・増毛等の
 都邑あり。



札幌區は道廳の所在地にて、又札幌支廳東北帝國大學札幌農科大學札幌神社あり。全道開拓の中心にて、麻麥酒麥粉等の製造盛なり。

旭川は上川高原に位し、北海道交通の中部中心點を成す。第七師團司令部、上川支廳を置く。近郊には離宮の豫定地あり。

オホツク海に面する一帯の地方にして、河流

平野の大なるものなく、海岸には猿澗・能取等の潟あり、砂濱にして、屈曲乏し。網走附近稍開けたり。

東南部十勝、釧路 北境山深く、雌阿寒雄阿寒等の火山多し。南部には十勝川・釧路川の沿岸に廣き平野開け、十勝平野には帶廣を中心として、廣大なる殖民區劃地あり。鐵道の開通と共に開拓稍進みたり。海岸に釧路・根室の二開港場あり。附近は鯨・昆布の産多し。

釧路は釧路川口にあり。マツ・軸木ハルキを産す。根室は東岸第一の都會にて、漁業盛に、鯨の罐詰業盛なり。近時開港して、水産物に限り、輸入することを得るに至れり。

千島 根室の北東よりカムチャツカ半島の間に連る。國後・色丹・擇捉・得撫・新知・占守等の諸島あり。その面積四國島に比敵するも、概ね火山を戴き、平地乏し。國後島には鯨・漁業盛なり。

二 樺太

新日本中等地理
第十四回圖参照

地形 北海道本島の北に當れる一大島にて、その間に宗谷海峡を挟み、西は間宮海峡を隔て、シベリアに對す。その北緯五十度以南を我が領土とす。

中部には本島を縦に貫ける樺太山脈あり、南に走りて、西能登呂岬に達す。又その東に當りて、稍南東に走れる一山脈あり、その脈北知床岬に延ぶ。兩山脈の間は中央低地帯にして、南北に延びたる幌内川流域の大平野あり。その北部は沮洳の草原を成す。これをツンドラといふ。

海岸は南端に亞庭灣あり。大泊その灣頭に位す。その北には南東に向ひたる多來加灣あり。海豹島・灣口の東に位す。西岸は出入甚た乏く、南方海上に海馬島あり。東岸は寒流

(樺太海流) 南下し、冬季は氷塊を流して、北海道沿海に至らしむ。

氣候 北西岸はシベリアの影響を受けて、寒威殊に強く、間宮海峡は十一月以後に至れば氷上人馬を走らすべし。對馬海流の餘派を受くる南

西岸は稍、溫和なり。

平均温度	最高温度	最低温度	雨雪量
大泊 二、三	二七、九	(一)三一、一	七〇七耗

産業 西部地方は良質の石炭に富み、内地には蝦夷松、榎、松、落葉松、茂り、馴鹿、熊等を産す。農業未だ開けず。水産を以て本島の大富源とす。鯨の漁獲は北海道よりも多く、幌内川の鮭、鱒は古來有名なり。海豹島は有名なる鰻、鰯、鰒の一大繁殖場とす。

人口、都會 内地人の定住するもの約四萬人あり。その他毎年漁獲の爲め出稼するもの少からず。土人はアイヌ族を主とし、オロ、コ、ギリアク等二千内外に過ぎず。人口稀にし

附第四六圖

て、都邑の名あるは大泊、豊原等に過ぎず。

大泊は本島の門口を成せる港市にして、又漁業の中心地なり。されど港は水淺くして汽船は沖にかゝり、北風を防ぎ難く、冬季は氷結して、交通を杜絶するに至る。豊原は鈴谷川上流の沃野にあり。樺太廳を置く。又官幣大社、樺太神社あり。眞岡は本島唯一の不凍港にして、西岸漁業の中心地なり。

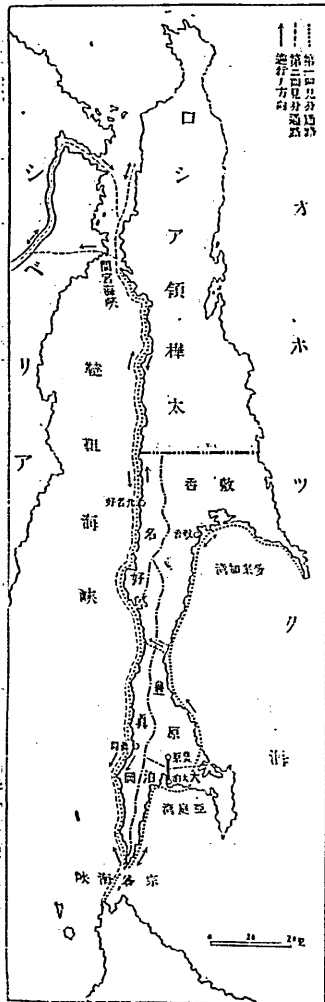
交通 陸上には大泊より豊原に至るまで輕便鐵道あり。近海は冬季氷結して、航通を絶ち、春季も流水と霧とのため航海極めて危険なり。北州に海底電線を通ず。

沿革、政治 本島は徳川幕府の時、既に視察探檢したる處にて、文化五年松田傳十郎は西岸を巡視し、間宮倫宗は東岸を巡視して、多來加灣岸に至り、更に西岸に出て、約北緯五十二度の地に達し、翌年海峡を渡りてシベリアに入り、初めて樺太の島なることを明かにしたり。その後露國は漸く全島を侵略し、明治八年遂に北千島諸島と交換して全島を領有し、流罪囚を送りしが日露戰役後北緯五十度以南は我が版圖に歸し、國境に四個の天測境界點を

附第四七圖

設け、又林空を造りて、これを標示す。樺太廳及び大泊豊原眞岡名好敷香の五支應を置く。

第五七圖
樺太支應所
在支應地
點を以て
示す

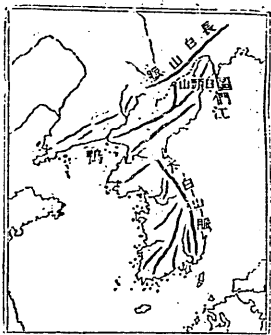


三 朝鮮

新日本中等地圖
第十五圖參照

地形 アジア大陸より突出して、日本海と黃海とを分てる半島にして、本州より稍小なり。(1) 北境には滿洲との間に長白山脈あり、白頭山をその最高峰とす。圖們江、鴨綠江は長白山より出て、東西に分流して、滿洲との境界を成す。又鴨綠

第五八圖
朝鮮の地
形

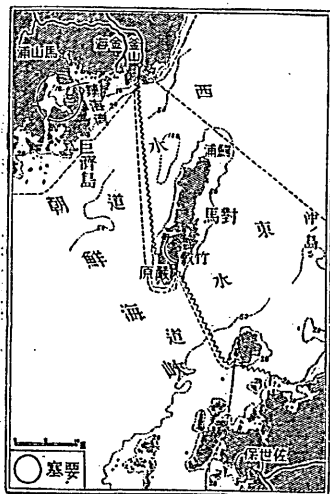


數派に分派し、洛東江等その間を南下し、その流域に沃野を作る。

海岸は、(2) 東岸出入に乏しく、永興灣の外、良港灣少し。海上には寒流あり、明太魚、鯨等多し。(3) 南より西に至る海岸は、

江の南には西流する大同江あり、下流に一大平野を開く。(4) 中部には太白山脈東に偏して半島を貫き、その東部は地勢嶮にして、海に急斜し。西部は丘陵起伏して、漢江、錦江その間を流れ、地形開け、沃野を成す。(5) 太白山脈の南部は

第五九圖
朝鮮海峡



概ね出入に富み、海淺くして、潮汐の差多し。釜山・鎮海・灣・木浦・仁川・鎮南浦等の良港あり。南の海中には濟州島を初め、無數の島あり。その沿岸には暖流流れ、鯛・鰻等の魚族に富む。朝鮮海峡は國防上重要な地點なり。

氣候 一般に大陸性にて、夏季の温度高く、冬季は河水氷結す。唯南西部は海洋の影響を受け、概ね溫和にして雨量稍多し。

	平均温度	最高温度	最低温度	雨量
釜山	一三、五	三三、六	一〇、三	一四三六耗
仁川	一〇、五	三四、六	一五、四	九五六
城津	八、〇	三〇、七	一二、四	五八六

産業 大部は農業行はれ、米・大豆・生牛皮を主要の農産物とす。又綿・煙草・麥・麻等の栽培に適し、人參・藥を特産とす。國內山林の荒廢したる所多きも、國境附近殊に鴨綠江・豆滿江の上流地方には、有名なる森林地あり。又虎豹等の動物あり、毛皮の産少からず。鑛物は金最も名あり、又銅・鐵等を産す。

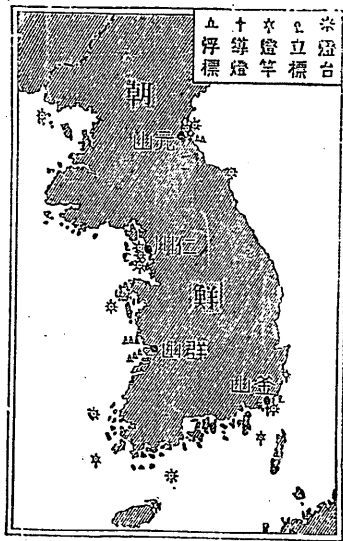
附第四八圖

第六〇圖
朝鮮の海岸線

沿海は海流の影響により、明・太・魚・鯨・鯨・鰺・烏賊等に富み、内地より出漁するもの甚だ多し。

人口都會 住民は日本種と大差なし。稍遊惰の風あり。上流社會にありては、儒教を信奉するもの多し。人口約一千萬あり。密度甚だ疎にして、奥羽地方にも及ばず。内地人の在住するもの約十萬人あり。都會は南部及び西部の平原地方に發達し、京城を初めとし、平壤・大邱等あり。沿岸には釜山・木浦・群山・仁川・鎮南浦・新義州・城津・元山等の開港場あり。

交通 京釜・京義の二鐵道は半島を縦斷して、幹線

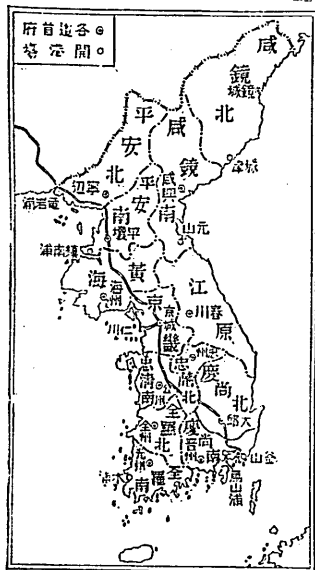


を成し、馬山・仁川兼二浦に支線を出す。水路は南岸及び西岸良港に富み、航路標識の設け備はり、日本郵船・大阪商船の航路に當り、内地諸港との連絡密なり。

沿革政治 内地と歴史上の關係最も密接にして、南部は神功皇后の征韓後久しく我が領地たり。凡そ五百餘年前李成桂初めて國を朝鮮と號し、王位に即き紀元二千五百十二年しが、豐公征韓役には、全國殆ど我が占領に歸し、徳川幕府に至りて、使聘を通じ、互に相往來したり。明治十年我が國は修交條約を締結して、世界列國の伍伴に入らしめしが、國勢振はず、日清日露の兩役を経て、明治三十八年我が保護の下に立たしめ、統監を派して、内外の政務を指揮監督し、又軍隊を駐屯せしめしが、明治四十三年韓國皇

朝鮮の沿革

各道首府
開港場



第六圖
朝鮮の區劃

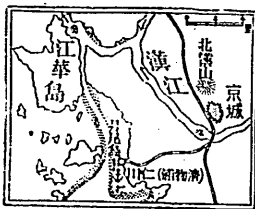
帝は韓國全部に關する一切の統治權を日本國皇帝に譲り、遂に我が國の一部たるに至れり。現時京城に朝鮮總督府を置く。その下に十三縣あり。

中部 京畿、黄
海、江原 大部は漢江・臨津江の流域にして、半島の首都
京城を初め、仁川・開城等の都邑あり

京城は漢江下流の平野にあり、五百年來韓の國都たりし
地にて、周圍に城壁を繞らし、四方に城門をを設く。總督府駐劄
軍司令部等あり内地人の在住するもの二萬餘に及ぶ。

仁川は京城の外港にして開港場の首位を占め特産人参の輸出を獨占す。されど潮汐の差大にして干潮には船舶沖合に碇泊す。開城は京城の北西にあり人参を産す。

南部忠清、全羅、慶尙 半島最南の地方にて、三南の稱あり。概ね百濟百濟新羅新羅の故地を占む。錦江榮山江、洛東江等の諸川あり。米大豆棉花の産多く



附第五〇圖

第六二圖
京城附近
附第五一圖

朝鮮の穀倉と稱せらる。近海は島多く、最も水産物に富む。釜山・大邱・木浦・群山等の市街あり、米穀の輸出多し。

第六三圖
釜山港

釜山は絶影島を控へて港を成す。朝鮮第二の貿易港にて、内地との關係上、最も重要な位置を占む。京釜鐵道の起點にして、下關との間に内地鐵道との連絡航路あり。内地人の在留するもの、約二萬人あり。



大邱は洛東江上流の中心地にて、春秋二季に大市あり。商賈群集す。三南第一の大市たり。

北部咸鏡平安鴨綠江・大同江・圖們江の流域に屬し、大豆・牛皮・木材金の産多し。鴨綠江上流の森林、大同江流域の大豆、殊に名あり。沿岸は水産に富み、明太魚の産多し。平壤・鎮南浦・義州・元山城・津等の都會あり。

平壤は北部第一の大都にて、大同江の右岸に臨み、水陸交通の要點に位し、形勝の地を占む。豐公征韓役、日清戰役に、その名高し。鎮南浦は平壤の門口に位する開港場にして、米の輸出多し。新義州は内地人の新に起したる鴨綠江口に近き都會にして、滿洲に入るの要地たり。元山・津は永興灣内にあり、日本海面第一の良港にて、北東部に産する金は、多くこの地より輸出せらる。

附、關東州及び南滿洲新日本中等地圖第十五圖參照

南滿洲は朝鮮の北西に當る。南西遼東半島に至るまで、長白山脈の餘脈起伏し、遼河の流域に地味肥えたる大平野あり、豆類の産頗る多く、高粱・麥類これに次ぐ。鑛産には撫順・烟臺に石炭あり。我が南滿洲鐵道會社これを採掘す。鴨綠江流域は森林に富み、その利權は條約により、日清合同の木材會社に歸す。域内には清朝の舊都にして、滿洲に於ける政治の中心地たる奉天あり、商業亦盛なり。

關東州は南滿洲の一部にして、清國遼東半島の南端を占む。大連・旅順の良港あり。この兩地を起點とし、奉天を経て、長

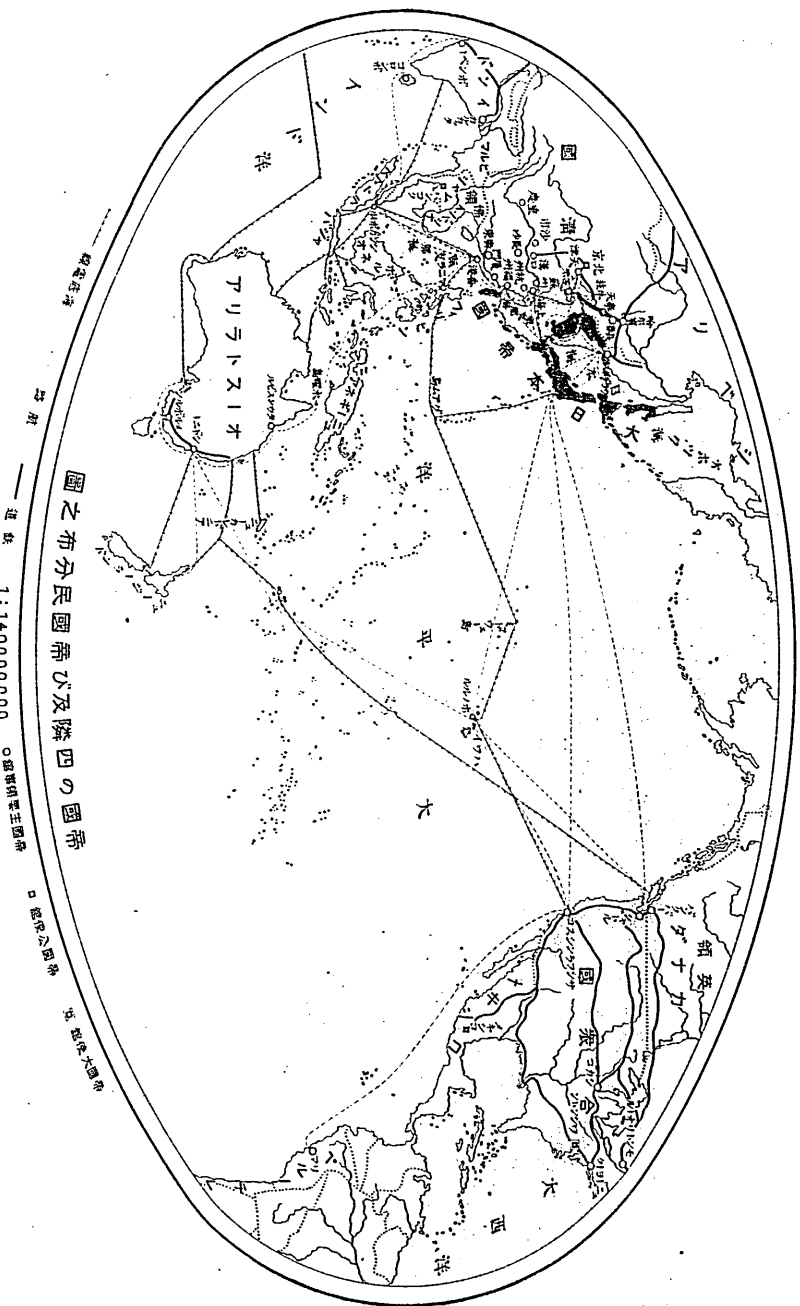
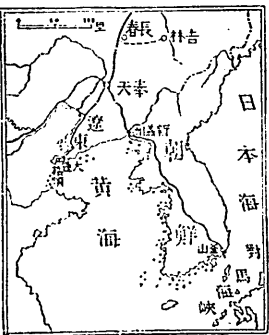
第六四圖
朝鮮及南
滿洲

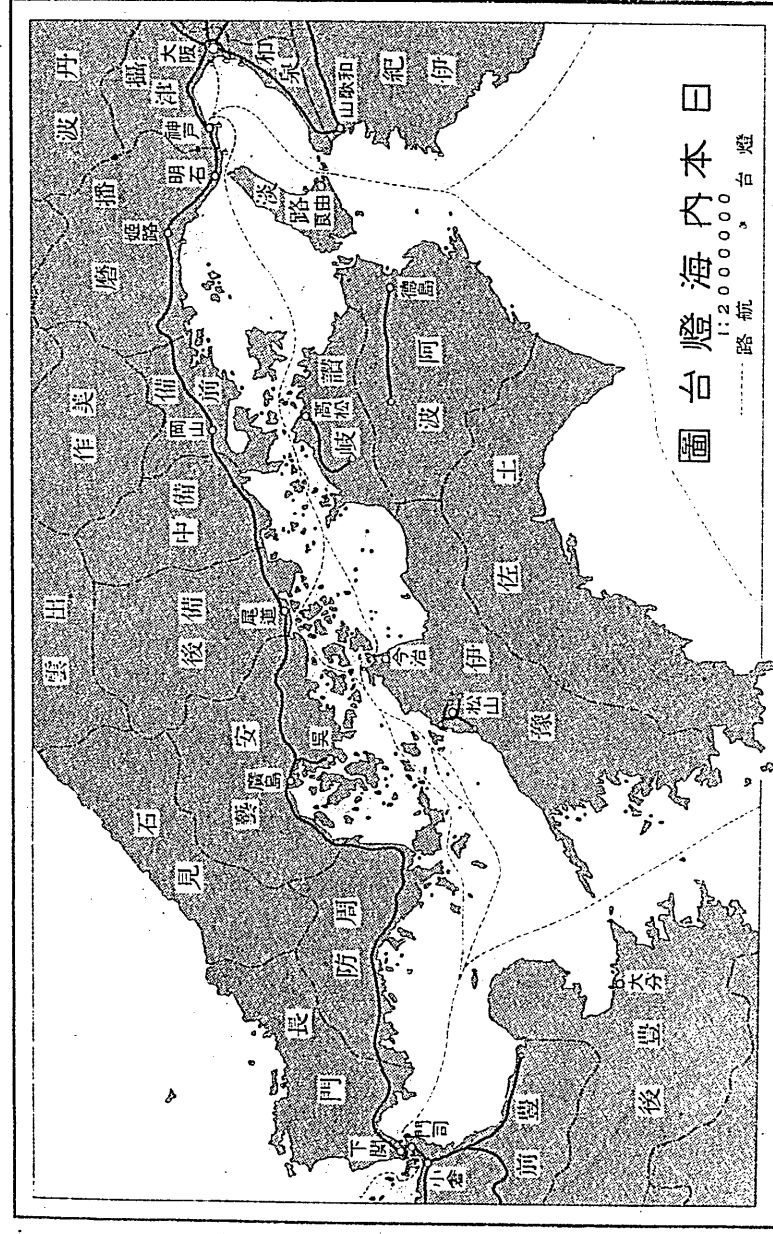
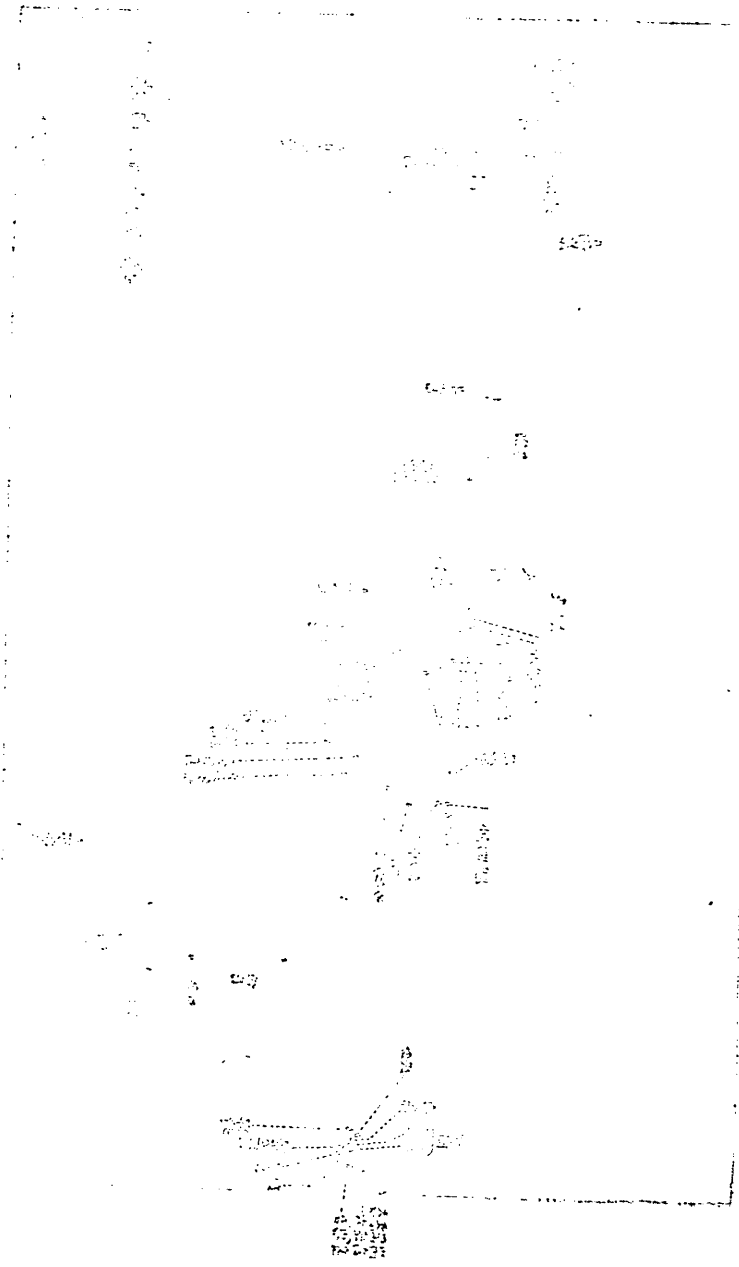
春に達する南滿洲鐵道、並に奉天より分岐して、鴨綠江口の安東縣に達する安奉線あり。南滿洲鐵道は東清鐵道によりて、シベリア鐵道に連絡し、歐亞交通の最捷路を成す。

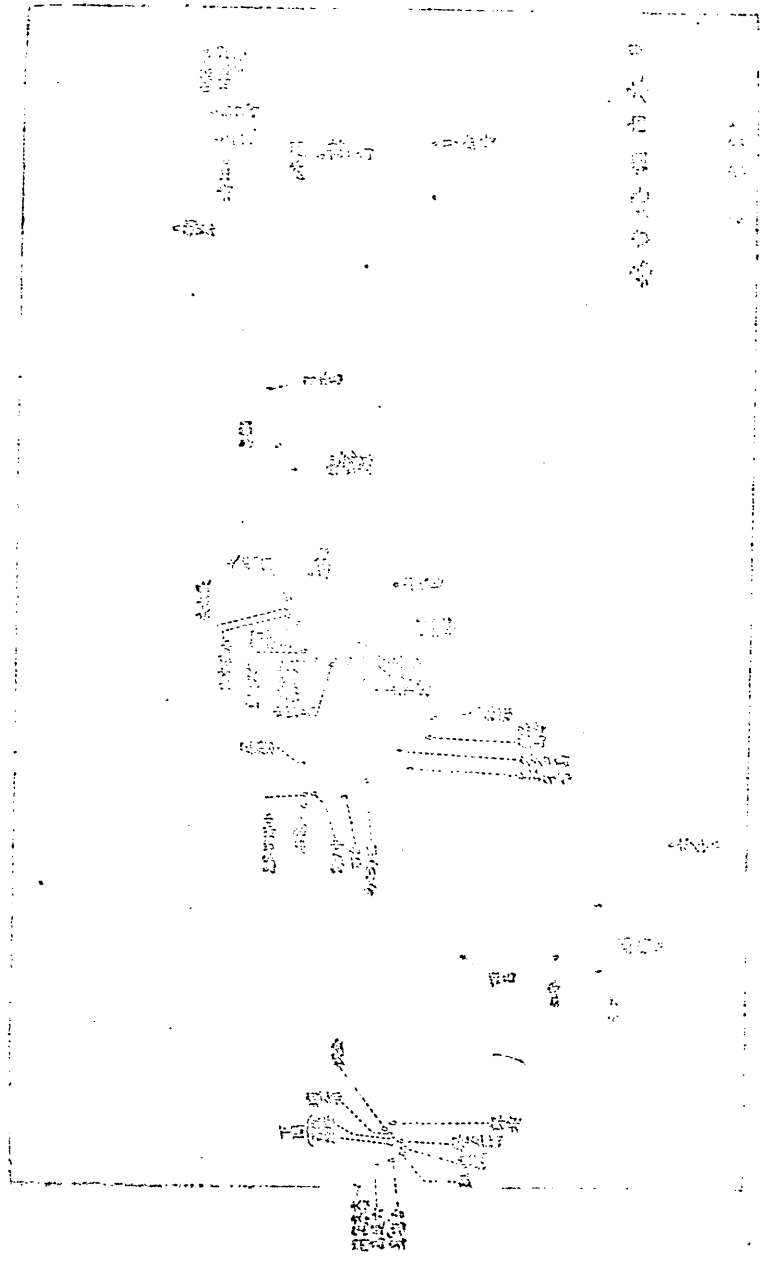
大連は豆・豆粕の輸出、諸機械・綿布・

麥粉の輸入多し。南滿洲鐵道株式會社はこゝにその本社をおきて、同鐵道を管理す。旅順は日清・日露兩役に、その名高き古戰場にして、白玉山上に表忠塔の設けあり。近海警備に任ずる鎮守府、及び關東都督府をおく。又工科學堂、中學校あり、近時その一部港四を開放して、商港とす。

沿革 關東州は明治三十八年の日露條約により、南滿洲鐵道及び附屬炭礦と共に、露國の租借權を、我が國に讓與したるものなり。







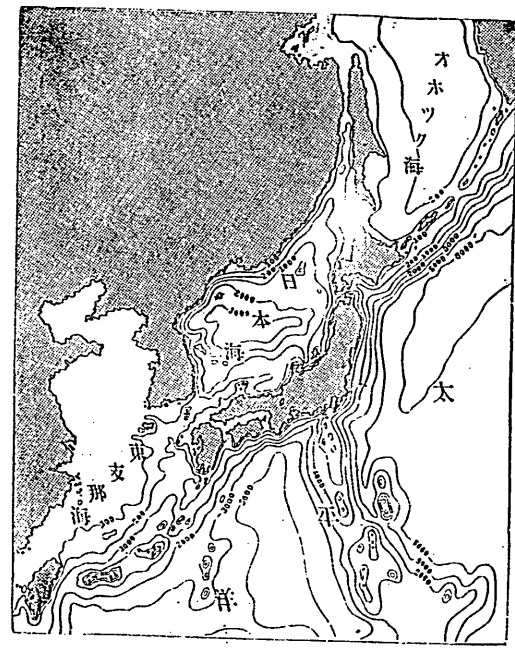
四面の海に接する
人は皆活動が盛なり
しるべきこと
要するに
陸地を離れ
ず

第六五圖
日本近海
深度圖

海洋面の日本

我が邦の大部は北太平洋中、アジアの東岸に沿ひて連り、樺太の北部と朝鮮の北部のみ、陸地に接する。

太平洋は大洋中の大洋にして、我が横濱と北アメリカ合衆國との間は、約二週間の航程を隔つ。その海底は世界に名高き深海多



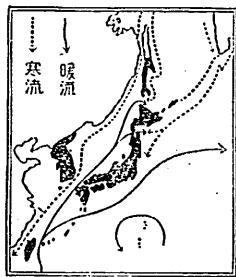
く、千島南東のタスカロラ海底は、深さ約九呎に達し、駿河灣にも二呎を超ゆる所あり。日本内海、東支那海、及び臺灣朝鮮津輕宗谷間宮等の諸海峡は一般に淺く、若し現時の海底を隆起せしむること二百米ならば、本邦諸大島及び朝鮮半島は悉く連續し、日本海の中央に一大湖を存すべく、薩南諸島、琉球、豆南千島の諸列島、亦各二三の大島となるべし。

一、太平洋面 我が國の表玄關にして、諸外國に對し最も重要な海面なり。東には遙に北米大陸の合衆國、及び英領カナダ、竝にその中間の洋中にハワイ群島あり。南方には本州の南に當り我が豆南諸島ありて、大洋洲の諸群島に連り、又臺灣の南にはフィリピン群島、更にその南にはオーストラリア大陸あり。又南東のアメリカ洲にメキシコ・ペルー等の諸國あり。孰れも皆この洋面を通じて我が國と多少の關

第六圖
日本近海
の海流

係を有す。

海流水産 我が太平洋の近海に寒暖二種の海流あり。暖流黒潮(日本海流)はフィリピン附近より北流し、臺灣の東岸を洗ひ、琉球の西部にて對馬海流を分ち、九州・四國・本州の南海を通過して北東に向ふ。この海流の流



るる海面には海産物多く、土佐沖・遠州灘の鰹、九十九里濱沖の鰹、鹿島灘・金華山沖の鯨、牡鹿半島沿岸の鮪等有名なり。寒流親潮(千島海流)は千島の東を南下して、牡鹿半島附近に到る。又樺太の東岸に沿ひて南下する樺太寒流あり。鰺・鮭・鱈・昆布・鰺虎・鰺鮓等の海産物に富む。

港 海外貿易港としては輸出貿易の首位を占むる横濱港あり、全國の生絲・絹織物・茶・銅、竝に北日本の海外輸出品は

多くこの港より輸出す。又北米合衆國より棉花・石油・麥粉・英國より鐵類・ドイツより砂糖等を輸入す。その貿易は日本内海の神戸港と共に全國の約八割を占む。その他、根室・釧路・室蘭・函館・青森・清水・武豊・名古屋・四日市等あり。

横濱 (輸出品: 生絲、羽二重、茶、和菓子、銅等) 四日市 (輸出品: 綿絲、綿布等)
(輸入品: 棉花、鐵、麥粉、砂糖、石油等) (輸入品: 大豆、糖、大豆、石油、麥粉等)
函館 (輸入品: 昆布、硫黃等) 石油、麥粉等

交通 太平洋面は東西諸外國就中米國との交通最も盛にして、その中心を横濱とす。重なる海外航路は日本郵船・東洋汽船兩株式會社の經營にかかる。

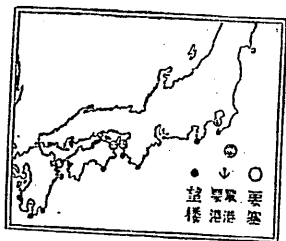
日本郵船株式會社航路 東洋汽船株式會社航路
イ、歐洲線 横濱 (起點) ハ、澳洲線 横濱 (起點)
ロ、上海線 横濱 ニ、米國線 香港 (横濱經由) 1、サンフランシスコ線 神戸 (横濱經由)
横濱 2、南米線 横濱

海底電線は東京灣より起り、豆南諸島附近を経て南下し、北米合衆國領グアム島にて、香港・アメリカ線と會し、東西諸外

國との交通に便す。又潮岬・犬吠岬・落石岬に無線電信海岸局をおく。

警備 太平洋面の大部即ち紀伊半島より東の海面は、横須賀港を軍港とする横須賀鎮守府の所管に屬し、長津呂・潮岬・都井崎・佐多岬・金華山等に海軍望樓を置く、東京灣には要塞の設あり。

三、日本内海 太平洋の一大入海にして近畿・中國・四國・九州の間に位し、四海峽 (鴨門・下関) を以て外洋に通ず。長さ二百四十哩、幅狭き所は僅に三哩、廣きも三十哩を出でず。その淡路島以西は特に瀬戸内海の稱あり。沿岸は砂白く、松緑にして、大小無數の島々、その間に散點し、風光絶佳、航海者の樂園と稱せらる。



航路標識
は三橋ありの
三種ありの

航路 海上は風波穩に、沿岸良泊多く、交通の便利なること遙かに陸上に勝り、古より本州西部交通の要路となり、又清國及び諸外國への航路に當り、船舶の往來頻繁なり。従ひて港灣の修築、航路の標識よく備はり、沿岸繁盛の都會多し。就中神戸・大阪は内海交通の中樞たり。主要なる外國航路は神戸・大阪を起點とす。

大阪商船株式會社航路

イ、	漢口線	大阪	(起點)
ロ、	大連線	大阪	
ハ、	ウラヤポストク線	大阪	
ニ、	天津線	大阪	
ホ、	安東縣線	大阪	
イ、	孟買線	神戸	(起點)
ロ、	北清線	神戸	
ハ、	朝鮮北清線	神戸	
ニ、	ウラヤポストク線	神戸	
ホ、	鎮南浦線	大阪	

日本郵船株式會社航路

港 神戸は輸入貿易港の首位を占め、大阪と相待ちて帝國西部の商業貿易を支配す。又長崎と共に東洋貿易の中繼

第六八回
の
警備
面

港として、將來最も有望なり。輸出品は西部日本の特産たるマツ・花筵・麥稈・眞田・樟腦及び綿絲等とし、印度より棉花、東洋諸國より米、滿洲より大豆等を輸入す。絲崎もこの海面に屬す。

神戸(輸出品)

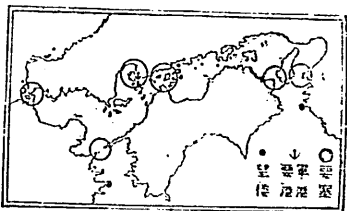
綿絲・マツ・花筵・肉桂・樟腦・眞田等
鐵類・機械類・棉花・大豆・石油等

大阪(輸出品)

銅・綿布・綿絲・マツ・紙・煙草等
砂糖・棉花・牛皮等

水産

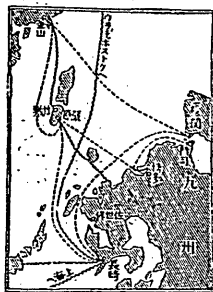
沿岸は砂濱連り、潮汐の干満大に、年中晴天多く、雨量少ければ、おのづから製鹽に適し、十州鹽田夙に開け、赤穂・三田・尻・撫養・坂出等著名の製鹽地あり。漁利亦大にして、内海の鯛は京阪人の殊に賞美する所なり。その漁場亦頗る多し。警備 日本内海は太平洋面の紀伊半島以西、宮崎・鹿兒島二縣の縣界に至る海面と共に、吳港を軍港とする吳鎮守府の所管に屬す。廣



島灣及び藝・豫・豊・豫・下・關・紀・淡・鳴門の諸海峡には要塞の設けあり。又内海の門口に常れる日・岬・鶴見崎・六連島・長門等には海軍望樓をおく。

内海沿岸及び島々の住民は水に慣れ、漁業航海の業に就くもの多く、戦國の頃來島氏來島に據りて海賊の勢強く、鹽飽島民は大内氏に就きて明國に渡航貿易し、太閤の征韓役にはその運輸の任にあたれり、近時は出て清韓方面の遠洋漁業を試みるもの多し。

三、日本海・東支那海・黄海 日本東支那兩海は壹岐對馬朝鮮の三海峡によりて連り、日本海は宗谷・津輕・下・關の三海峡によりて太平洋に、東支那海は臺灣海峡によりて南支那海に通ず。又東支那海の北に黄海あり、直隸海峡によりて渤海灣に通ず。黄海の東岸は潮汐の昇降甚だ大にして、仁川附近に於ては三十三尺に達し、東支那海の一大

第六九圖
對馬海峡

灣入なる、有明海は十八尺餘に及び、日本海は最も小にして約一尺に過ぎず。

海流・水産 暖流對馬海流は琉球の西部に於て、黒潮と分れ、東支那海を経て日本海に入り、本州及び北海道本島に沿ひて北流し、津輕・宗谷兩海峡にて略消滅す。又大陸に沿ひて南下する寒流あり。本州の沿岸、九州の北岸は烏賊を名産とし、北海道樺太の西岸は鯨・鮭・鱒の産頗る多し。シベリア沿海州亦概ね我が國民の漁業區域たり。

港 清國及びシベリアに對する貿易港甚だ多く、日本海には門司・下・關・小樽・元山等、東支那海には長崎口・津・淡水・朝鮮海峡には嚴原・釜山・馬山等、黄海には仁川・鎮南浦等あり。長崎の貿易は横濱・神戸・大阪に次ぐ。

日本海面

東支那海面

門司 (輸出品 石炭・綿絲)

下 (關) (輸出品 石炭・棉花)

長崎 (輸出品 石炭・錫・樟腦等)
淡水 (輸出品 肥料・鐵類・石油等)

その他新潟・伏木・七尾・敦賀・宮津・境・濱田・若松・博多・唐津・嚴原・鹿見・佐須奈・三角・住江・那覇・基隆・木浦・群山・城津等あり又臺灣海峡に安平・打狗あり。

交通 この海面は内地の諸港と、仁川・釜山・大連及び上海・ウラヂボストク等の外國諸港との間に交通頻繁なり。その主要航路は大阪商船株式會社の經營する所なり。

大阪商船株式會社航路

一、大連線 (起點) 長崎

三、福州線

(起點) 淡水

(起點) 五、日本海航路 (冬季休航) 小樽

二、朝鮮線

長崎

四、漢口線

上海

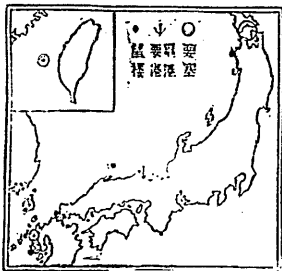
六、ウラヂボストク直航線 敦賀

海底電線は兩海の對岸に通ずるもの數條あり、長崎を中心とし、上海・ウラヂボストク等を連絡す。その他臺灣より清國に達するもの、及び帝國の重なる島々に通ずるものあり。福江島西端の大瀬崎及び山口縣北西の角島には無線電信海

第七〇圖
の警備
日本海

岸局をおく。

警備 對馬海峡及び東支那海は佐世保を軍港とする佐世保鎮守府、日本海は下關海峡附近及び津輕海峡の西口附近を除くの外は舞鶴を軍港とする舞鶴鎮守府これに警備す。關東州近海の警備には別に旅順口鎮守府あり。又國防上大切な海峡島多く、津輕海峡に大湊要港、對馬海峡に竹敷要港、佐世保・長崎・舞鶴・媽宮に要塞あり。その他朝鮮鎮海灣には防備隊を、對馬には警備隊を、野母崎・福江島・平戸島・壹岐・對馬・隱岐・皆月岬等には海軍望樓を設く。



日本東支那兩海面の連絡點なる對馬海峡附近は、大陸との關係上屢、外寇の衝に當れり、元寇の襲來、日本海海戰の如きは國運を賭したる大決戰なり。

總説下

一 産業

新日本中等地圖第十六圖
第十七圖第十八圖參照

農業 我が邦古來農を以て、國の大本とせしかば、國民の大半これに従事す。耕地は全面積百分の十二朝鮮を除くを占む。小金原・那須野及び福島縣郡山附近は維新後開墾せられ、北海道は年々拓殖の業進歩す。耕地整理亦漸く普及し、灌漑用又は排水用ポンプの利用亦漸く起れり。養蠶は農家の重要な副業にして、桑畑は到處にこれを見る。

米は農産の第一に位し、平年産額四千餘萬石に達す。近年米質の改良漸くその緒に就けり。朝鮮亦米の産出多し。麥は米の約二分の一とし、共に國民の常食に供し、酒造の原料とす。茶は主要貿易品にて、約一千萬貫の産出あり。牧畜 奥羽・中國九州等牧場に適する原野の多き地方に稍盛に、南部馬・鹿兒島馬・神石牛・但馬牛は良種と稱せらる。さ

耕地整理は、
排水を
加へ、
灌漑を
し、
土壌を
改良し、
肥料を
施す、
之を
得る、
なり。

附第五二圖
附第五三圖

*
附第五四圖

れど尙ほ外國の良種を入れ、改良繁殖を圖る必要あり。青森・鹿兒島二縣に種馬牧場、その他數所に種馬所を設け、馬政局をおきてこれを管す。又廣島縣に種畜場あり。豚は臺灣・沖繩・神奈川等に固有の良種ありて、畜養盛なり。

林業 山林は生産地中最も廣大にて、御料林・國有林・民有林の區別あり。木材・竹材・薪炭の外、北部には漆樹多く、南部には樟ありて、樟腦・漆汁等の副産物を出す。國有林は本州・四國・九州を十大林区に別ち、之を管理す。又治水の必要上保安林の設定あり、造林漸く行はる。

朝鮮は防寒のため、溫突を用ふる風あり、燃料を要すること多く、都邑に近き山林は概ね荒廢したり。

礦業 石炭は筑豊・石狩・常磐の三炭田を主とし、その産額は礦産の第一に居り、銅はこれに次ぎて、多くの大礦山あり。

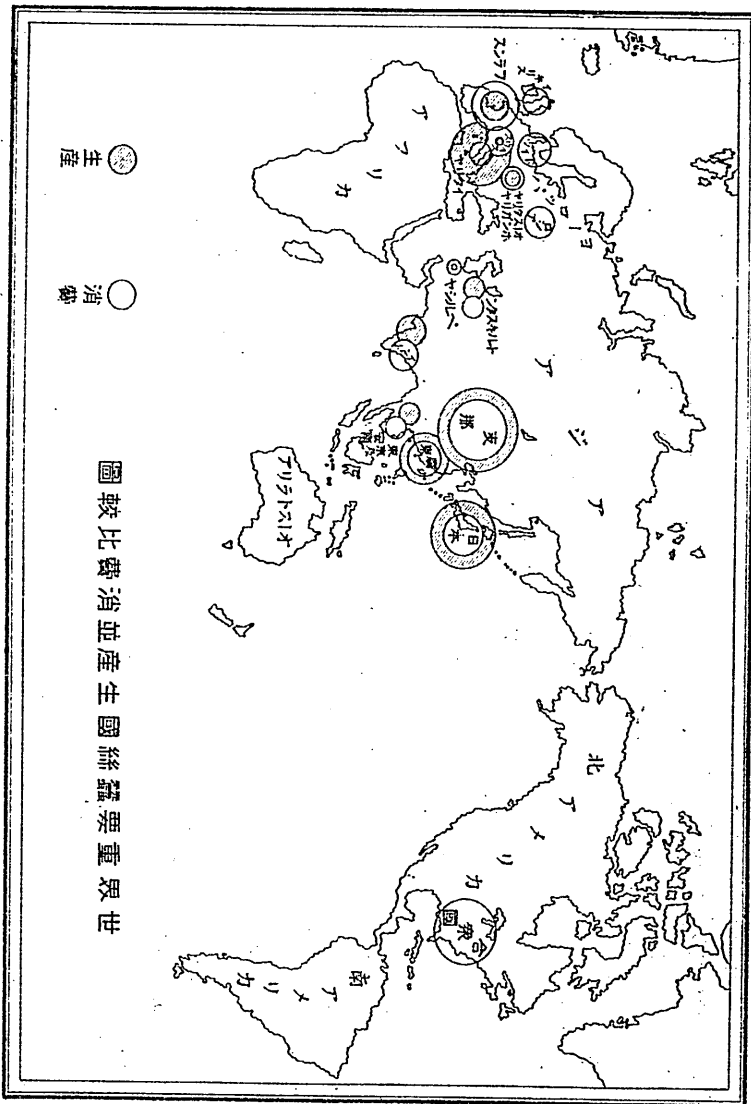
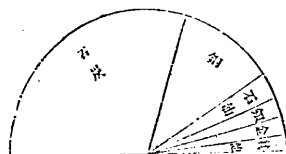
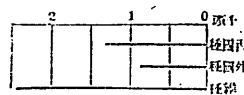
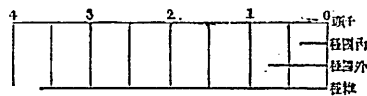
第七一圖
(上)種牡馬種
(下)種牡牛種
類別

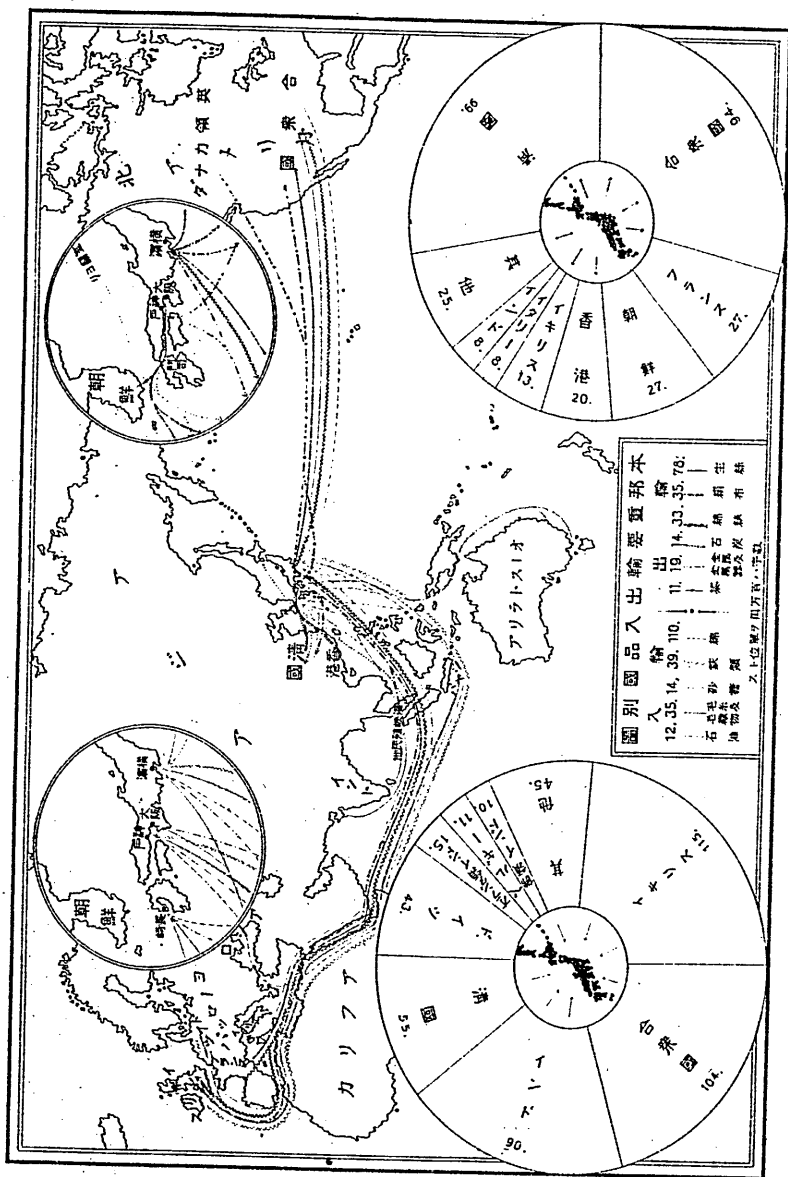
第七二圖
礦産物價
比較

金・銀の産亦少からず。鐵は岩手縣を主とし、石油は新潟縣の獨占とす。されど鐵・石油の輸入大なり。

漁業 水族に富めること世界屈指の一に居り、鰺・鰹・鯨・鱈・昆布等を主要の漁獲物とし、昆布・鰻その他の水産製造物は清國を大需要地とす。遠洋漁業には奨励金下賜の制あり。近年漸く盛ならんとし、漁船の改良すべき點亦多し。

工業 機械工業漸く進歩して、石炭の消費額次第に増加し、水力の利用亦漸く盛ならんとす。諸工業中心地は東京・大阪二市の内外、及び福岡縣の北部とし、最も注意すべき製品は綿絲・蠶絲。





織物等とす。

綿糸は現今約八十の紡績工場あり。北米合衆國印度及び清國産の棉花を原料とし、内國に供給する外、盛に清國に輸出す。蠶糸は長野縣以下蠶業の盛大なる地方に多く産し、全産額の三分の二強を外國に出し、輸出品の第一位を占む。織物は京都の絹織、群馬の絹綿交織、福井・福島の羽二重、愛知の木綿、滋賀の麻織等各特色あり。製鐵、製銅、造船、醸造等亦漸く盛なり。

二 商業・交通

新日本中等地圖 第十九圖 參照

商業 商業中心地は帝國の内外商業を左右する東京・大阪・横濱・神戸の外、名古屋・仙臺・福島・函館・小樽・廣島・福岡・臺北・仁川・釜山等の地方中心地あり。米・酒・綿絲・肥料・生絲を主要商品とす。貿易は五十個の開港場にて行はる。明治四十二年の總額は朝鮮を除きて八億圓を超え、約二千萬圓の輸出超過あり。主要輸出品は生絲・絹布・綿絲・綿布・石炭・茶等、輸入品は綿・米・鐵・石油・砂糖等なり。貿易國は通商條約ある二十三國

條約國名
北米合衆國
イギリス
フランス
ドイツ
ロシア
オーストリア
ア・ハンガリー
ギリシア
イタリア
スペイン
オランダ
ベルギー
デンマーク
スエーデン
ノルウェー
アイスランド
ポルトガル
メキシコ
ブラジル
アルヘンチナ
チリ
清國
シアン

中、米、清を輸出國、英、米、印度を輸入國の主なるものとす。

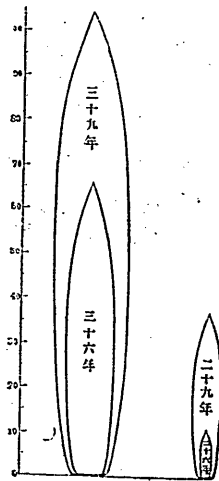
金融機關は日本銀行を初めとし、横濱正金、日本勸業、日本興業、北海道拓殖、臺灣等二千餘の銀行あり。

交通 鐵道は四國島を除く外は幹線を通じ、總延長約五千六百哩に達す。東京、大阪附近及び九州北部は最もよく發達す。又東京、京都、大阪、名古屋、京城等には電氣鐵道を通じて、市街地の交通愈便なり。國道亦殆ど改良せらる。

北海道本島の北部より鹿兒島に達する鐵道縱貫線は、延長約千八百哩あり。五晝夜内外にして達し得べく、又朝鮮の釜山より新義州に至る縱貫線は、延長約六百哩あり。約三十時間にして達すべし。

水運は近年戰役の結果、船艦の増加に伴ひて、大に發達の機運に向ひ、神戸、横濱を大

第七三圖
日清日露
兩戰役の
前後比較



中心として、盛に内外諸港を往復す。されど、外國取引の貨物は、今尚ほ外國船にて輸送するもの多し。

郵便電信は各地通ぜざる所なく、帝國郵便は萬國郵便聯合に加入し、清國にもその線路を延長し、北京、上海等に及ぶ。海底電信線は帝國諸大島及び九州、朝鮮を連絡し、四隣の諸外國に通ず。又無線電信の設備あり。主要商船に船舶局、沿海樞要の地に海岸局をおく。電話は都會に普く架設せられ、東京より仙臺、竝に佐世保、長崎の諸方面に長距離電話の便あり。

三 國民

人口 帝國の人口は年々六十餘萬人づつの増加あり。また領土の擴張によりて著しく増加し、現今六千萬を算するに至れり。その大部は村落に居住し、人口の配布は均一なる

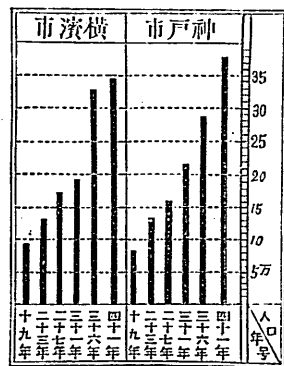
第七四回
都會人口
増加の趨勢

に近かりしが、近時商工業の發達と共に、都會の人口著しく増加するの傾向を呈せり。その内横濱・神戸・小樽・門司等殊に甚し。

又本邦人の清國・北米・合衆國等に在留するもの三十餘萬人あり。外人の我が邦に居留する者は二萬人に近く、清國人その半を占め、英・米人これに次ぐ。

族制 皇族・華族・士族・平民の別あり。皇族は皇室典範に定められたる天皇の御一族にして、親王・内親王・王・女王の稱あり。華族はその爵に公・侯・伯・子・男の五等あり。政治上多少の特權を有す。

朝鮮には前韓國皇帝李氏及びその一族の令聞あるもの



をして、王を稱せしめられ、その他の李氏の一族及びその、邦家に、大勞ありたるものに爵を賜はりて、朝鮮貴族に列せしめられたるものあり。

教育 國運の進歩に伴ひて、各種の教育大に發達し、初等教育には殆ど不就學兒童を見ず。中等教育は近年大に進歩し、各府縣數多の中學校・高等女學校あり。高等教育には三國立大學あり。七個の高等學校は大學に入るべき豫備をなし、又高等の學術を教授す。高等専門教育の官私立學校亦多し。東京・廣島・奈良に高等師範學校、各府縣には師範學校及び各種の實業學校等あり。

東京帝國大學は法理・醫文・工農の六分科大學、京都帝國大學は法・醫・文・理工の四分科大學より成る。東北帝國大學には農科大學あり。

朝鮮には各開港場に、夙に小學校の設けあり。又韓政府の設立に係る多數

の普通學校小學校の外、高等學校中學校高等女學校師範學校實業學校等あり。上流社會は一般に漢字を用ふ。

神社 我が邦、古來皇祖の神靈を初めとし、國家人民の爲に功績の著しき人をば尊崇して、祭祀する風あり。近くは故北白川宮能久親王を臺灣神社に合祀せられ、又靖國神社を建て、維新後國事に死したる人々を合祀せらるゝが如し。神社には官幣社・國幣社・府縣社・郷社等の社格あり。

伊勢神宮は皇室の太廟にして、その崇敬最も篤く、國家の大事には必奉告の式を行はせらる。祭主は皇族を以てこれに補せられ、天皇の大御手代として奉仕せしめらる。宮殿は二十年毎に改造し奉る制にして、最近の式年遷宮は明治四十二年に舉行せられたり。

宗教 外國の如く盛ならず。神道に十三派、佛教には眞・眞言・淨土・天台等の十二宗あり。耶蘇教は未だ普及せず。

四 政體

帝國は東洋唯一の立憲君主制にて、萬世一系の天皇は一國の元首として、萬機を總攬し給ふ。國體の美、世界に冠たり。その下に立法・行政・司法の三大機關及び樞密院・會計検査院あり。

(1) 立法權は貴族衆議の兩院より成れる帝國議會これに參與し、法律案及び豫算を議決す。

(2) 行政權は中央政府これを掌る。内閣及び外務・内務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・逓信の九省あり。内閣總理大臣及び各省の長官たる國務大臣を以て内閣を組織す。地方には臺灣・朝鮮に總督、北海道・樺太に長官、租借地・關東州に都督あり。その他を三府四十三縣に分ち、知事をおきてこれを管す。郡市町村には各その長あり、下級行政を掌る。

(3) 司法權は裁判所これを掌る。その最下級を區裁判所とし、

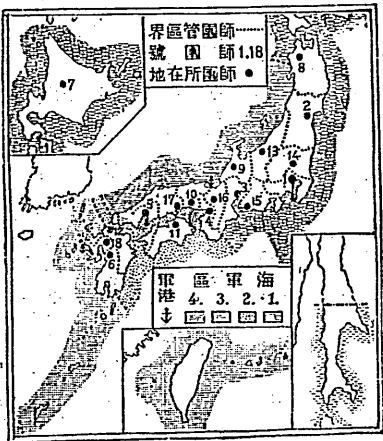
その上に地方裁判所・控訴院・大審院あり。

又行政裁判所あり行政に關する訴訟を判決す、臺灣には覆審法院、地方方法院、關東州には高等法院、地方法院あり、一切の事件を判決す。

五. 軍備

新日本中等地圖 第二十圖 參照

第七五圖
陸海軍管
界區管國師
號圍師1.18
地在所區師



帝國の軍隊は天皇の統帥し給ふ所にて、元帥府をその最高顧問とし、軍事參議院ありて、重要な軍務を諮詢せらる。又陸軍に參謀本部、海軍に軍令部ありて、國防用兵の事を掌る。

陸軍 歩騎砲工輜重交通
電報 氣球 諸兵及び憲兵警備軍樂の諸隊より成り、臺灣樺太朝鮮を除きて、全國を十八師管に分

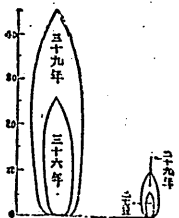
第七六圖
日清戰役
兩軍比較
戰役前後
艦の露

ち、近衛師團及び十八師團を編制して、衛戍せしむ。一師團は概ね歩兵二旅團(四箇聯隊)、騎兵、野砲兵各一聯隊、工兵、輜重兵各一大隊より成る。

海軍 朝鮮を除きて全國を四海軍區に分ち、區毎に軍港をおき、各軍港並に旅順口に鎮守府を設く、艦艇は戰鬪艦、巡洋艦、砲艦、水雷驅逐艦等百二十餘隻、約五十萬噸あり、鎮守府に分屬す。

兵員 陸海軍の兵員は徵兵法によりて徵す。帝國臣民にして滿十七歳より滿四十歳までの男子は總て兵役に服する義務あり。

兵役の種類、服役年限等は次の表にて知るべし。

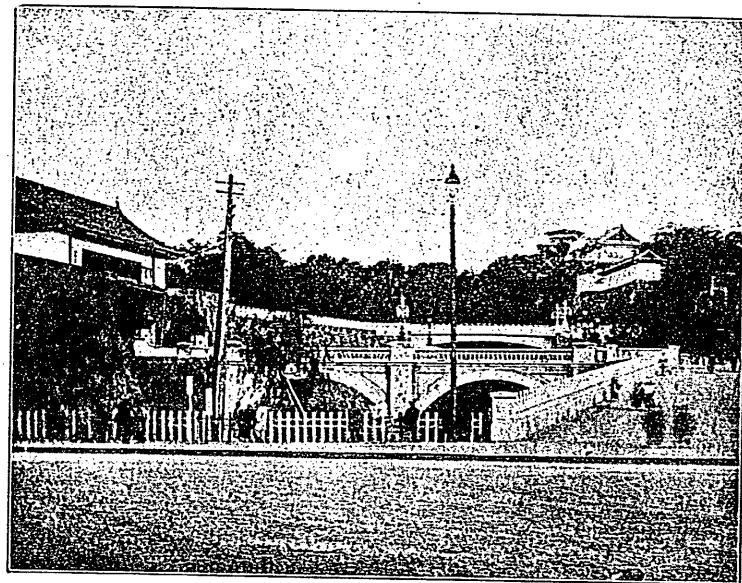


兵役の種類額		服役年限		服役者の種別
常備兵役		現役	陸軍三年 海軍四年	満二十歳に至りたる者これに服す
豫備役		陸軍四年 海軍三年		
後備兵役		陸軍十年 海軍五年	常備兵役を終りたる者これに服す	
補充兵役		陸軍十二年四月 海軍一年	其年所要の現役兵員に超過せる者の中所要の人員これに服す	
國民兵役		第一	陸軍にては後備兵役又は召集せられたる補充兵にして其役を終りたる者海軍にては後備兵役を終りたる者これに服す	
		第二	以上各種の兵役に在らざる者これに服す	
警備隊をあきたる島地の壯丁は一年間その警備隊に服役せしむ				

警備隊をもちたる島地の壯丁は一年間その警備隊に服役せしむ

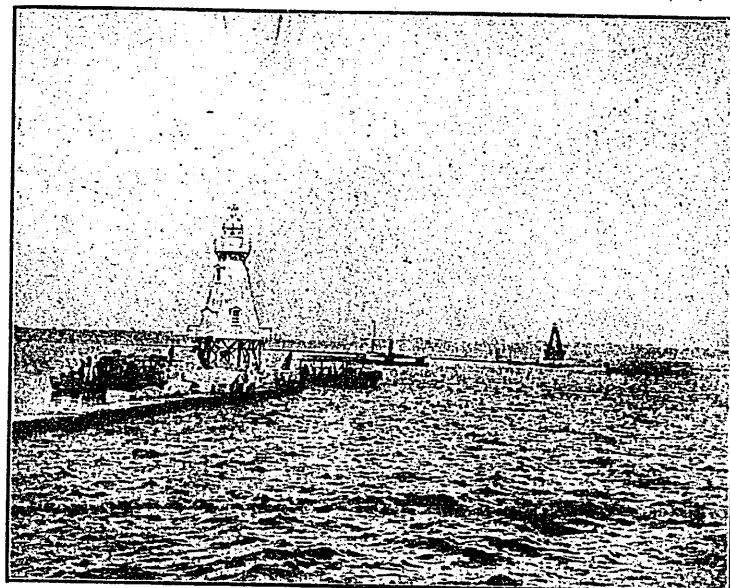
訂正四
新日本中等地理
本邦の部終

第一圖



(りあに門正の城宮) 橋 重 二

第二圖



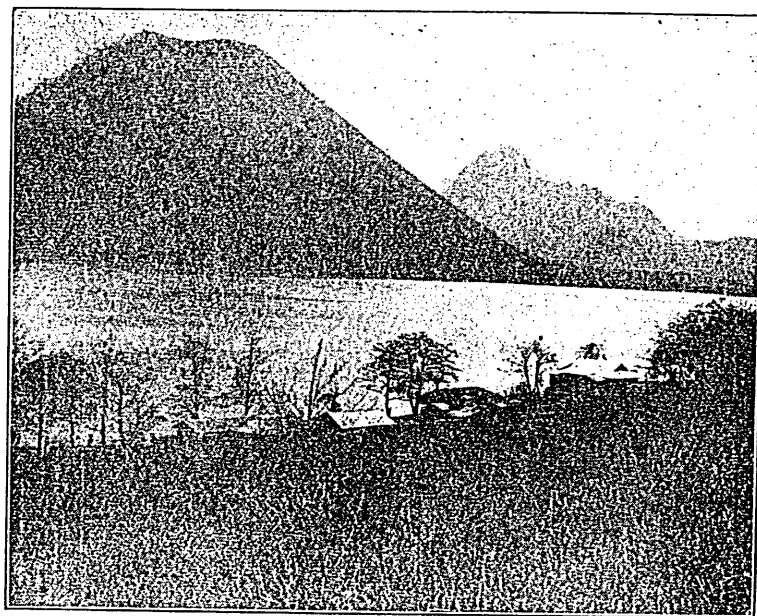
角六色紅はのき遠。に端堤水北てに形角六色白はのき近
りな里海七離距途光。弱光燭百力光。りあに端堤水東てに形
臺燈港濱横

第三圖



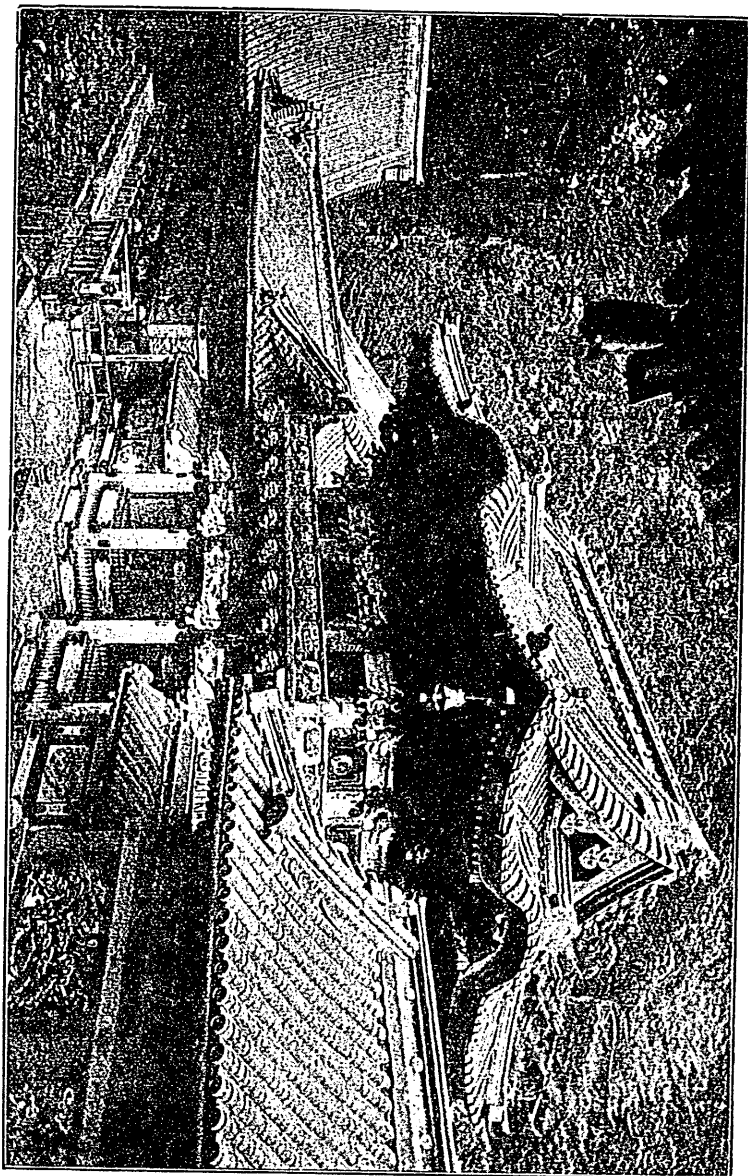
(りあに園公二第市戸永) 堂角六碑館道弘

第四圖



(りな岳馬相はるあに右の士富名様) 湖名榛と士富名榛

第五圖

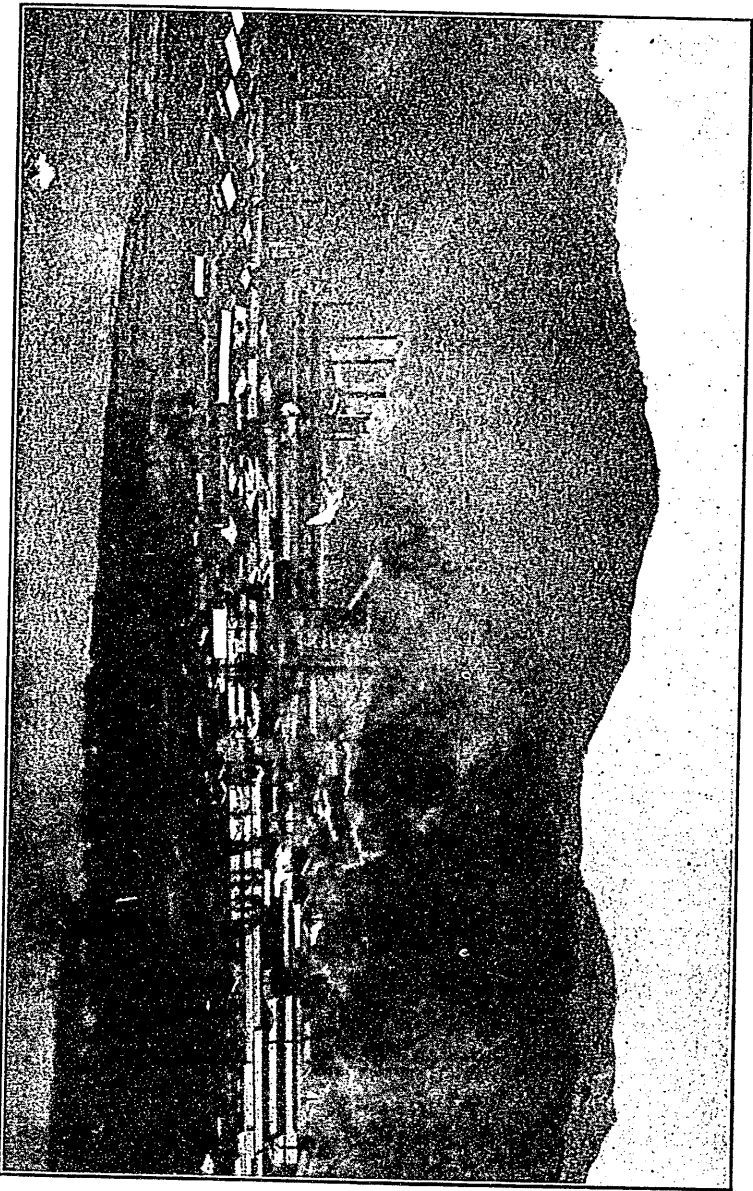


(ふいと門し暮日に餘) 門 明 陽 光 日



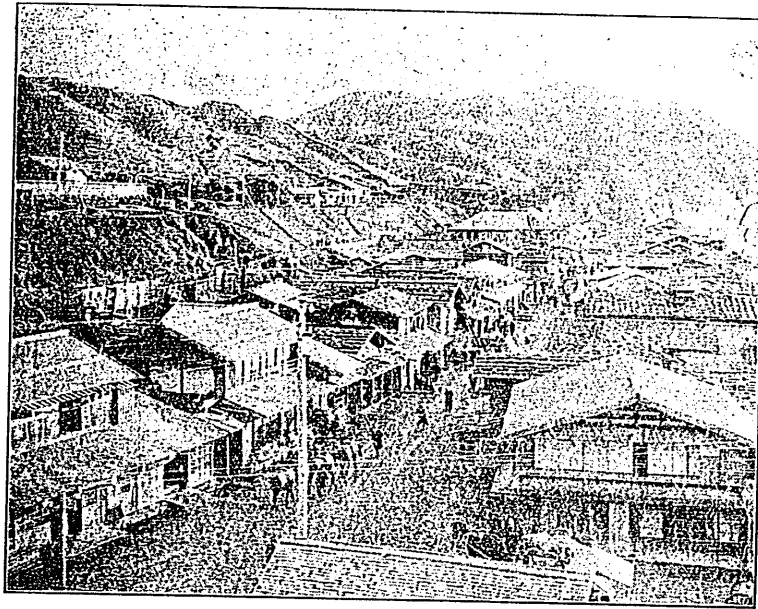
第六圖

(す賀道りゝ森南大島戸宮ゝらせ冊さ一第の觀大四島船) 島 松



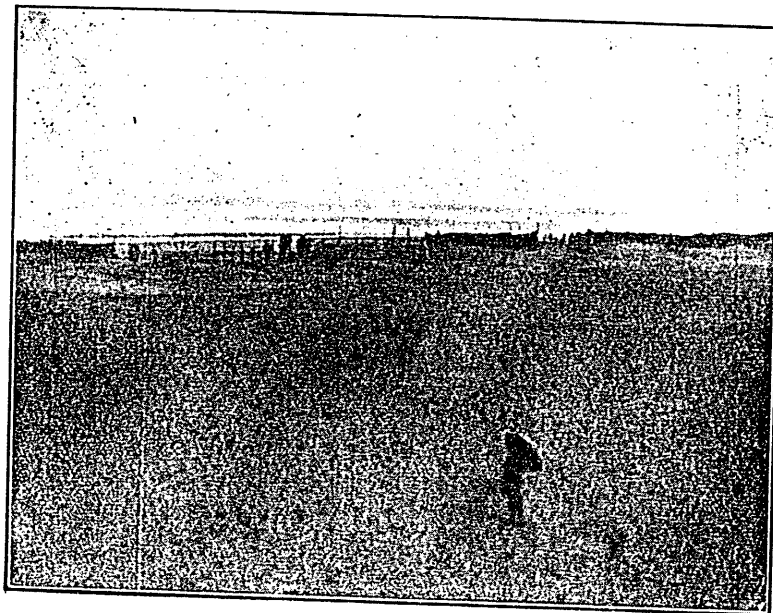
第七圖

(密經氏中田) 塙工本山嶺石釜



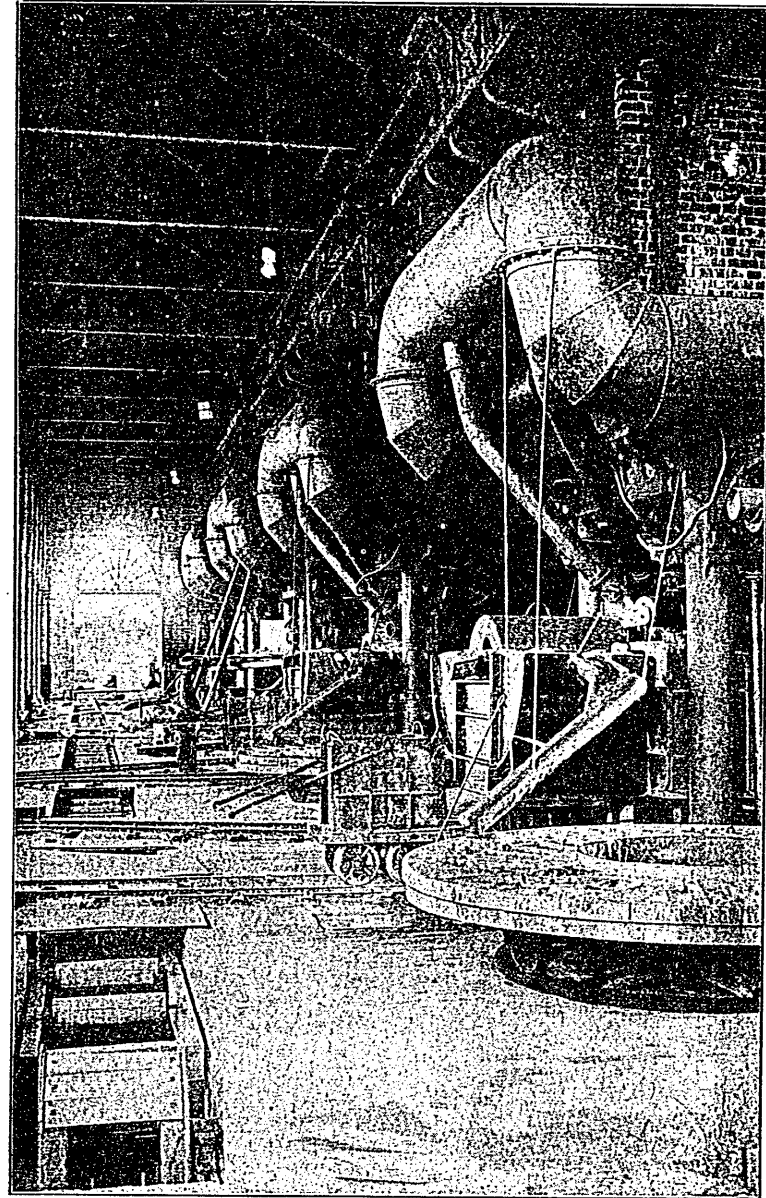
小坂市街 (尼部方面)

第九圖



山形縣袖浦海岸の砂丘

第二〇圖



小坂鑛山熔鑄場

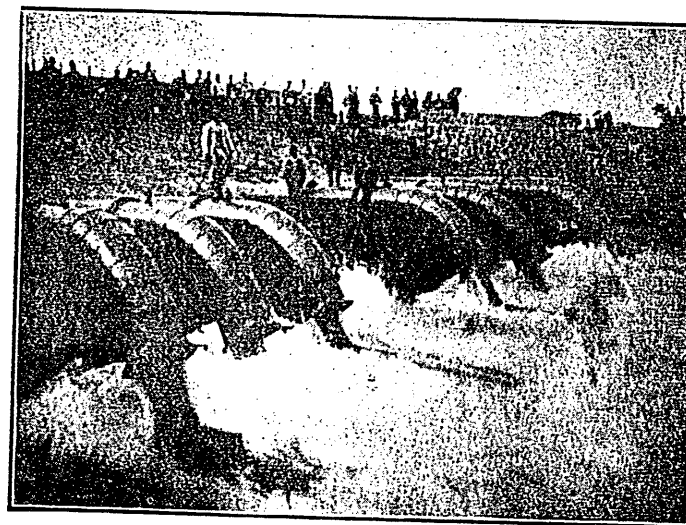
第八圖

第二圖



富士山 (田子浦より望遠)

第三圖



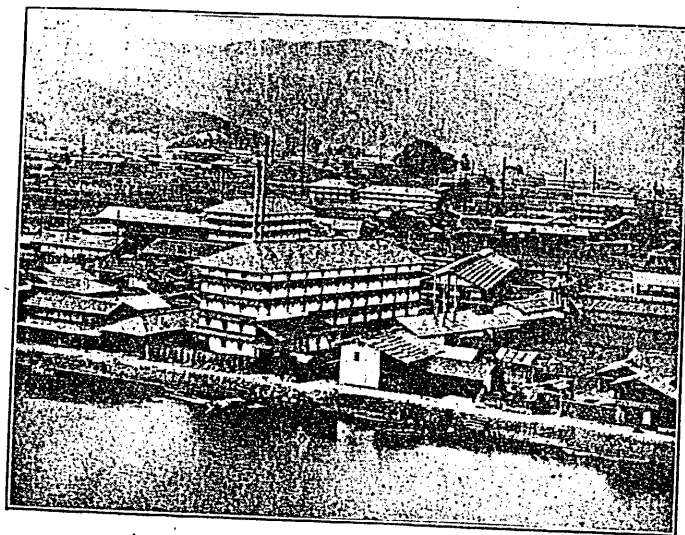
孫寶利組合排水の實況 (管の口径四寸一時晝夜排水量二百萬石)

第三圖

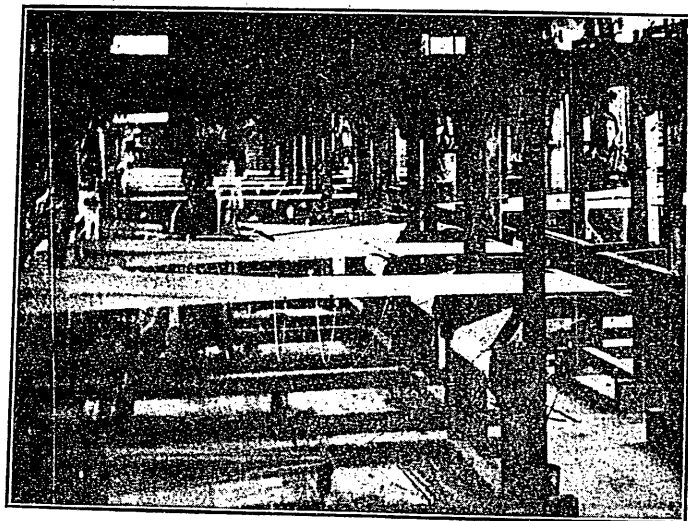


瀬戸陶器窯と附近の禿山

第四圖

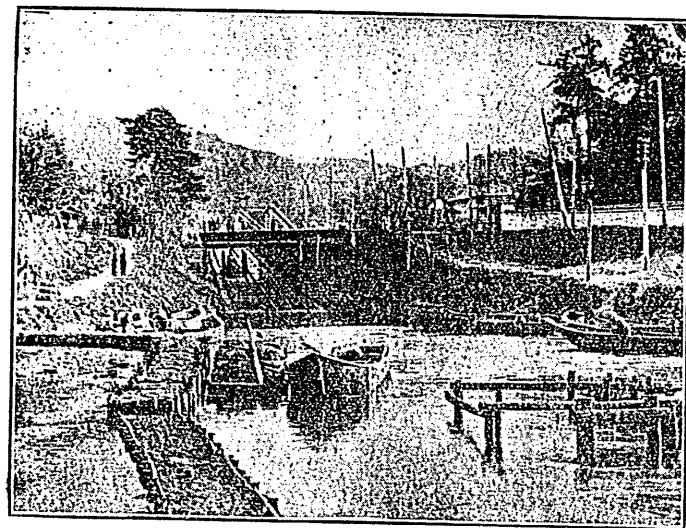


平野村製絲場 (諏訪湖畔にあり)



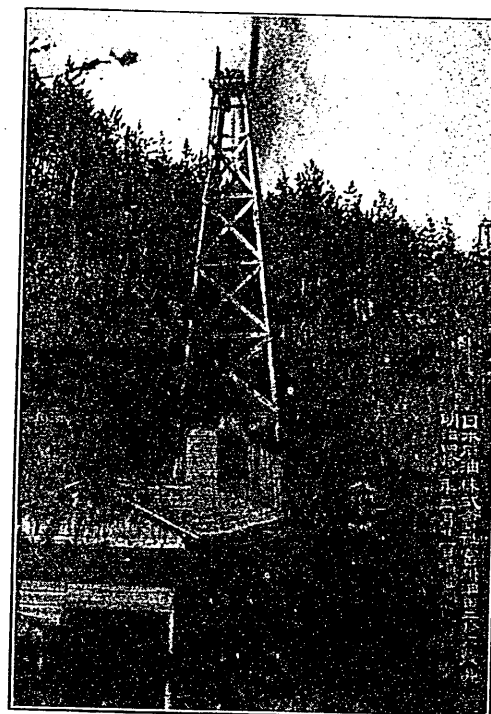
第一七圖

(市井福) 部内場工重二羽



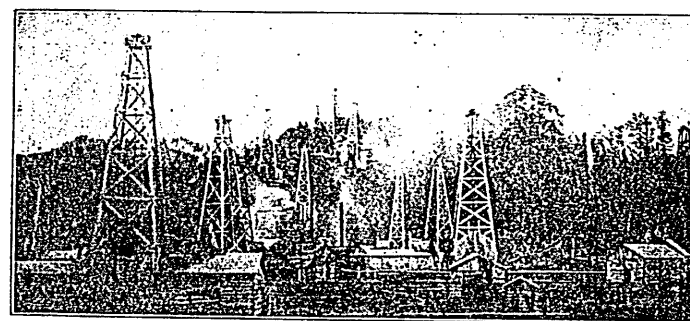
第一八圖

(上瀬口田栗市都京) シイラクニイ水疏湖琵琶



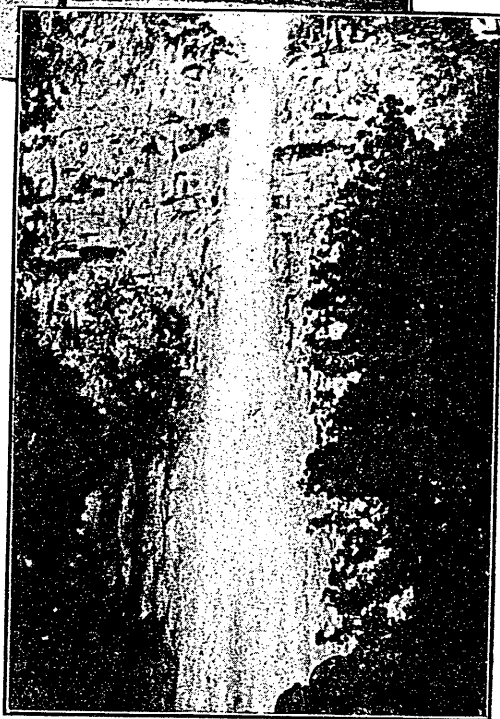
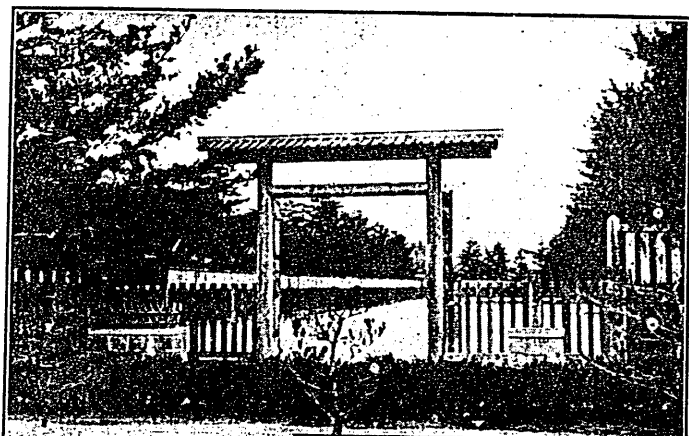
第一五圖

(公經社會油石本日) 油噴の田油川宮

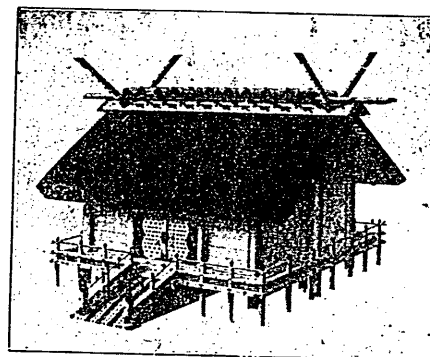


第一六圖

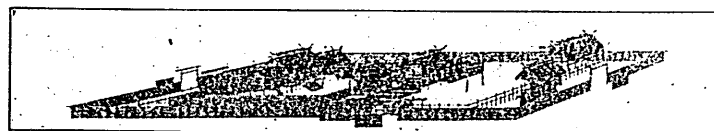
(内の田油山西) 井油場礦谷西嶺長村田二



第二圖(上) 神武天皇畝傍山東北陵
第三圖(下) 那智瀧(二ノ瀧)



第一九圖(甲) 內宮正殿

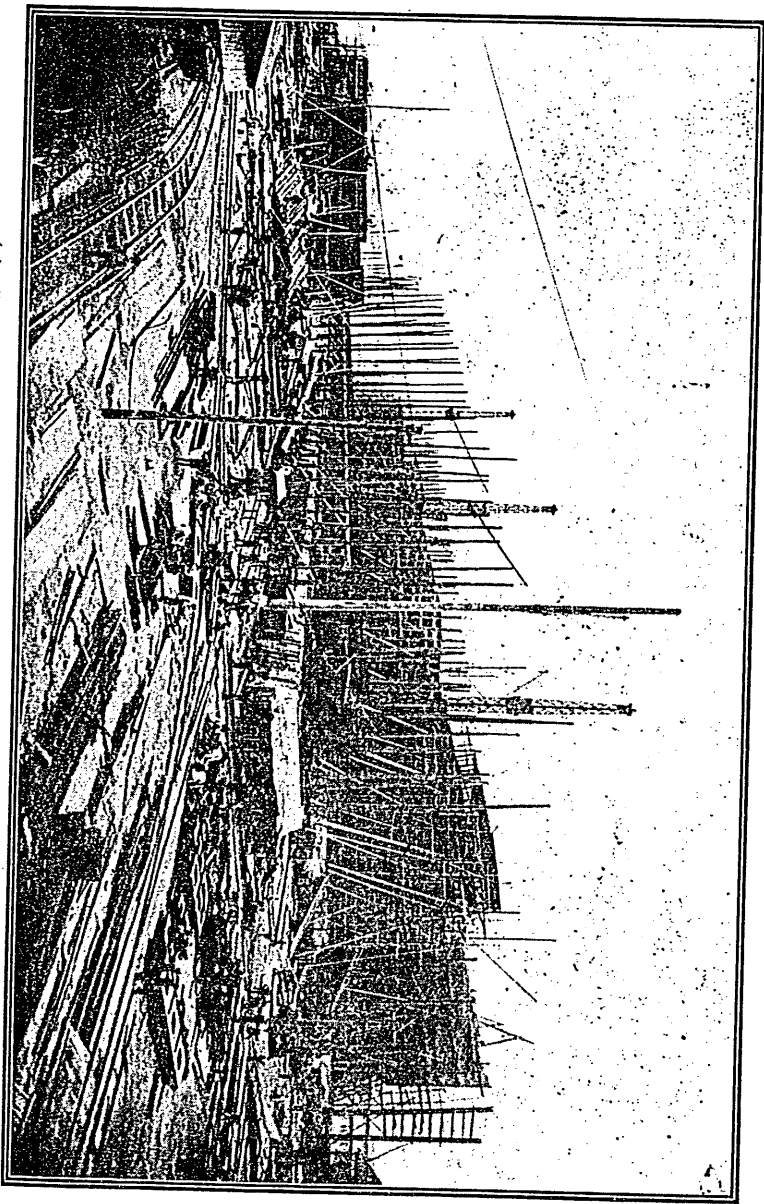


第一九圖(乙) 內宮境內



第二〇圖

(管經氏本木御) 場殖養珠真淵廣英



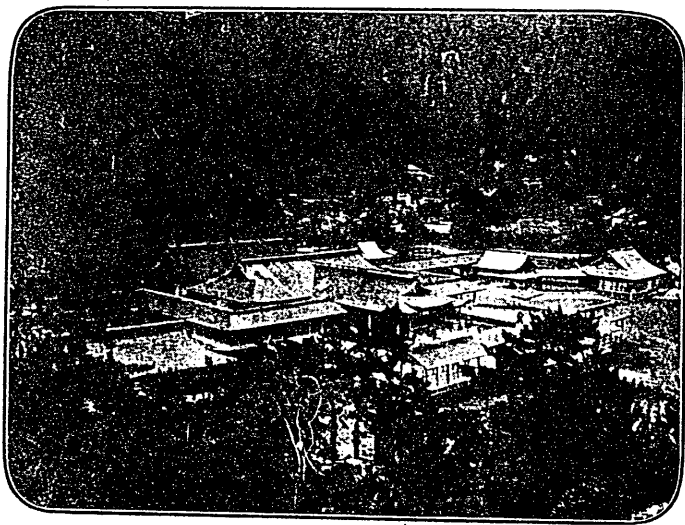
(りあ貨三のしの中建造。内の所船造崎川戸神) 船造新諸るけ於に上落船造

第二四圖

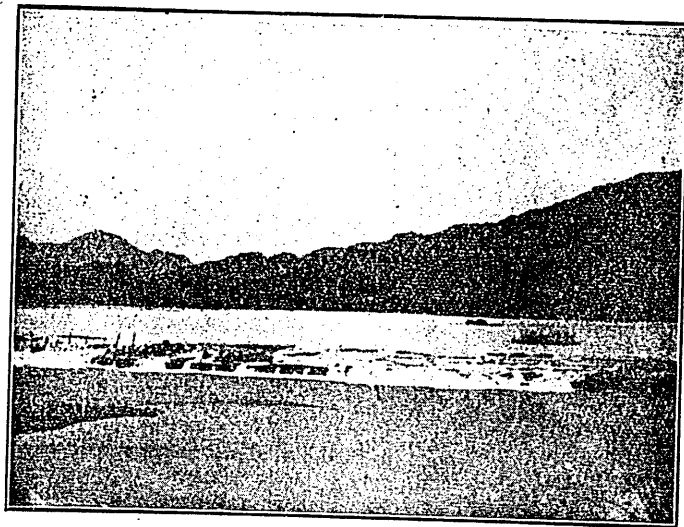


(例一るな名著の田鹽法漬入) 田鹽穂赤

第二五圖

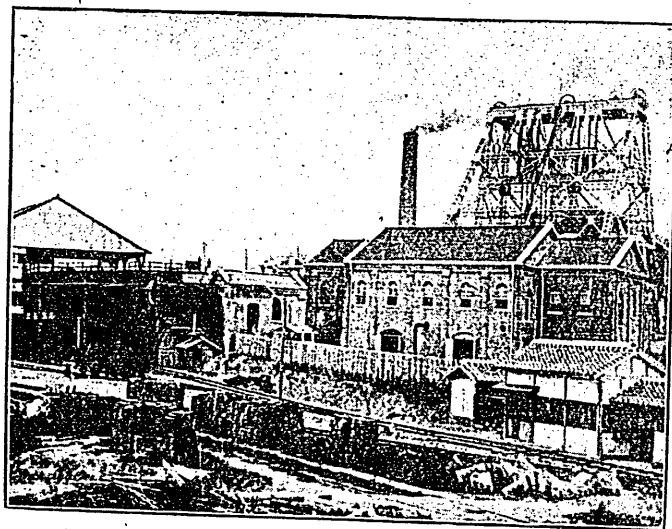


(る祭を島市) 景全社神島殿



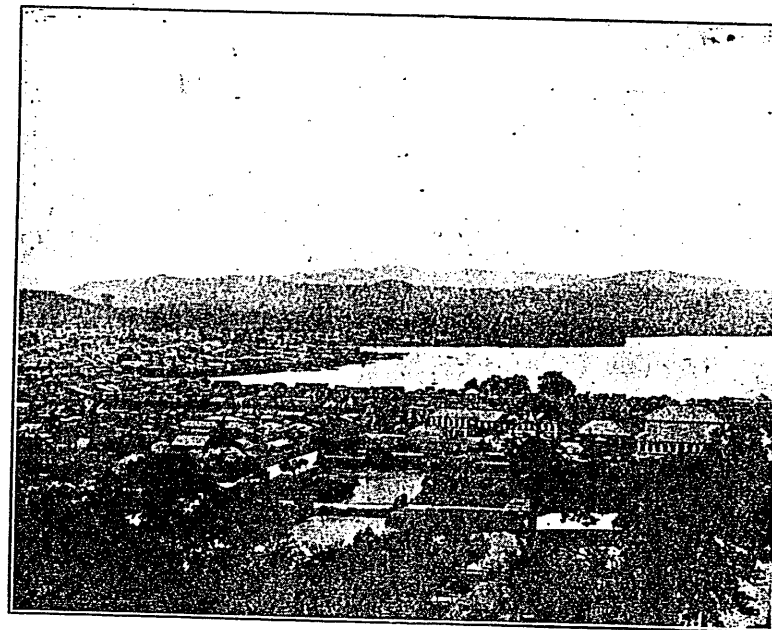
第二八圖

（りな一の業偉山兼中野りあに村田鎌郡岡高くに域流の川淀仁）堰 田 鎌



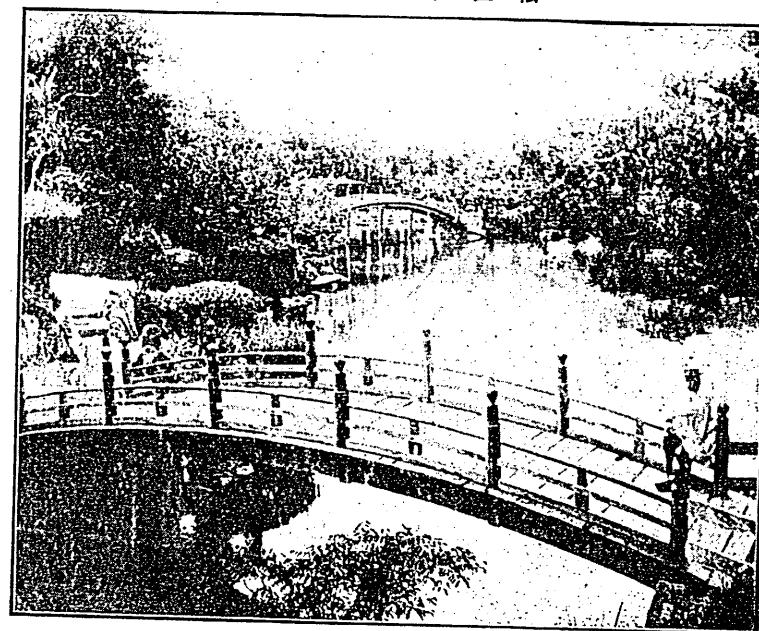
第二九圖

（噸千二夜壘一量揚捲坑豎）部一の山炭池三



第二六圖

湖 道 央 と 市 江 松



第二七圖

部一の園公林栗



鹿兒島市街と櫻島

第三圖



檳榔樹の植林(嘉義附近)

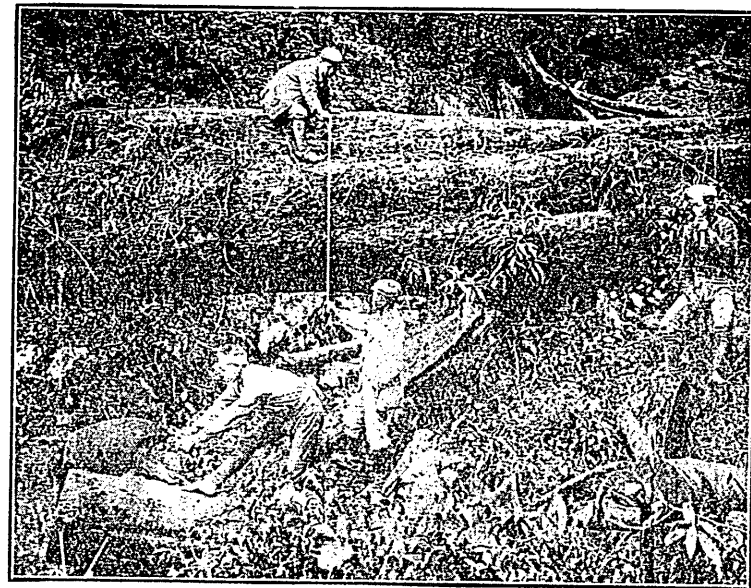
(學生會館前之徒兒(學生會館前之徒兒))

第三四圖

第三圖 椎茸培養

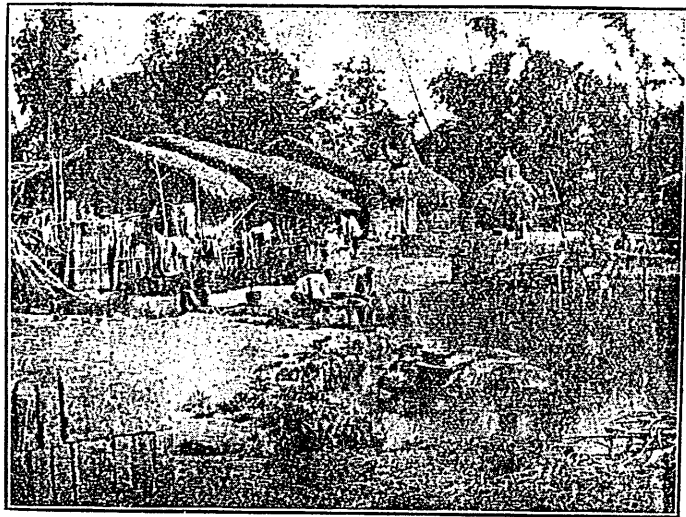


第三〇圖 阿蘇火山(中央火口丘の噴煙)



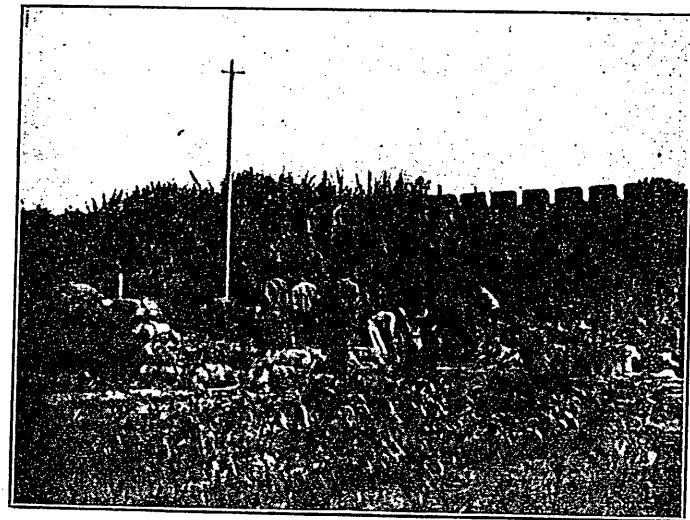
(檢尺なる石樹木に地上之の所に一周五尺三寸あり)

第三圖 宮崎縣林業



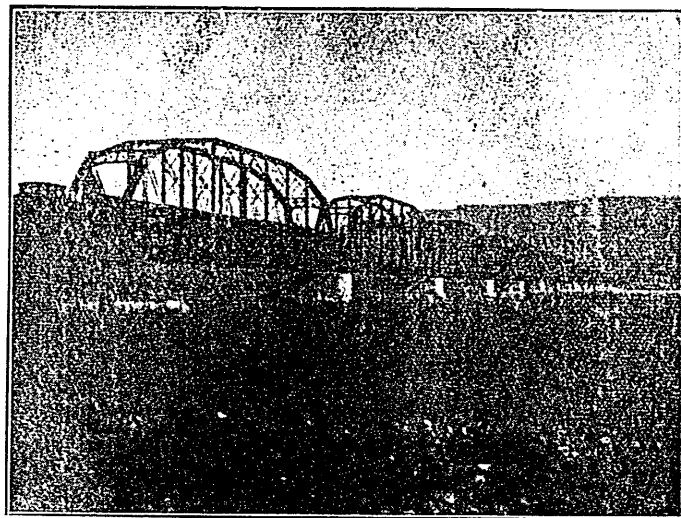
第三七圖

(る見を牛水の頭二に部中) 落村の潟臺



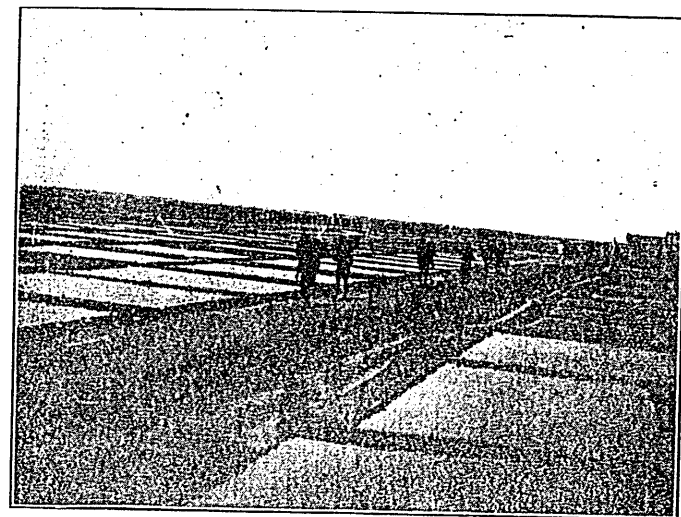
第三五圖

(港水鹽) 穫收の蔗甘



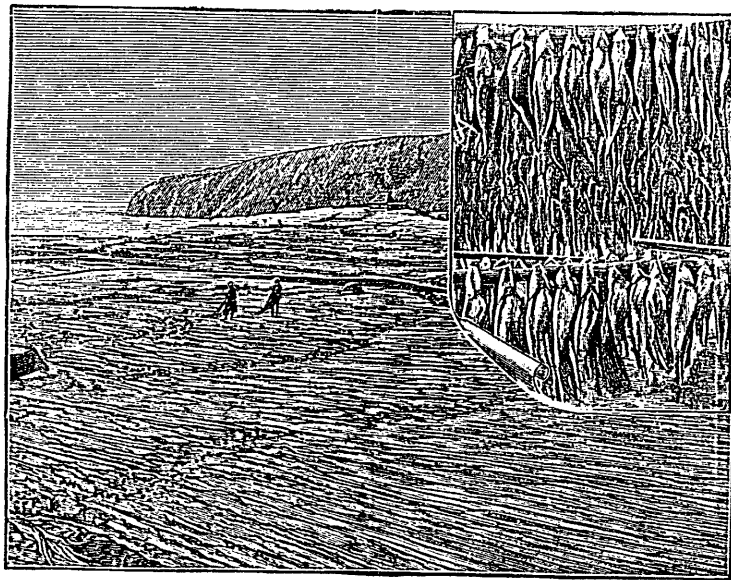
第三八圖

(中過通車汽) 橋鐵の溪水濁



第三六圖

(りな塩はるあゝつし搬運の夫人) 塙鹽製日天の潟臺ち即塙塩



鯧棒と(中濱國路新)燥乾の布昆

第四〇圖



(りな樹用有の要主道海北はと般り丸に里斜國見北) 林松椴

第四一圖



東京帝國大學理科大學人類學教室所藏寫眞による



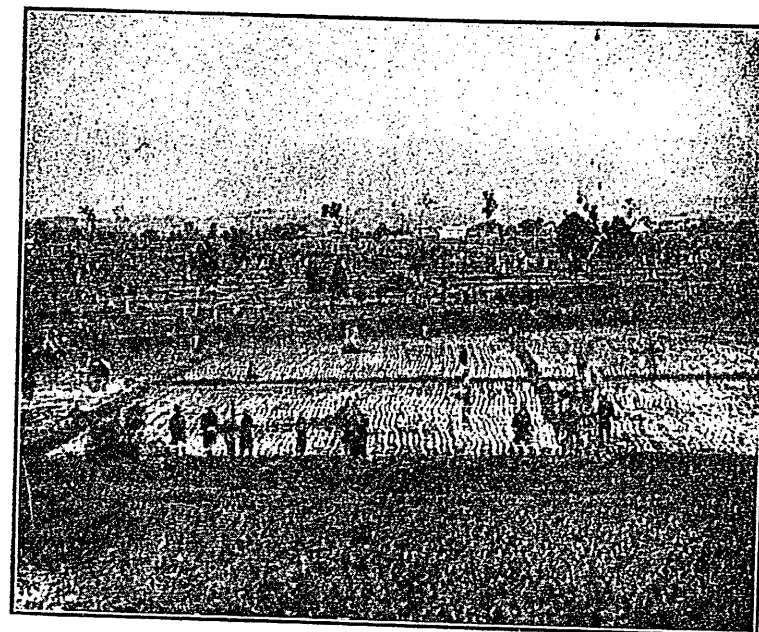
第三九圖



臺灣蕃人及其鯨

臺灣の生蕃は其の種族十以上に及ぶも、何れも馬來種に屬す。口風俗言語の相違あるのみ。圖に示せるは北部に住して、自らダイヤルと稱する生蕃の男女にて、男は頭部に鉢巻を用ひ、額及び下顎に直線狀の黥を施し、女は兩頬に網狀の黥を施す。又耳朶に小き管狀を入し、之に裝飾品を貫く。好みて烟草を用ゆ。衣は筒袖の上衣を用ひ、又粗き毛布を纏ふ。性質最も慓悍にして、臺に首狩を行ふ。

第四二圖



(内地谷大村田藤郡内岩國志後) 地墾開新道海北

第四三圖



(中川使ウラプクスデ。内場牧冠新) 耕馬

第四四圖



宅居の其び及ヌイア

(るよに眞寫藏所室教學類人學大科理學大國帝京東)

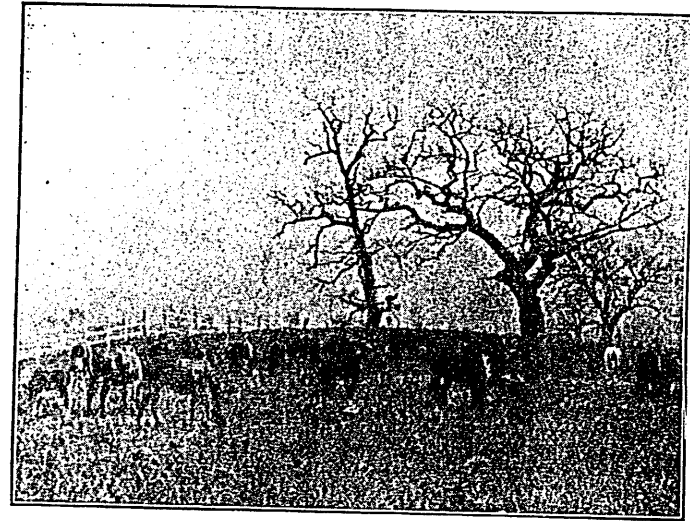
アイヌは全身多毛にして、男子に鬚髯多く、且つ之れを貴重す、女子は口邊に入鬚を施す。風習粗野にして、開化の度低し。男子は漁獵な事とし、弓箭に長じ、毒矢を用ゐて熊を捕へ、嗜みて其の腦を生食す。衣服は楡樹の纖維にて織れるアツシを以て作り左袒に着す。食物は百合の根にて製したる澱粉、及び粟稗を用ゐ、男子は殊に酒煙草を嗜む。家は土中に柱を建て、茅を以て葺く、大抵(テ)と稱する物置あり。其の構造は床を高くし、鼠害を防ぐべき用意をなせり現今その部落は日高國沙流川沿岸の平取及び其の附近に多し

第四七圖



眞岡港（唯一の凍港な）

第四五圖



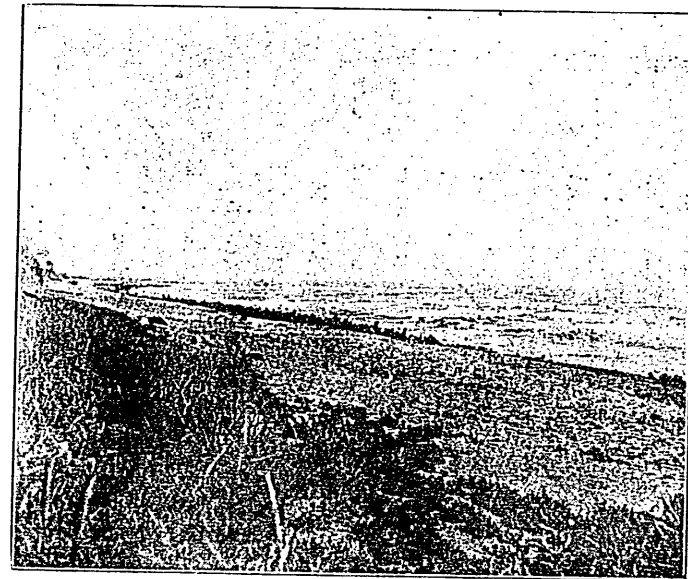
新冠御料牧場の放牧（日高國）

第四八圖

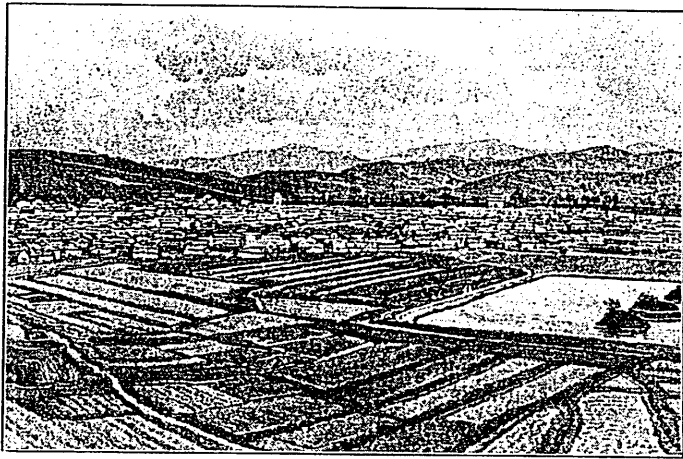


朝鮮人上流社會の風俗

第四六圖

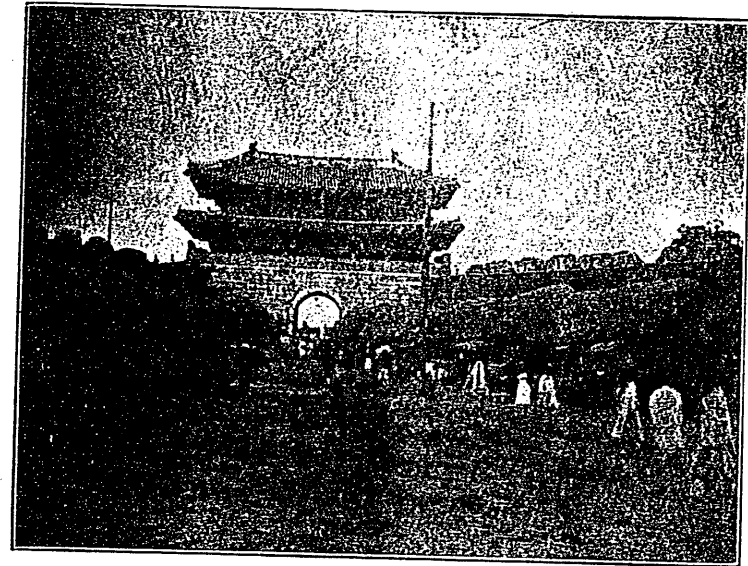


海豹島海岸の臘腸獸（分級期に群集する八月九日の候は千頭内外算す）



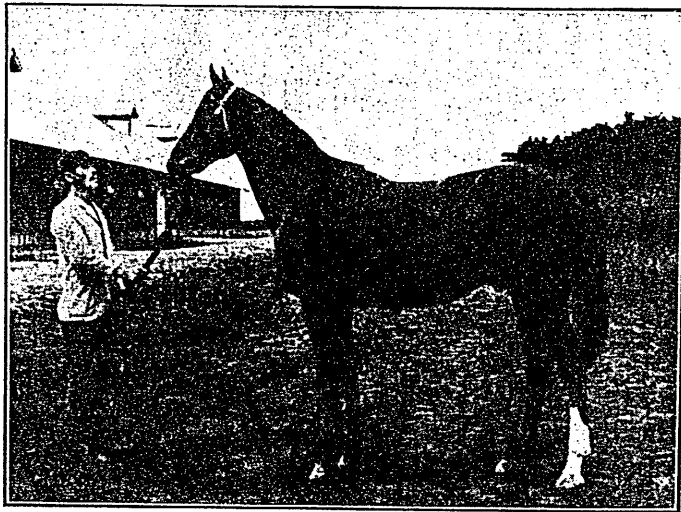
畑 参 人 の 城 開

第五一圖



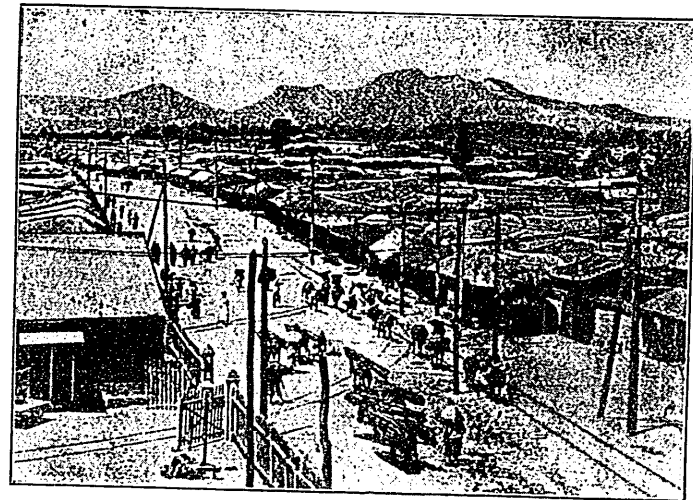
門 大 南 城 京

第四九圖



(養 飼 場 農 井 岩 小) 馬 牡 種 ト ツ レ ブ ラ サ

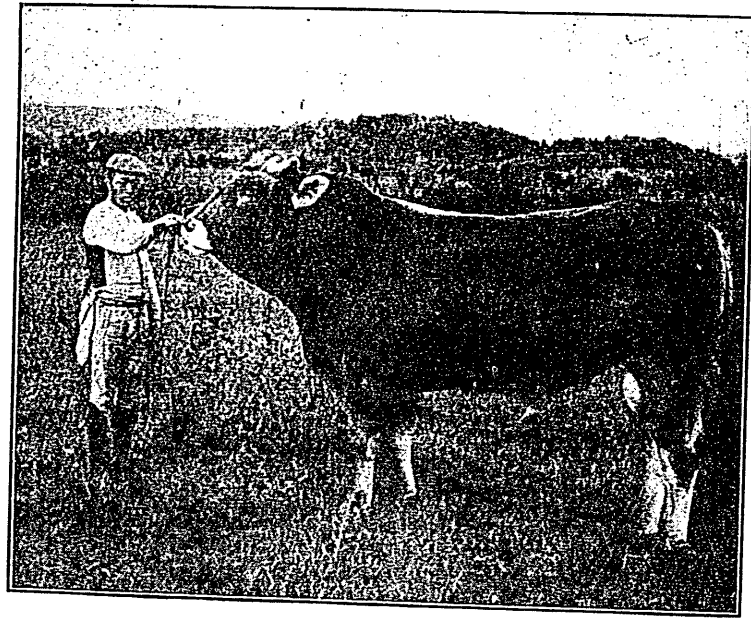
第五二圖



部 一 の 街 市 城 京

第五〇圖

第五三圖



(養飼場農井岩小) 牛牡種スイウスンウラブ

第五四圖



(林造人年十五齡林村門龍郡野吉) 林滑泥柏扁杉

明治四十三年十一月十日印刷
明治四十三年十二月十八日發行

訂正 新日本中等地理本邦之部
定價 金八十錢

著作權
所有
原圖不許複製

著者 本莊 太一郎

著者 草野 甚太郎

印刷者 兼 合資 會社 吉川 弘文館

代表者 吉川 半七

印刷所 株式 會社 秀英舍第一工場

發行所

東京 京橋區 南傳馬町二丁目
電話 本局六九七
振替 東京二四四

合資 會社 吉川 弘文館



